

K y u s h u

I n s t i t u t e o f

T e c h n o l o g y

平成27年度

## 現状と課題

九州工業大学大学院工学研究院・工学府・工学部自己点検・評価報告書

九州工業大学大学院工学研究院部局評価委員会

# 目 次

1	はじめに	1
2	工学部・工学府・工学研究科の教育	
2.1	2015年度卒業生アンケート（工学部）	2
2.2	2015年度修了生アンケート（工学府）	35
2.3	教育達成度評価アンケート：雇用主（2013年3月以前卒業生）	59
2.4	教育達成度評価アンケート：雇用主（2013年3月以前修了生）	65
2.5	教育達成度評価アンケート：卒業生（2013年3月以前卒業生）	71
2.6	教育達成度評価アンケート：修了生（2013年3月以前修了生）	77
3	大学院工学研究院・工学府・工学部の管理運営	
3.1	大学院工学研究院・工学府・工学部の組織図	83
3.2	各種委員会活動の点検・評価	84
3.2.1	大学院工学研究院部局評価委員会	84
3.2.2	工学部教務委員会	85
3.2.3	工学部学生委員会	90
3.2.4	工学部入学試験委員会	92
3.2.5	大学院工学府・工学部安全環境委員会	93
3.2.6	大学院工学研究院学術情報委員会	94
3.2.7	工学部広報委員会	96
3.2.8	大学院工学府学務委員会	99
3.2.9	大学院工学府入学試験委員会	102
3.3	教員組織	105
3.3.1	教員の配置	105
3.4	事務組織	107
4	大学院工学研究院・工学府・工学部の財政	
4.1	運営費交付金配分状況	108
4.2	科学研究費補助金の採択状況	109
4.3	外部資金導入状況	110
4.3.1	寄附金（奨学寄附金）	110
4.3.2	共同研究	110
4.3.3	受託研究	110

4. 3. 4	寄附講座	111
4. 3. 5	寄附金の利息	112
5	大学院工学研究院・工学府・工学部と社会とのつながり	
5. 1	地域貢献活動	113
5. 1. 1	大学公開	113
5. 1. 2	公開講座等	114
5. 1. 3	北九州市民カレッジへの協力	118
5. 1. 4	出前講義	119
5. 1. 5	情報公開	127
5. 2	学生の国際交流	128
5. 2. 1	外国人留学生（国籍別・課程別・費用別）在籍状況一覧表	128
5. 2. 2	外国人留学生（学科別・専攻別）在学状況一覧	129
5. 2. 3	学生の海外派遣	130
6	おわりに	134

# 1. はじめに

平成27年度版九州工業大学大学院工学研究院・工学府・工学部自己点検・評価報告書「現状と課題」をここに発刊する運びとなりました。

本報告は、この「はじめに」の章に続けて4つの章

第2章 工学部・工学府・工学研究科の教育

第3章 大学院工学研究院・工学府・工学部の管理運営

第4章 大学院工学研究院・工学府・工学部の財政

第5章 大学院工学研究院・工学府・工学部と社会とのつながり

から成り、工学研究院・工学府・工学部の活動の評価資料です。

大学組織にとっても継続的に改善を行っていくことは極めて重要なことではありますが、そのためには現状を把握し、その評価結果を分析・記録し続けることが必要です。

本報告では大学における活動の実情のデータに加え、修了・卒業を控えた学生、修了・卒業した学生、修了生・卒業生を受け入れた企業に対するアンケートも実施し、その結果を分析しています。

これらの記録や分析結果は、各種委員会や教員にフィードバックし、大学の教育・研究の改善に繋げるべく利用されるものです。

なお、本報告書は平成18年度版以降、閲覧を便利にしてより社会に開かれた状態で大学の役割を知って頂けるよう、工学部のホームページにて掲載しております。

平成29年3月吉日

佐久間 治（大学院工学研究院部局評価委員会委員長）

## 2 工学部・工学府・工学研究科の教育

### 2.1 2015年度卒業生アンケート（工学部）

※アンケート実施年月日 平成28年2月12日

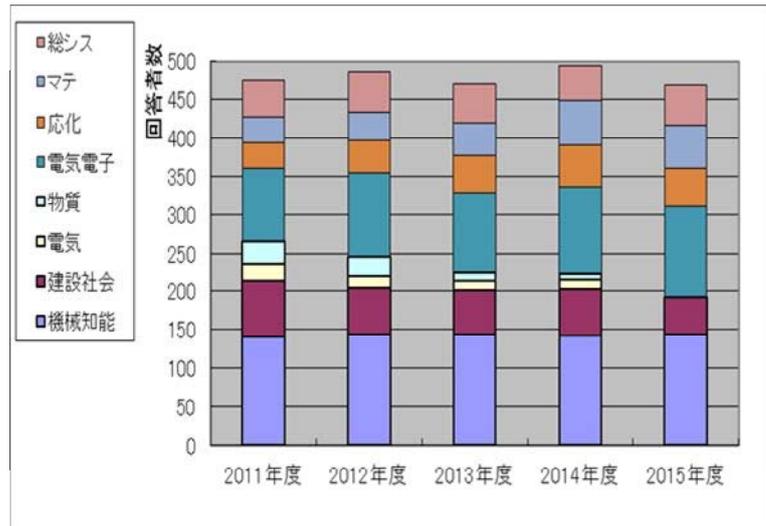
※アンケート回収率

学年	配付枚数	回収枚数（回答率）
4年生（卒業予定者）	543枚	469枚（86.3%）

[1]所属する学科・コース名を書いて下さい。

機械知能工学科（144名）  
 建設社会工学科（49名）  
 電気電子工学科（117名）  
 応用化学科（50名）  
 マテリアル工学科（57名）  
 総合システム工学科（52名）

回答者数はここ数年大きな変化はなく、回答率は今年は86%を超えているので、この程度の状態を維持できれば宜しいと思われる。



[1-1] 3年次編入の人は [ ] に○を入れて下さい。 [20名]

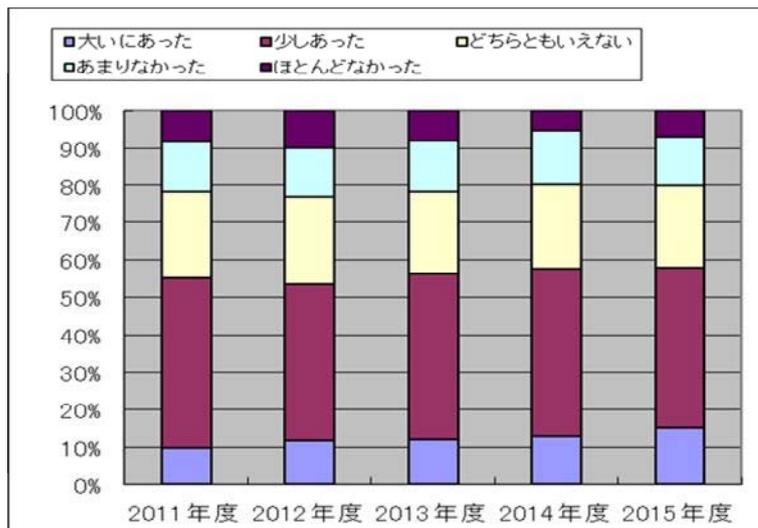
今年は過去5年で最低の20名であったが、全回答数に対する割合は、全入学者数に対する編入学者数の割合よりも高い。編入生は大学に対してのつながりを好意的に捉えてくれていると判断される。ただし、20名は統計的な解析が行えるぎりぎりの数であり、ここ3年の減少に加えて今後さらに減少するようであれば、何らかの対策をとる必要があると考えられる。



[2]大学教育があなたの成長（自己形成）に及ぼした効果についてお尋ねします。

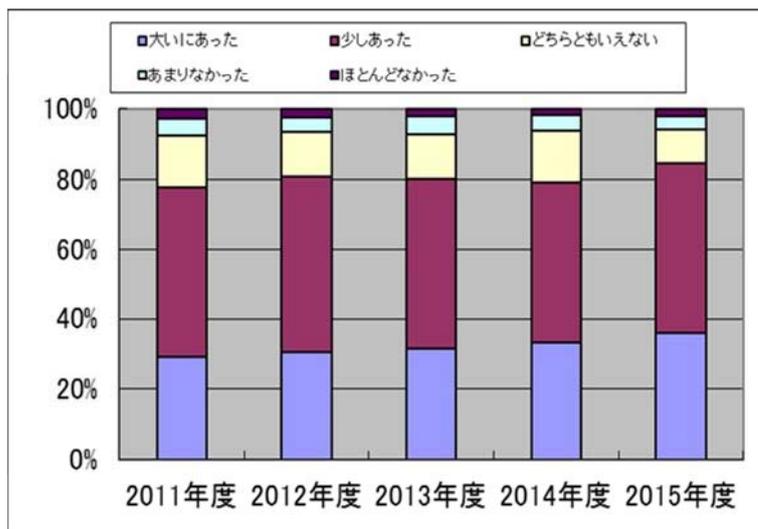
[2-1]人間科学科目はあなたの自己形成に効果がありましたか。（法学、経済学、社会学、哲学、倫理学、歴史学、語学、保健体育学、文学、教育学等）

ここ数年来、「あまりなかった」および「ほとんどなかった」という否定的な回答をした者の割合は 20%程度に維持されている。これは、人間科学科目において学生が教育内容・状況を望ましく受入れていることと判断される。なお、今後、保健体育学がカリキュラムから削除されるので、今後の動向も注意すべきである。



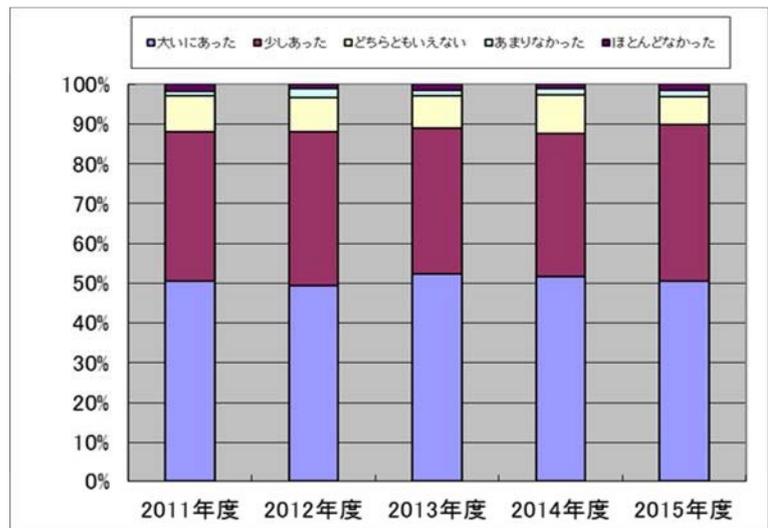
[2-2]工学基礎科目はあなたの自己形成に効果がありましたか。（数学、物理学、化学、情報関連基礎科目）

前問と同様、ここ数年来の傾向の変化は極めて少なく、「大いにあった」および「少しあった」と回答した者の割合が 80%前後の高い水準で維持されている。逆に効果を否定的に評価した者の割合はかなり少なく、これにより工学基礎科目の教育が望まれる内容・状況に維持されていると判断され、今後もこの状態が維持されれば望ましい。



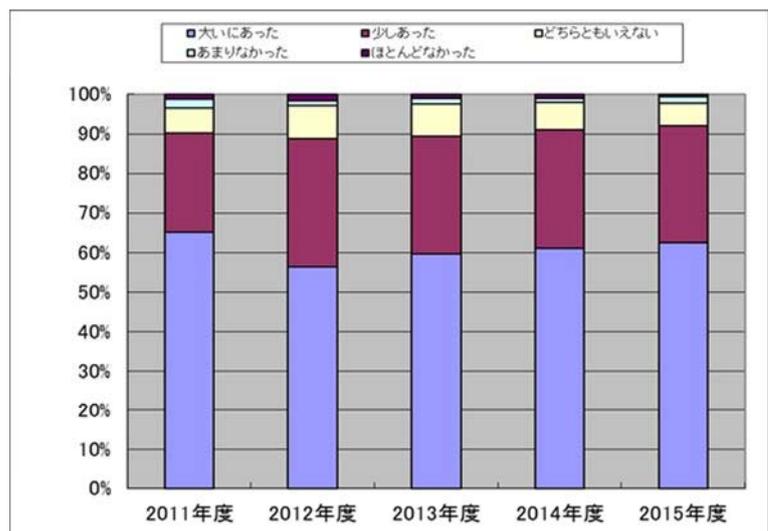
[2-3]工学専門科目はあなたの自己形成に効果がありましたか。

これまでと同様に、「大いにあった」および「少しあった」と回答した学生の割合は 90%に近い高い値を示している。本学の工学専門科目教育がこのように、学生にとって充実した内容で実際に役立っていると感じてもらっていることは、極めて好ましいことであり、これが維持されることが望まれる。



[2-4]卒業研究はあなたの自己形成に効果がありましたか。

これまでと同様に、「大いにあった」および「少しあった」と回答した割合は 90%に近い高い値を示しており、昨年と今年では 90%をわずかに超えている。「あまりなかった」および「ほとんどなかった」と回答した学生の割合は数パーセントにすぎず、大学に於ける卒業研究の意味が大きいことを裏付けている。



[2-5]実験・実習・演習・製図はあなたの自己形成に効果がありましたか。

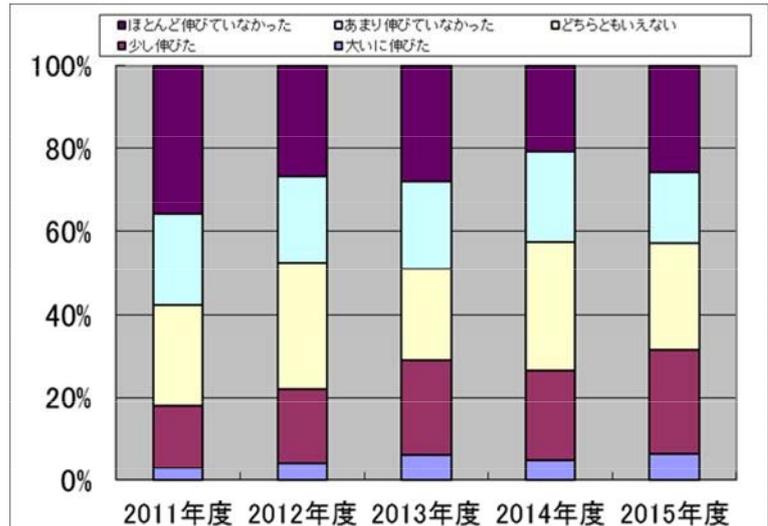
効果があった（「大いにあった」および「少しあった」と回答した学生の割合は 85%程度の高い水準を示している。これは工科系大学において重要な側面である実験や実習などの効果が大きいことの表れであり、この水準が今後も維持されることが望まれる。



[3]英語力についてお尋ねします。

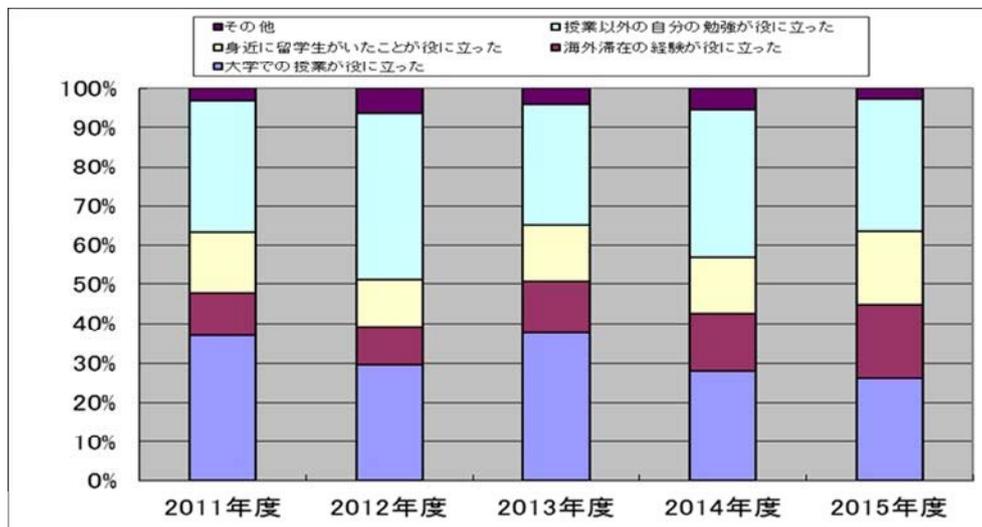
[3-1]大学の4年間であなたの英語力は伸びましたか。

「多いに伸びた」および「少し伸びた」と回答した今年の学生数はこの5年間で最も高くなった。大学では、英語学習に割くことのできる時間割合が少ないという現状、伸びたと実感するにはかなりの効果がないとそうは感じないことから、持続的な教育改善が行われており、徐々にその効果があらわれてきたものと考えます。



[3-2][3-1]でA（大いに伸びた）またはB（少し伸びた）と答えた方：その理由は何ですか。（複数回答可）

「大学での授業が役に立った」という回答数が過去5年間で最低となった。これは、今後の英語教育をより充実させていく必要があることを示していると考えます。「身近に留学生がいたことが役に立った」および「海外滞在の経験が役に立った」との回答数の割合が40%近くまで増加している。これは、最近、英語教育において、大学がこれまでの一般的な講義以外の多様な選択肢を提供し始め、加えて自発的に自然に英語を身につけるような仕組みづくりが行われていることの結果ではないかと考えられるが、この解析を行うにはより詳細な調査を行う必要がある。



E（その他） [具体的に]

- ・ 英語を話せる場があったこと(LL、Lets等)
- ・ TOEICは伸びた。英語力は知らね
- ・ 卒業研究で英語論文を読んだため
- ・ 英語の論文をよんで
- ・ 英語の論文を読んだ

[3-3][3-1]でD（あまり伸びていない）またはE（ほとんど伸びていない）と答えた方：その理由は何ですか。

英語の習得には、英語に接する機会、時間数が多いことがどうしても求められるが、工学部では、専門科目の負担が非常に大きい分、英語の授業だけで全員の英語能力を伸ばすことには限界がある。それを補うには、休日などを利用して独学でのコンスタントな学習が必要になるが、実際にそれを行える学生は多くない。専門科目において英語に触れ続けられる機会があれば、その分、別の時間を費やさずにかつ、将来彼らにとってより必要となる“エンジニアのための英語“が学べることとなる。現在、そのような講義が導入されたところであり、今後その効果が表れることを期待したい。

- ・ TOEICの点数があまり伸びなかったから
- ・ 使わない物は伸びない
- ・ 特に活用しなかったため
- ・ 授業が少なく、身につかなかったから
- ・ 授業が少ない
- ・ 高校時代に比べて勉強していないので
- ・ 授業での英語がなかったため
- ・ 授業以外で、あまりやらなかった
- ・ 高校より英語の学習時間が短くなった
- ・ 勉強量が少なすぎた
- ・ 英語を使わなくても困らなかったから
- ・ 英語を使う機会があまり無かった
- ・ 使う機会が無い
- ・ 英語にふれる時間が短かったから
- ・ 英語を使う機会がなかった
- ・ 授業の内容が高校の時と同じ様な感じだったから
- ・ 中、高、大学と英語にふれてきたが、大学では機会が一番少なかった
- ・ 勉強しなかったから
- ・ 高校英語の方がレベルが高かった
- ・ 英語能力でクラス分けすると思う
- ・ 英語に触れる機会が少なかった
- ・ 英語つかってない
- ・ 勉強時間が少ない
- ・ 英語の学習に取り組んでいなかったため
- ・ TOEICの点数が伸びていない
- ・ 使う機会が無い
- ・ 授業を有意義に使えなかった
- ・ 勉強しなかったから
- ・ TOEICなどの内容が全然ないため
- ・ 3、4年次に英語の授業がなかったため
- ・ 高校まではほぼ毎日やっていたものが週1回程度になったため
- ・ 英語に触れる機会が少なかった

- ・ 英語の授業が少ない
- ・ 勉強の量が足りない
- ・ TOEICの点が年々下がったため
- ・ 授業以外で英語に接する機会が無い
- ・ 英語学習時間の少なさ
- ・ 英語を学習する時間が減った
- ・ 英語に触れていなかったため
- ・ 英語をつかう機会がほとんどなかった
- ・ 高校での内容とほぼ同じであったから
- ・ 授業がよくない
- ・ 授業が少なかったので自習で勉強しなかったから
- ・ 英語の講義が身になるものではなかった
- ・ 高校の内容をわすれないようにしただけだと思う
- ・ 英語にふれる機会が少なかった。授業をこなすだけになってた
- ・ 英語を読む機会が減ったため
- ・ 必要なかった
- ・ 他の勉強(工学)が難しかった, また興味がなかったから
- ・ 授業が役に立たなかった
- ・ レベルが低い
- ・ 特に取り込んでいないため
- ・ 学部3年から英語の授業がなくなり学習しなかったため
- ・ 3, 4年生で授業を履修しなかったため
- ・ 大学内で英語を使う必要がなかったため。英語を使わなくても済んでしまうため
- ・ 積極的に英語を使わなかったから
- ・ 実践力がつかない
- ・ 週1の英語では意味がない
- ・ 英語を使わなかったから
- ・ 英語を避けてきたから
- ・ 高校生のときの方が、まだ英語が理解できた
- ・ 上の学年では英語の授業があまりないため
- ・ 日常で使う事がなかったから
- ・ 自学していなかったため
- ・ TOEICで成果が出なかったから、留学生とうまく会話できないから
- ・ ほとんど英語の勉強をしなかったから
- ・ 伸ばそうとする意識がなかったため
- ・ 継続的ではないため、英語の勉強をしても忘れる
- ・ 英語を2年生以降学習する機会がなくなり自主的にも行わなかったから
- ・ 英語を使う機会がなかった
- ・ 活用しなかったから
- ・ 1, 2年のみでそれからほとんど英語にふれていない

- ・ 英語の授業のレベルがあまり高くなかったので、自分の意欲・関心が低かったので
- ・ 英語力を向上させる訓練を行っていない為
- ・ 授業で単位をとるためだけだったのでそこまで意欲は湧いていなかった
- ・ 高校の時と比べて勉強量が少ない
- ・ 英語を使う機会が少ない
- ・ 授業回数が少ない
- ・ むしろ低下したと思う
- ・ 身についたとは言い難い
- ・ 少ない
- ・ 勉強の機会が少なかったため
- ・ 英語の勉強をおこたったから
- ・ 英語が苦手だから
- ・ 英語の勉強をしなかったから
- ・ 英語を使用する機会が少なかったため
- ・ 授業以外で英語の勉強をしなかったから
- ・ 独学でしか勉強しなかったから
- ・ 必要となる機会があまりなかったため
- ・ TOEICで点数が取れない
- ・ 自主学習時間不足
- ・ あまり力を入れなかった
- ・ 英語に触れる機会が少なかった
- ・ 授業がほとんど無かったため
- ・ 自主的に取り組めなかった
- ・ 英語の講義が少なく、特に使う機会もないため
- ・ 英語の勉強に充てる時間がなかったから
- ・ TOEICの点数が低かったため
- ・ 英語授業が中途半端で意味を感じられないため
- ・ 英語に触れる機会が少なすぎた
- ・ 努力不足
- ・ 3年以降英語の授業がなかった
- ・ 特に英語の勉強をしなかったから
- ・ 英語を使う機会が少なかった
- ・ あまり勉強する機会を作れなかった
- ・ 英語に触れる機会が少なかった
- ・ 今まで受検のためにガリガリ英語を勉強してきたが、それがなくなったから
- ・ 使う機会がない
- ・ 英語の授業が少ない
- ・ 英語の勉強をしなかったから
- ・ 英語にあまりたずさわる機会がなかったため
- ・ 英語の勉強時間をあまり取らなかったから

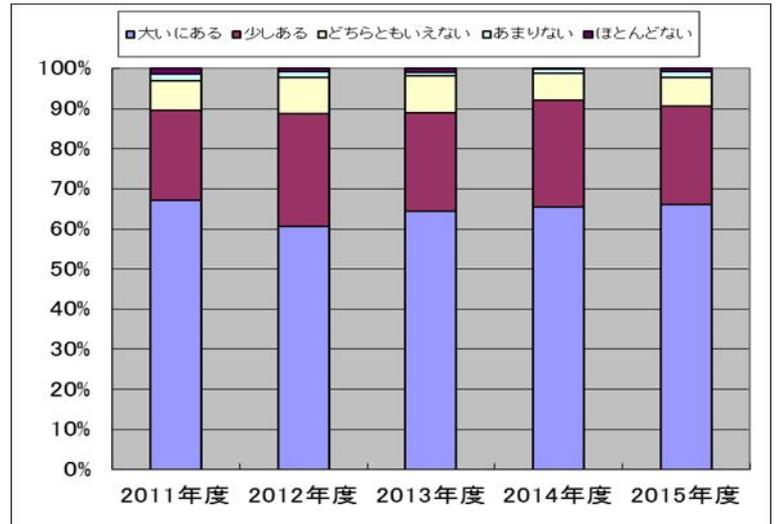
- ・ 英語を使う機会が減ったから
- ・ 自分で勉強しなかったため
- ・ 1、2年の授業の後自分で英語にふれる機会をつくれなかった
- ・ 英語力を伸ばすことに積極的でなかった
- ・ 単純に勉強してなかった
- ・ あまり勉強していない
- ・ 勉強不足
- ・ 英語の授業が2年までなので、その後英語に触れる機会がほとんどなかった
- ・ 英語に触れる機会が少なかったから
- ・ 英語の学習時間が少なかったため
- ・ あまり英語を話す機会をつくれなかった
- ・ 授業だけしか英語を勉強しなかったため
- ・ 英語を使う講義はあったが英語を上達させる講義はなかったため
- ・ 講義の教材が全くおもしろくなく、やろうという気持ちになれなかった(専門英語はためになった)
- ・ 専門英語は内容が興味があるものだったからよかったが、それ以外は興味をもてなかったから
- ・ 授業以外で勉強の意思がなかったため
- ・ 自主的に学ばなかった
- ・ 英語をあまり使わないため
- ・ 英語を使う機会がなかった
- ・ 英語に接する機会が少なかったから
- ・ 自ら進んで参加、勉強しようとしなかったため。カリキュラムが中学英語
- ・ 実践むきの英語にふれてこなかったから
- ・ 授業以外に自ら勉強することがあまりなかった
- ・ 九工大の英語の授業は少なすぎる。また、内容が薄い
- ・ 授業がおもしろくない
- ・ 積極的に取り組んでいなかった
- ・ 英語に触れる機会がほとんどないから
- ・ 実際に外国人に使う機会がなく、生きた英語力に身につけていないと感じる
- ・ 英語が苦手だから
- ・ 勉強する時間を確保できなかった
- ・ 英語の授業が楽だった
- ・ 大学生活であまり英語を使わないから
- ・ 英語をあまり使わなかった
- ・ 日常で使っていないため逆にできなくなった
- ・ 1～2年の英語の授業がほとんど意味がなく、それ以外に英語に触れていなかった。トピックの勉強で現状維持したくらいの感覚しかないため
- ・ 英語に対して力を入れてなさすぎる
- ・ 年々、英語と向き合う時間が減っていくから
- ・ 特に英語が話せるようになった実感がないため
- ・ TOEICの点数が良くなかった

- ・ あまり勉強していないから
- ・ 授業内容的に、英語能力の向上につながらなかった
- ・ 英語を使用する機会がほとんどない
- ・ ほとんどやってないから
- ・ 英語で話す機会がほとんどなかった為(授業以外で)
- ・ 基礎を忘れてしまっていたから
- ・ 学習不足のため
- ・ 一時的な学習しか行なわず英語を必要としない道すじを通ったため
- ・ 英語の勉強をあまりしなかった
- ・ 授業が少なく英語に触れる機会があまりなかった
- ・ TOEICの点数が伸びていない
- ・ 3、4年では英語の授業がなく、使う場面がかぎられた
- ・ しなかったから
- ・ 難しい英語の授業が無かったから
- ・ 向上を感じられなかった
- ・ 英語を使う機会がなかった
- ・ TOEICの結果に変化がなかった
- ・ 何もやっていないから
- ・ 授業以外で勉強しないから、授業では英語力がつかないから
- ・ 授業が意味ない
- ・ 授業によって授業の難易度に差があって、それを自分で選べないため、実力に合った勉強ができない
- ・ 高校生の時と比べて英語学習の時間は大きく減少したため
- ・ 授業でのモチベーションが上がらなかった
- ・ 英語の選択科目をとらなかったから
- ・ 元々、英語が苦手だったため
- ・ 英語のレベルが高くないから
- ・ 3年から英語の授業がなかった
- ・ 使用頻度が少ない
- ・ 勉強しなかった
- ・ 勉強していないから
- ・ 自主的な学習を行わなかったこと
- ・ 努力不足
- ・ 元々得意だから
- ・ 形式だけのものだった
- ・ 高校内容と大差なかったため
- ・ 英語に対するモチベーションがないため
- ・ やる気がなかった

[4] 卒業研究についてお尋ねします。

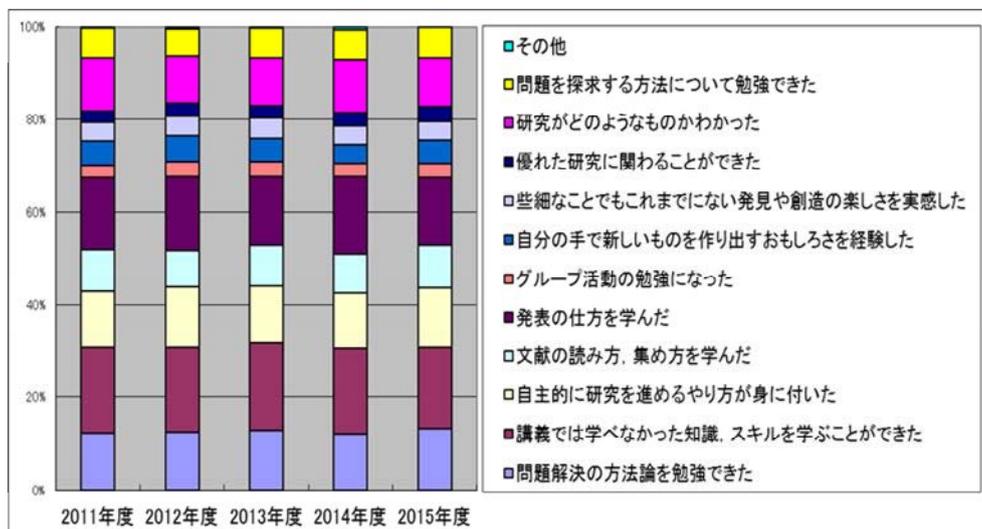
[4-1] 卒業研究の意義はありますか。

「大いにある」および「少しある」と回答した学生の割合は、例年約 90%程度と非常に高く維持されている。卒業研究の意義が高いものであることは、恐らくすべての教員の思いであろう。それは工学が、それまでの学んだ座学をもとに実際にどのように展開できるかを目的としたものであるから当然の帰結として反映されているためであろう。今後もこの状況が維持され、実践力の身についた学生を社会に送り出せるようこの傾向が維持されたい。



[4-2][4-1]でA (大いにある) またはB (少しある) と答えた方：その理由は何ですか。(複数回答可)

過去5年間を通して理由の変化はほとんどなく、講義では学べなかった知識・スキルが学べた、発表の仕方が学べた、問題解決方法論が学べた等が多く、他にも様々な理由を挙げている。工学部では多くの実践的・応用的な能力の向上を卒業研究を通じて得ることを目的としており、回答の分類結果はこの目的が達成されていることを示している。



L(その他) [具体的に]

- ・ 理系っぽさを感じられる
- ・ 実際に携わることで問題解決の難しさを学んだ

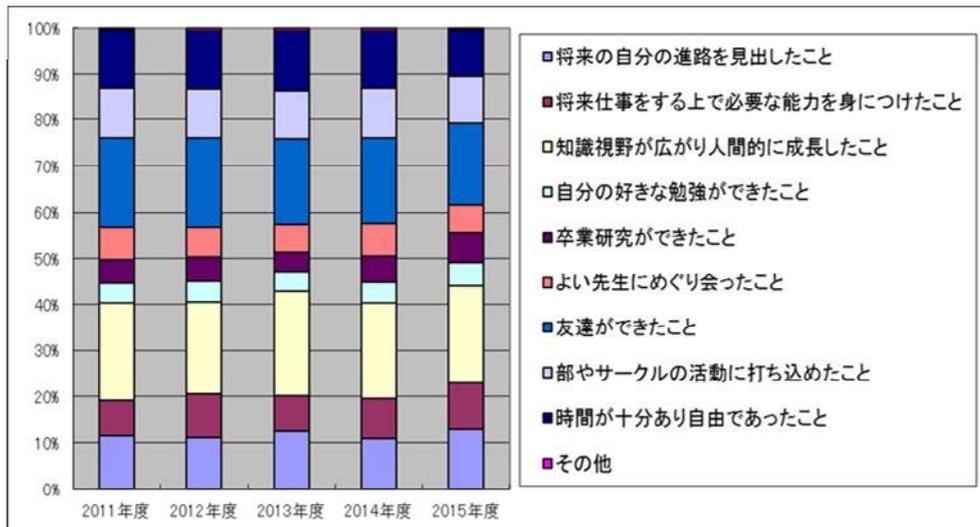
[4-3][4-1]で卒業研究の意義がD(あまりない)またはE(ほとんどない)と答えた方：その理由は何ですか。

毎年、僅かではあるが、卒業研究に意義がない（「あまりない」または「ほとんどない」）と回答する学生は必ずいるが、少数のこれらの学生をさらに減らすことは容易ではないであろう。何故なら、恐らくその理由が、自分自身の希望した研究テーマが思いのものと異なっていた等の理由で卒業研究を行う意欲が低くなってしまったことや、学生が研究テーマの意義を理解しようとしめない等が原因ではないかと推察されるからである。研究室配属方法の工夫等でこれを何とか低減する努力は必要であろうが、なかなか難しい問題である。

- ・ 研究室の配属わりふりでやりたい研究のところに行けなかったから
- ・ 院試で忙しくあまり集中できなかった
- ・ 内容が薄い
- ・ 研究室により合格ラインが違いすぎる
- ・ 雰囲気合わない
- ・ 研究室による
- ・ ほとんど自分一人で進めるため、分からないことが多く効率が悪い
- ・ 大学3年までの知識がほとんど役に立たない
- ・ 自分のテーマがあまり社会の役に立つと思えないので
- ・ 指導が十分ではなかったから

[5]大学生生活を振り返って、どのようなことがよかったですか。（複数回答可）

進路選択への意義、仕事従事への準備、良い友人や先生との出会い、知識や視野の広がり等々、大学生活の意義は各人多様であり、多面的でバランスの意義を彼らは感じている。この結果は、本学が提供している学業内容や学生生活に係る事項が、大学生活を全般的に有意義にさせる内容であることの証しであることを示しているものと思われ、心強い結果である。



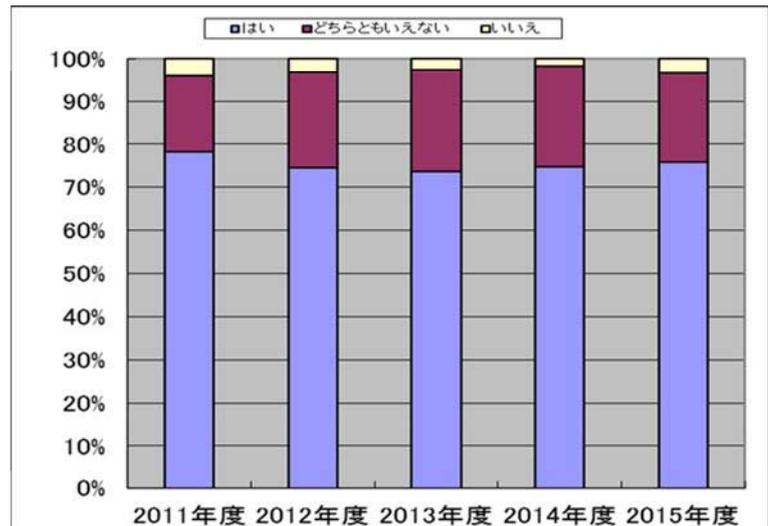
J (その他) [具体的に]

- ・ 自己を見つめなおすことができたこと
- ・ アルバイトができたこと
- ・ 自分の世界が広がり、嫌な人間との関わり方がわかった
- ・ 将来自分がどのように生きていくのか、生活していくか、よく考えた2年間でした
- ・ アルバイトで人間的に成長できた

[6]入学した学科についてお尋ねします。

[6-1]現在の学科に入学してよかったと思えますか。

「はい」と答えた学生の割合が本年度も75%程度であるという現況は、希望の大学や希望の学科に入れなかった者もいることを考えれば、学生たちが現在の学科の教育内容自体に十分満足していることを示していると判断できる。今後もこの傾向を維持できるよう教員の努力が期待される。



[6-2][6-1]でC(いいえ)と答えた方：その理由は何ですか。

学科（コース）での教育内容に適応できなかった学生や将来を考慮した学科（コース）選択ができていなかった学生がいることを示している。例えば、大学受験時の成績の合格基準に基づく学科選択や、大学1年次の成績やその年の人気などに基づいたコース選択を行い、その学科やコースのことをよく知らなかった可能性が考えられる。この対策として、大学での教育内容が大学や学科を選択する際に重要であることを高校などで周知する（してもらう）こと、将来を見据えてコースを選択することを1年次に啓蒙することなどが考えられる。一方、入試やコース配属方法などの弾力的運用により対応する方法もあるが、その方法については慎重に選択しないと、むしろ逆効果が生じる可能性があるため注意が必要である。

- ・ 思っていた学習と違った点
- ・ 文系にすればよかった
- ・ 就職の幅が他の学科よりも少ないと感じたから
- ・ マテ系の方がよかった気がしたから
- ・ リハビリ系の仕事に就きたかったから
- ・ 興味がある分野の理解が進んだから
- ・ 学部や研究での拘束の割に他学科に比べ就職先が見劣りする
- ・ 就職があまりよくない
- ・ 高校時代に化学ができたという理由だけで選んだから
- ・ 就職に強い学科にした方が良かったと感じたため
- ・ 課題がキツかった。就職率が悪いとはいわないが、他学科の方が就職しやすいため
- ・ 他学科の授業がおもしろそうで受けてみたかったが、その時間がない
- ・ 特にえたものがなかったから
- ・ 就職に関係ないから
- ・ 興味がわからない講義が多かった
- ・ あまり好きな分野・研究ではなかった。もっとものごとの本質をついた学問をやりたいから
- ・ 方向性が定まりにくい

[7]入学時の目標の達成についてお尋ねします。

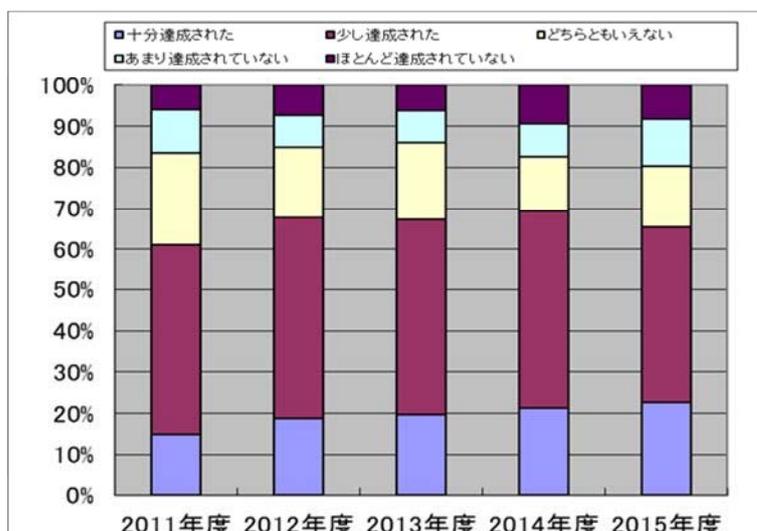
[7-1]あなたは入学の時に大学で達成したい目標がありましたか。

目標設定をどうとらえるかは個人の考え方や目的意識レベルにも依るので、この数字をどう捉えるかは容易ではないが、過去5年間では例年約40%の学生が入学時に達成したい目標を持っているに過ぎない。諸外国に比して、日本人は概して強い目的を持たない／表明しない傾向にあるとも聞くので、安易な判断は出来ないが、目的や目標を設定することの必要性がもう少し強調された教育が幼少期から必要なのかもしれない。



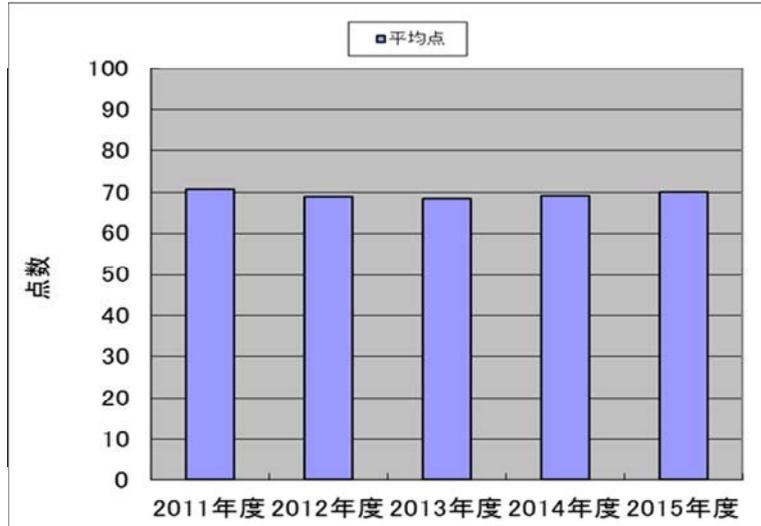
[7-2][7-1]でA (はい) と答えた方、それは現在どの程度達成されていますか。

過去5年間とも、「十分達成された」および「少し達成された」と感じている学生の割合が2/3程度いることは、かなり良い結果であり、本学の教育や環境が彼らの努力を实らせるに足る有用なものであったと判断される。



[8]在学中の学生生活の満足度に対して100点満点で点を付けるとすれば何点と思いますか。

ここ数年、数値にほとんど変化はなく、彼らの満足度は70点近くが維持されている。満足度はむしろ希望が高いことで低く出がちと思われるが、70点という点数はけっこうな高水準とも理解される。教員は学生とともに引き続きこの点数を維持・向上できるよう努めることが望まれる。



[9]卒業により取得予定の資格についてお答え下さい。

(本学の教育目標に適合しない資格(自動車免許等)は除外します。)

[9-1]あなたは教員免許取得を目標としていましたか。

教員免許の取得を目的としている学生の割合はずっと10%を下回るレベルで推移している。本学の卒業生は、当初からエンジニアを目指している場合が殆どであり、教員免許を取得し、教員になることを目的に入学する者の数はもともとそれほど多くないことは自然なことと思われる。しかし教員取得希望を持っている者がこの程度はいるということも認識はしておかなくてはならない。



[9-2]教員免許(数学)が可能でしたら、あなたは取得を希望しましたか。

今回の調査でも、数学教員免許取得が可能ならば希望したと答える者は30%弱程度いる。これは数学免許が学生募集に有効である可能性を示唆するが、実際には、選択のカリキュラムなので、はじめ希望しても途中であきらめる学生が相当数出てくると考えられる。この回答があったことを把握した上で、数学教員免許取得が可能となるスタッフの増員とカリキュラムの編成についてはより詳細に検討する必要がある。



[9-3]あなたは卒業後資格(教員免許を除く)を取得する予定ですか。

就職先の業務との関連等での取得を検討した結果として回答していると考えられる。多岐にわたるいずれのエンジニアの分野でも、資格を得ることが必須であったり、昇進に有利であったりするので、このような20%強の結果が出たのではないかと考える。



[9-4][9-3]でA(はい)と答えた方:どのような資格を取得する予定ですか。

自分が就職する会社の分野や業務内容をもとに、様々な資格の取得について検討しており、望ましいことであると考えます。

- ・ 仕事上必要な資格
- ・ 決まっていないが何でもよい
- ・ 技術士
- ・ 技術士
- ・ 未定
- ・ 航空系
- ・ 仕事で必要となりそうな資格

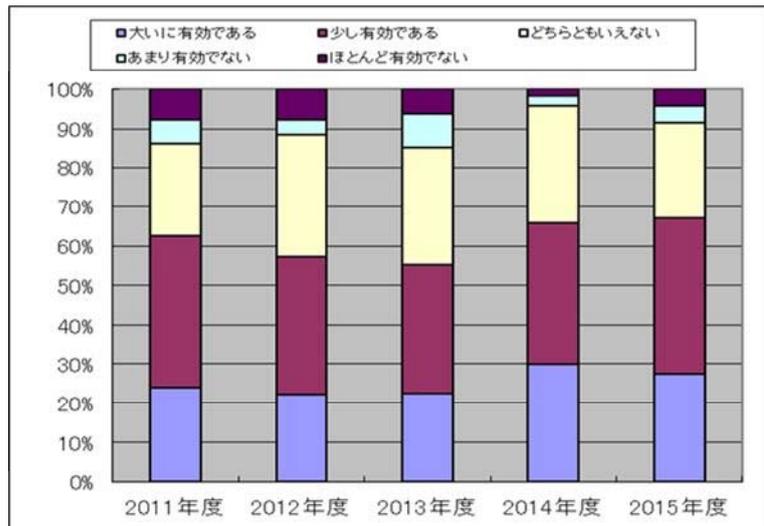
- ・ 危険物取扱者
- ・ 就職後に。必要に応じて
- ・ 技能士
- ・ 技術的な資格
- ・ ITパスポート, 基本情報技術者
- ・ 情報技術者, LPIC, 電検
- ・ 一級建築士
- ・ 土木施工管理技師等
- ・ 技術士補, 二級建築士
- ・ 技術士
- ・ 建築士
- ・ 技術士
- ・ 二級建築士、宅建、危険物取扱
- ・ 働く上で必要な資格
- ・ 土木施工管理技師1級
- ・ 二級建築士
- ・ 二級建築士
- ・ 二級建築士
- ・ 一級建築士等
- ・ 技術士
- ・ 技術士
- ・ 技術士補
- ・ 土木施工管理者
- ・ 建築士
- ・ コンクリート技士、土木施工管理技士
- ・ 測量士等
- ・ 未定
- ・ 一級土木施工管理技士
- ・ 技術士等
- ・ 技術士
- ・ 建築士
- ・ 2級建築士, 1級建築士
- ・ 技術士
- ・ 電験3種
- ・ 電検
- ・ 電験2種
- ・ 電気主任技術者
- ・ 電検
- ・ 電験3種
- ・ 就職先で必要だと思う資格

- ・ 仕事で役に立つ資格
- ・ 電験、電気工事工等
- ・ 電験等
- ・ 電気工事工
- ・ 第1種電気技術士
- ・ 電気主任技術士
- ・ 電験
- ・ 基本情報、応用情報技術資格など
- ・ 電気主任技術者3級
- ・ 応用情報、電験Ⅱ種
- ・ 電検3種
- ・ 電気主任技術者
- ・ 陸上無線
- ・ ITパスポート
- ・ 基本、応用技術者
- ・ 電験三種, etc
- ・ 電験3種
- ・ 電験三種
- ・ 英語を使う機会がなかった
- ・ 電気主任技術者
- ・ 第1級陸上特殊無線技士、第三種電気主任技術者
- ・ 危険物取扱
- ・ 危険物取扱
- ・ 毒物劇物取扱責任者
- ・ 未定
- ・ 危険物取扱甲種
- ・ 危険物取扱
- ・ 会社で必要なもの
- ・ 危険物取扱者甲種
- ・ 技術士
- ・ 危険物取扱, 秘書検定
- ・ 仕事に必要な資格
- ・ 危険物取扱者免状及び、非破壊
- ・ 情報系の
- ・ 技術者
- ・ 簿記2級
- ・ IT系
- ・ 工学技術者
- ・ SEに必要なもの
- ・ 自家用操縦士、事業用操縦士、定期運送用操縦士、定期運送操縦士、准定期運送用操縦士

- ・ 航空に関わる資格
- ・ 就職先において業務上必要とされるもの
- ・ 未定
- ・ 電気工事士
- ・ 就職先で使いそうなもの
- ・ 中学教員免許
- ・ 会社で必要な資格
- ・ アマチュア無線

[9-5][9-3]でA（はい）と答えた方：大学の授業は資格取得に有効ですか。

「大いに有効である」および「少し有効である」とした回答数が昨年とほぼ同じ65%となった。これは工学部全学科全コースがJABEEの技術者教育プログラムとして認定されたことと関係すると思われる。直接的に資格取得を目的に大学の授業を行っているわけではない中で、大学で学ぶ内容が資格取得にも有用的に関連していると認識されていることは、工学部における技術者教育という観点からは好ましい結果と言えるであろう。資格取得をより意識した授業内容にするのかは議論が必要である。



[9-6][9-5]でD（あまり有効でない）またはE（ほとんど有効でない）と答えた方：その理由は何ですか。

本年度は「あまり有効でない」および「ほとんど有効でない」とした回答数は10%弱であり、昨年より多いものの一昨年前までよりは少ない。これは工学部全学科全コースがJABEEの技術者教育プログラムとして認定されたことと関係すると思われる。その他にも各学科で用意する資格があるが、それらの資格以外を希望する学生や、資格とは関係なく勉学に集中したい学生が、本質問の回答者であると判断できる。

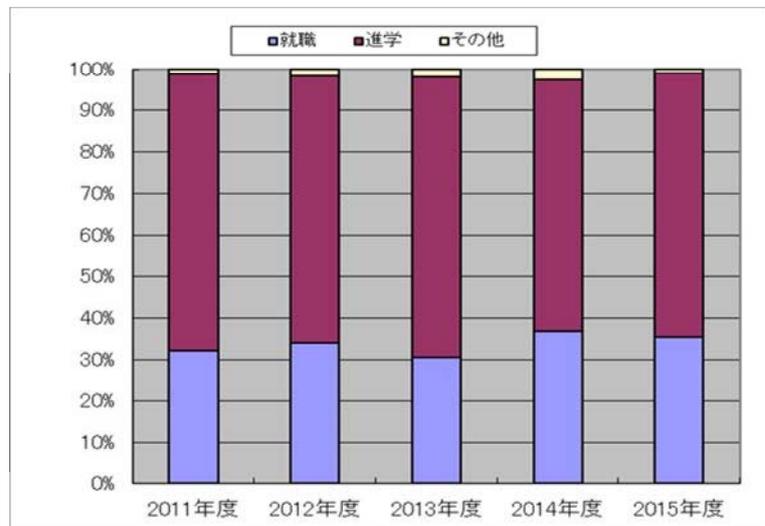
- ・ 講座がないから
- ・ 資格取得とは異なった授業であるから
- ・ 必要とされる知識、学識の一部分のみしか触れられないから
- ・ テキストの方が早い

- ・ どのような資格を取ることができるか分からないから
- ・ 何を取得するか決めていない
- ・ 大学の講義は時間が限られているので、もうらのではない
- ・ 資格に直結するような授業はないから
- ・ 取得に向かない授業だから
- ・ 工学に関係ないから
- ・ 専門でない
- ・ 分野が違う

[10] 卒業後の進路についてお尋ねします。

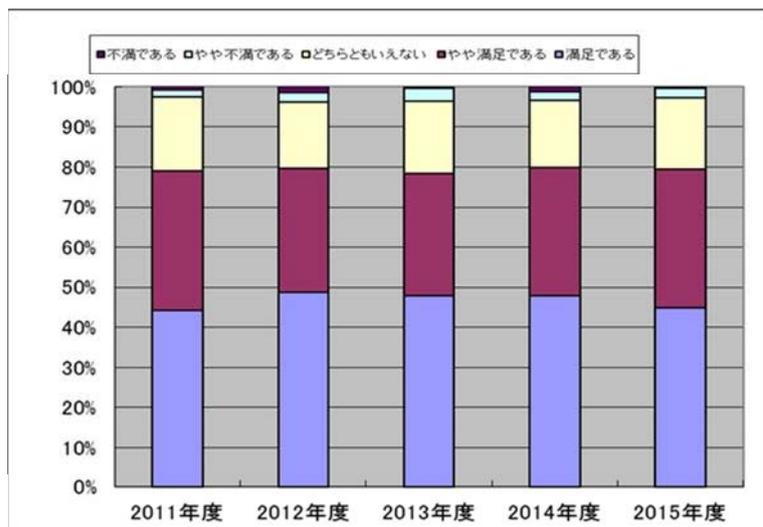
[10-1] あなたは卒業後就職しますか、進学しますか。

若干の変動は見られるものの、就職率は 30%~40%、進学率は 60%~70%の間で推移している。



[10-2] あなたは卒業後の進路に満足していますか。

「満足である」または「やや満足である」とした回答が、80%近くあり、高い満足度を保っている。



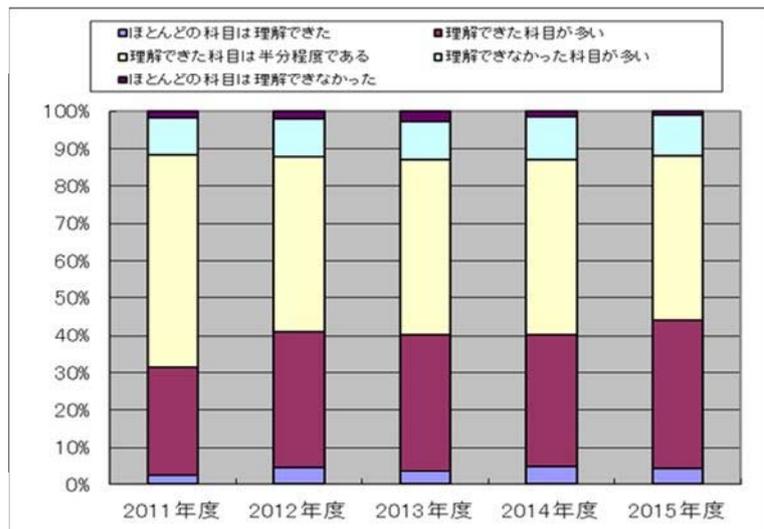
[10-3][10-2]でD（やや不満である）またはE（不満である）と答えた方：その理由は何ですか。

該当者は全体の 5%弱であるが、様々な思いが見られる。自分の希望通りにいかなかったことを挙げるものが多い。

- ・ 思いどおりでなかったため
- ・ 大学院つらそう
- ・ 他にやりたい事があったが、余裕がなかった
- ・ 就職を選ぶべきだった
- ・ 研究を楽しみながら続けて行くことのできる自信がないから
- ・ 第一希望とする大学院へ進学できなかったため
- ・ 就職先にもっと広い選択技が欲しかったから
- ・ 研究を行っていて、不向きだと感じたため
- ・ もう少し考えればよかった

[11]これまでに受講した科目の理解度はどの程度ですか。

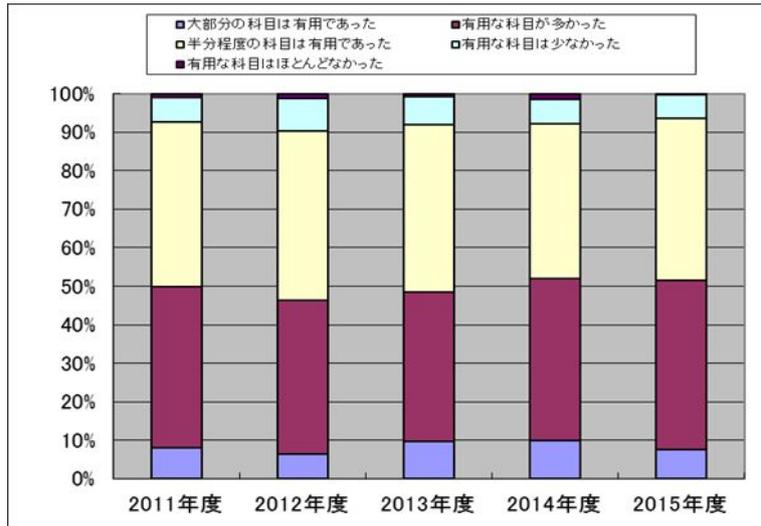
「ほとんどの科目は理解できた」または「理解できた科目が多い」とした回答が、2012年度から2014年度まではほぼ40%であったが、本年度はわずかに増加し45%程度となった。



[12]履修価値のあった科目の割合についてお尋ねします。

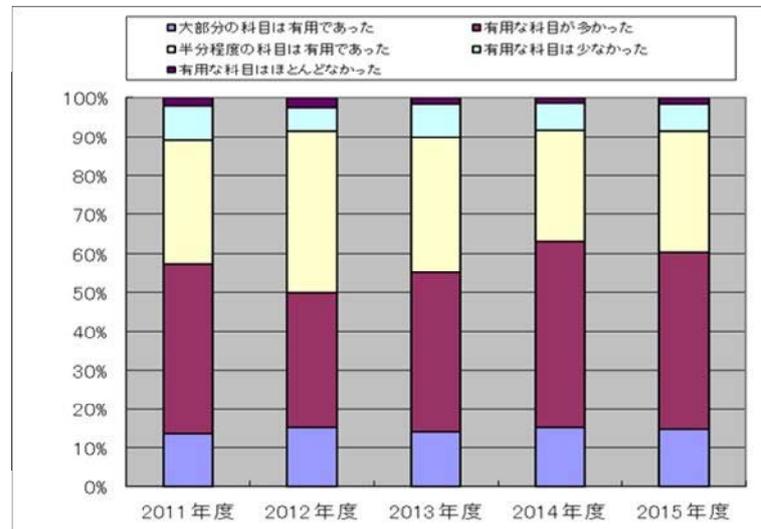
[12-1]受講した講義科目（演習科目を含む）の中で、自分自身の成長のために有用であり、履修価値があった科目の割合はどの程度ですか。

「大部分の科目は有用であった」と「有用な科目が多かった」する回答が 50%程度で推移し安定しているが、今後はどのような科目を有用でないと感じているのかを分析していく必要がある。



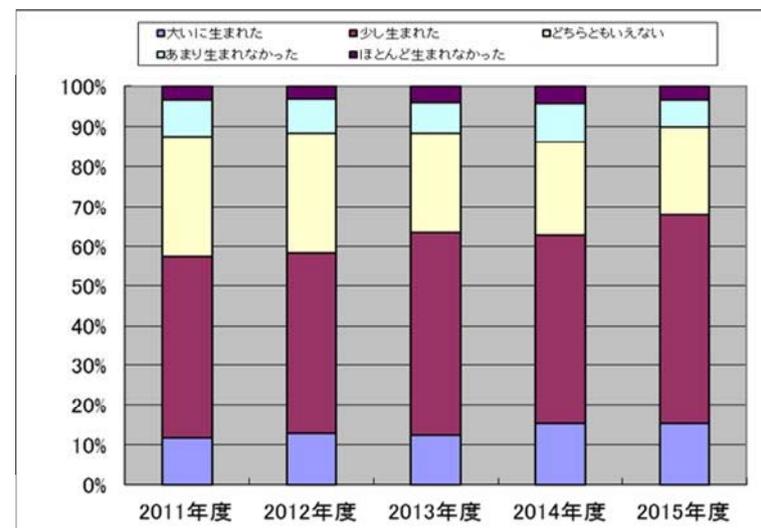
[12-2]受講した実験・実習科目の中で、自分自身の成長のために有用であり、履修価値があった科目の割合はどの程度ですか。

「大部分の科目は有用であった」または「有用な科目が多かった」とする回答は、近年、増加傾向にあり改善が見られる。



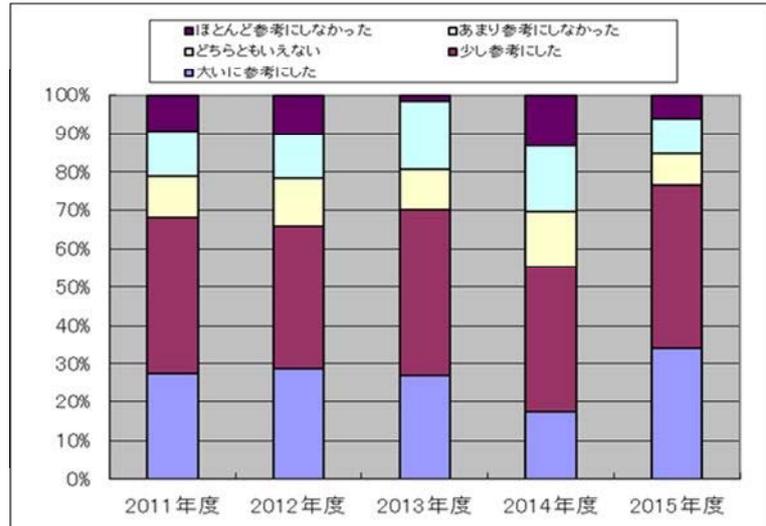
[13]大学における教育により、将来への自信や意欲が生まれましたか。

大きな変化は見られないものの、近年、「大いに生まれた」または「少し生まれた」とする回答が僅かに増加している。



[14]講義科目を選択する際に、シラバスを参考にしましたか。

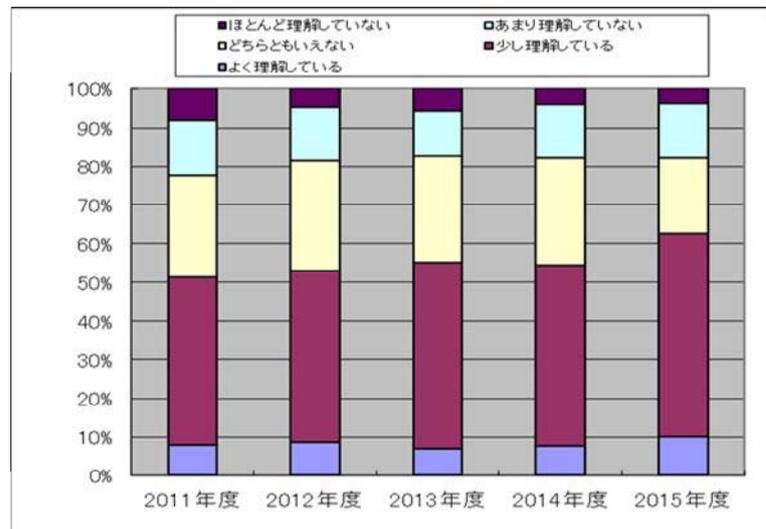
2014年度は、「ほとんど参考にしなかった」「あまり参考にしなかった」とする回答数の和が増加したが、2015年度は、過去5年で「大いに参考にした」「少し参考にした」が増加しており、改善が見られる。



[15]カリキュラムについてお尋ねします。

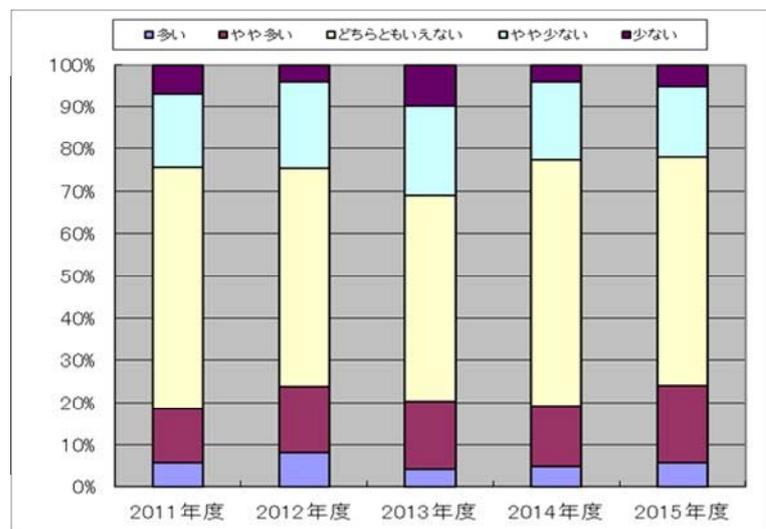
[15-1]カリキュラムの中で、科目間のつながりを理解していますか。

「ほとんど理解していない」または「あまり理解していない」とする回答は徐々に減少し、2012年度から20%を下回っている。一方で、「少し理解している」または「よく理解している」とする回答は増加傾向にあり、50%を超えている。



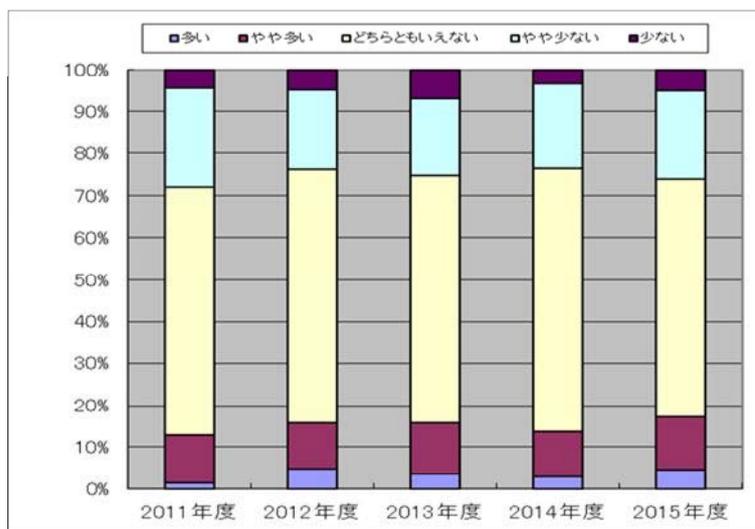
[15-2]カリキュラムの中で、実験・実習科目の比重は多いと感じますか、少ないと感じますか。

「少ない」または「やや少ない」とする回答は、25%程度で推移していて、安定している。



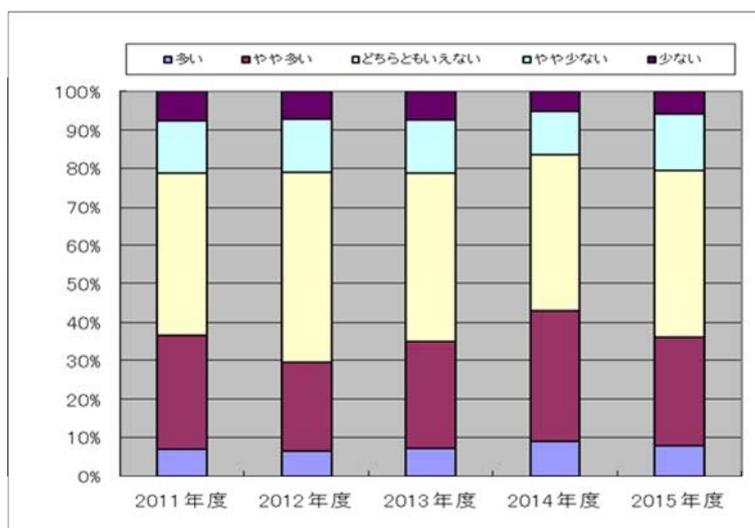
[15-3]カリキュラムの中で、演習時間の比重は多いと感じますか、少ないと感じますか。

「少ない」または「やや少ない」とする回答は、25%程度で推移していて、安定している。



[16]受講した科目全般について、教育への熱意があった担当教員の割合はどの程度ですか。

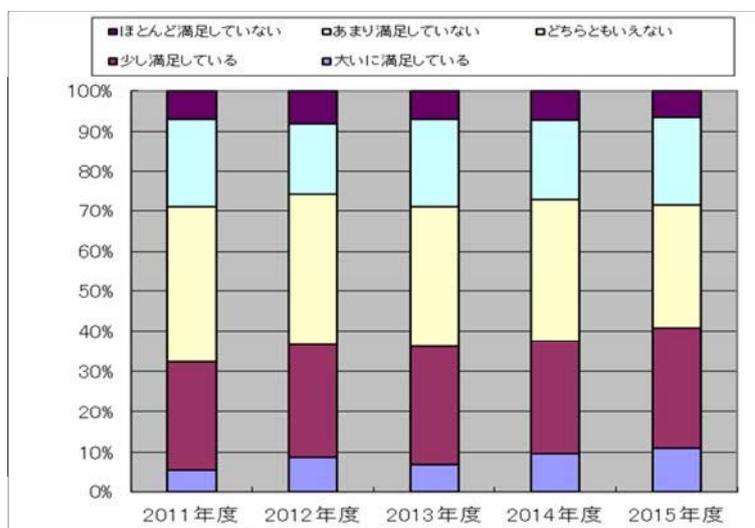
変動はあるものの、「多い」または「やや多い」とする回答が35%前後、「やや少ない」または「少ない」とする回答が20%程度で推移している。



[17]成績評価についてお尋ねします。

[17-1]成績評価（秀、優・良・可・不合格・未履修）に満足していますか。

「大いに満足」または「少し満足」とする回答は約35%、「あまり満足していない」または「ほとんど満足していない」とする回答は30%弱で安定している。



[17-2][17-1]でD（あまり満足していない）またはE（ほとんど満足していない）と答えた方：その理由は何ですか。

種々の理由が挙げられ、不満も記されている。自己反省的なことが多い。

- ・ もっと自主的に勉強をした方がよかった
- ・ もっと演習があったら自信になる
- ・ 成績が良くなかったから
- ・ あまり良い成績でなかったから
- ・ 不可が多いので
- ・ 勉強不足であった
- ・ 自信の怠慢であまり良い成績がとれなかった
- ・ よくないから
- ・ GPAが低かった
- ・ 勉強不足
- ・ 自己到達目標に満たないため
- ・ いい成績を残せなかったから
- ・ バイトや部活を始めて勉学がおろそかになったから
- ・ なぜその成績なのか分からない。科目が多い。開示をしない
- ・ 可があった
- ・ 目指していた目標に届かなかったため
- ・ GPAが低い
- ・ 2年生時の意欲の低下
- ・ あまり良くなかったから
- ・ 自らの勉強不足だが、数字的にあまりいい点が取れなかったため
- ・ 内容を理解してない
- ・ 同じ科目で違う教員の場合成績に大きな差がある事があった
- ・ 1年時の成績が悪く、大学院の推薦をもらえるGPAに達しなかったため
- ・ あまり勉強していなかったため
- ・ まだ勉強することができたのにしていなかった
- ・ 勉強はしたが、自分の思うような成績ではなかった
- ・ 自分の勉強量不足により評価が低いため
- ・ 勉強不足
- ・ バイトをしてなければもっと上がる事ができた
- ・ GPAがそんなによくない
- ・ GPAが低い
- ・ 成績が悪かった(自業自得)
- ・ 採点が厳しかった
- ・ テスト前しか勉強できなかったから(意識が低い)
- ・ がんばらなかったから
- ・ 勉強不足
- ・ 単位修得が目標となり、理解を二の次としたから

- ・ 先生によって配点が違いすぎる
- ・ 思った成績が出なかったから
- ・ 努力がたりてなかった
- ・ 授業以外も忙しく、余裕がなかった
- ・ 成績が悪いから
- ・ 単純に低い
- ・ 自身の怠慢
- ・ 寝坊が多かったため
- ・ あまり良い成績とは言えない為
- ・ 勉強以外のことに力を入れていたから
- ・ 勉強不足
- ・ 全体的に低かった
- ・ 良い成績が得られなかったため
- ・ GPAが良くなかったため
- ・ 単純に勉強量が足りなかった
- ・ 全く理解できないまま暗記でテストを受けた科目が複数個あったため
- ・ 人文科目や英語がいまいちだった
- ・ GPAが低く、再試などが多かったため
- ・ もっと頑張れたから
- ・ ほぼ勉強していなかった
- ・ 勉強時間が少なかった
- ・ もう少し頑張ればよかった
- ・ 学習が不十分であった科目があるため、もう少し頑張れば良い結果が得られたと考えられる
- ・ 努力が足りなかった
- ・ もう少しがんばれたと思う科目があるから
- ・ 思ったよりも結果がでなかった
- ・ 成績が悪すぎた
- ・ まだ頑張れたと思うから
- ・ 学業に取り組む時間が少なかった
- ・ 思うように点数がとれなかった。学習時間をもっと取るべきだった
- ・ 1年生時の成績が良くなかったため
- ・ 理解に時間かかる
- ・ GPAがあまり良くなかった
- ・ 日頃から勉強をしっかりとしていなかったため、GPAが低かった
- ・ 学力定着したと感じない
- ・ あまり好成绩でないため
- ・ 勉強不足
- ・ 一夜漬けの学習になってしまい、長期的に記憶できない。理解が浅い
- ・ 研究室に入り、自分の勉強不足を実感したため
- ・ 満足するような成績ではなかった

- ・ もっと集中して取り組めばよかった
- ・ もっと良い成績をとれたと思っているから
- ・ 勉強不足であったため良い成績が残せなかった
- ・ GPAが低かった
- ・ 低いから
- ・ 留年した
- ・ 目標より成績がよくないため
- ・ 入学時の偏差値が、卒業時の偏差値と見合っているとは思えないから
- ・ あまり理解できなかったから
- ・ あまり頑張れなかった
- ・ 全体的に周りより劣っていたため
- ・ 1年生の時、あまり熱心にテストにとりくまなかったから
- ・ 目標の成績に達しなかった
- ・ 努力が反映されにくい
- ・ もう少し勉強していればもっと良い成績が取れたと思うから
- ・ 勉強時間不足
- ・ 悪いので
- ・ 良い点数が取れなかった
- ・ 勉強していない
- ・ 良くないから
- ・ 不可が多かったため
- ・ 履修取消の融通がきかないため
- ・ もっと勉学に励めばよかった
- ・ 成績が良くなかったから
- ・ 勉強以外に自由な時間を過ごしてしまったため
- ・ 大学で自由な時間が増えて自分を換えられなかった
- ・ もっと点をとりたいかった
- ・ もっとできたと思うことが多い
- ・ 勉強不足であったため
- ・ 努力が足りなかったため
- ・ 自分の理解度が低く成績が悪かったため
- ・ もっと勉強していれば良い成績を取れたから
- ・ あまり頑張り切れない場面があった
- ・ 熱意が足りなかった
- ・ 途中で成績がのびなやんだ
- ・ もう少し勉強しても良かったと思える
- ・ もっと頑張れた
- ・ 思ったような点数が取れなかったから
- ・ 勉強不足
- ・ 勉強不足

[18] オフィスアワー（質問・相談時間）についてお尋ねします。

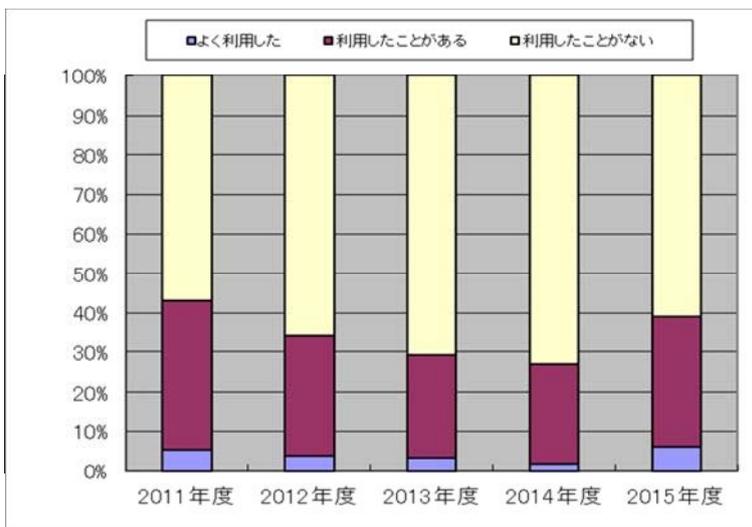
[18-1] オフィスアワーという制度を知っていますか。

「知っている」が多数を占めるが、その率は減少傾向にあり、「知らない」とする回答も10%程度ある。改善の余地がある。



[18-2] オフィスアワーを利用して、教員に質問した経験がありますか。

2014年度までは、「よく利用した」または「利用したことがある」とする回答が徐々に減少し、「利用したことがない」が増加傾向であったが、2015年は改善が見られた。



[19] ティーチングアシスタント（TA）についてお尋ねします。

[19-1] ティーチングアシスタント（TA）という制度を知っていますか。

TA制度を「知っている」と回答した者が多数を占めており、認知度は十分高い。TA制度は定着していると考えられる。



[19-2]ティーチングアシスタント（TA）に指導してもらった経験がありますか。（複数回答可）

「演習」「実験・実習」「講義時間外」のいずれかで指導を受けたとする回答が90%を超えており、TA制度は定着している。



[20] 指導教員制度についてお尋ねします。

[20-1] 指導教員制度を知っていますか。

「知っている」とする回答は、80%前後で推移している。一方で「知らない」、「言葉は知っているが、よくわからない」の回答が2015年には20%から25%程度の上昇しているため、改善の余地がある。



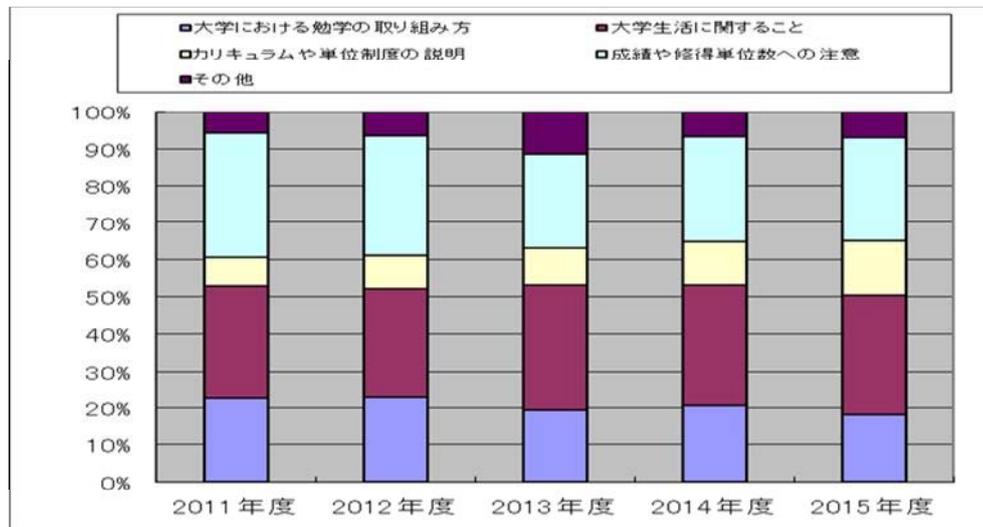
[20-2] 1年生から3年生の間に、指導教員から指導やガイダンスを受けた経験がありますか。（受けた経験のある方は、1年間の平均的な回数を答えて下さい。）

「指導された経験がない」との回答が、2011年度以降1/3を超え、2015年度はさらに増えた。改善の余地がある。



[20-3][20-2]でA（1年間に数回以上）、B（1年間に2～3回程度）、C（1年間に1回以下）のいずれかを答えた方：1年生から3年生の間に、指導教員から指導を受けた内容を答えて下さい。（複数回答可）

大学生生活、成績等、多岐に渡っているが、具体的コメントでは、就活等の進路関係の内容が多い。



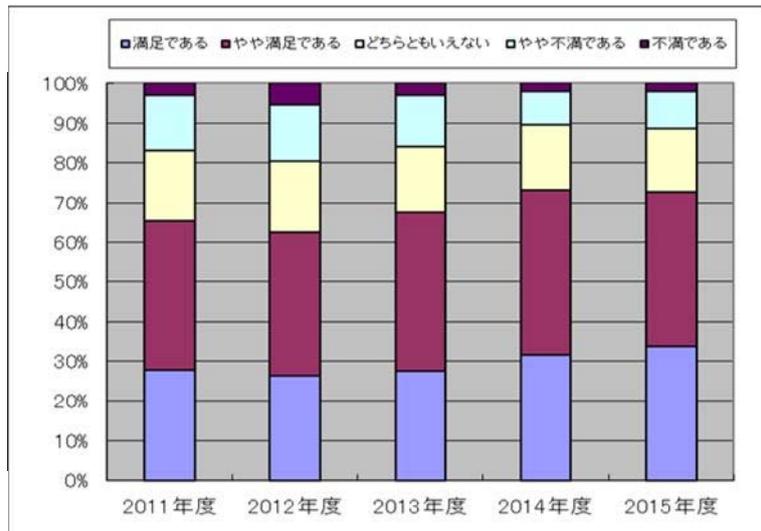
#### E（その他）[具体的に]

- ・ 経済状態
- ・ 父母の病気について
- ・ 進学
- ・ 初回の顔合わせのみ
- ・ 就職について
- ・ 進路相談
- ・ 進路
- ・ 就職について
- ・ 進路についての相談
- ・ インターンシップの説明・手続き
- ・ 進路
- ・ 進路について
- ・ 卒業後の進路
- ・ 進路
- ・ 飛び級の希望の有無について
- ・ 進路
- ・ 進級・進学のこと
- ・ 履修を失敗したとき訂正印をもらった
- ・ 留学
- ・ 休学のため指導をうけた
- ・ 留年について
- ・ インターンの相談
- ・ 進路について

[21]施設や設備等についてお尋ねします。

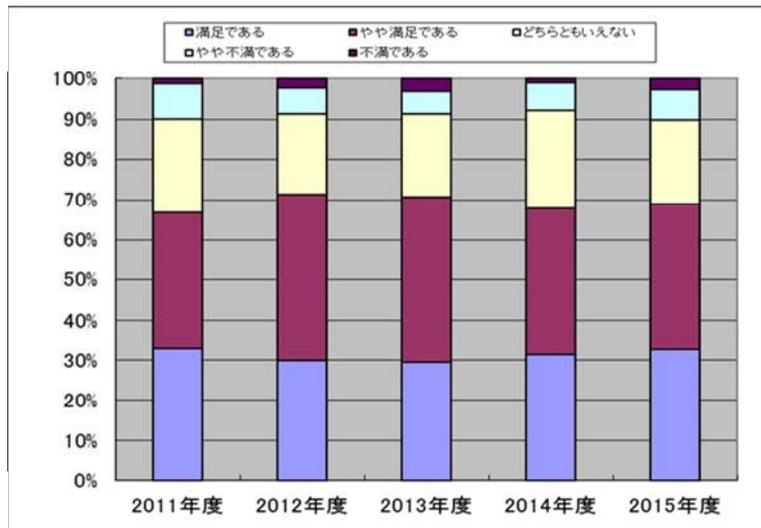
[21-1]教室の広さ、席数、明るさ等について、満足していますか。

「不満である」または「やや不満である」とする回答は10～20%、「満足である」または「やや満足である」とする回答は25～30%で変動し、上昇傾向にある。



[21-2]必要な設備（マイク、OHP、プロジェクタ等）に満足していますか。

「満足である」または「やや満足である」とする回答は、2010年度以降70%程度で推移している。「やや不満である」または「不満である」とする回答は、2010年度以降、10%程度に留まっている。



[21-3]1年生から3年生の間に利用した実験室・実習室の広さ、明るさ等について、満足していますか。

「満足である」または「やや満足である」とする回答は順調に増加し、2013年度以降は70%に達している。一方、「やや不満である」または「不満である」とする回答は10%に減少している。



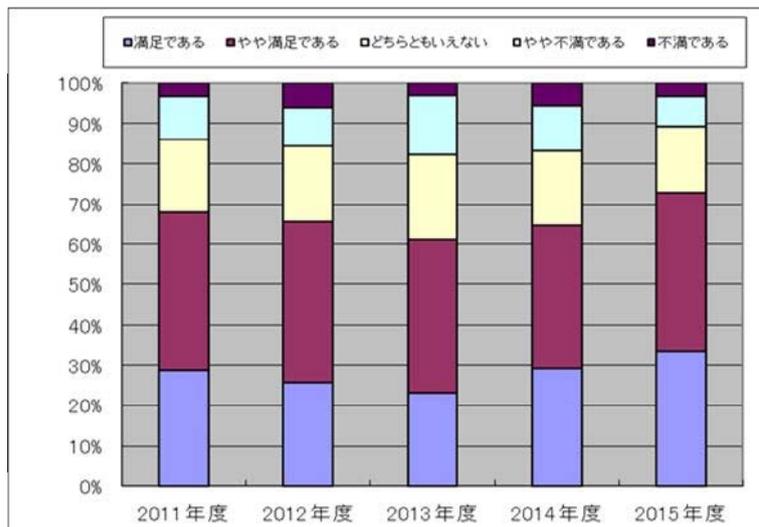
[21-4] 1年生から3年生の間に利用した実験・実習に必要な設備・装置について、満足していますか。

「満足である」「やや満足である」とする回答は順調に増加し、2013年度以降は65%以上に増えている。一方、「やや不満である」「不満である」は減少傾向にあり、2013年度以降は10%程度以下となっている。



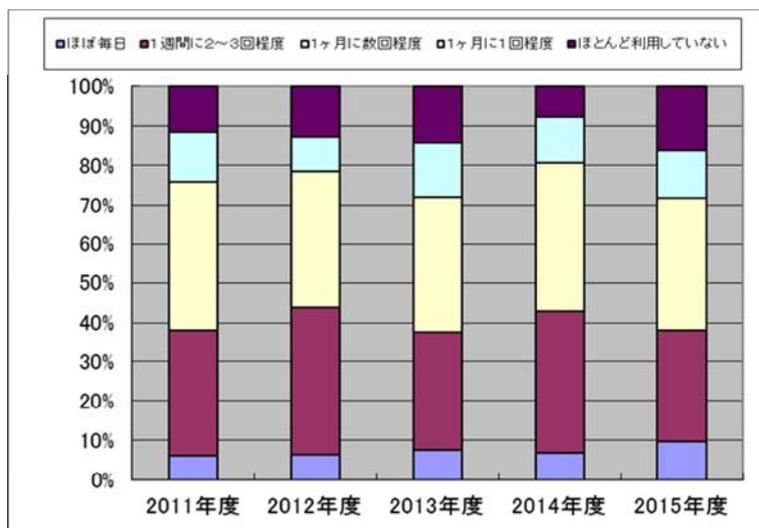
[22-1] 情報機器（コンピュータ端末等）の整備状況について満足していますか。

昨年と比べて「満足である」が増加している。個人用情報端末の所有が増えており、学内のWiFiの充実等により不満が改善されてきていると思われる。



[22-2] 1年生から3年生の間に、講義以外でネットワークや情報サービス（ソフトウェア、教材を含む）を、どの程度利用しましたか。

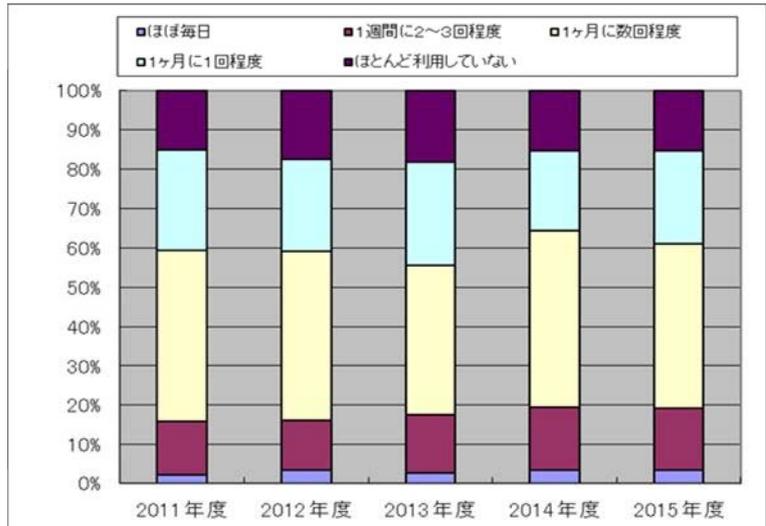
5年間で「1週間に2-3回程度」が30%前後、「1ヶ月に数回程度」35%で推移しているが、利用者の目立った増加傾向がなく、より積極的な活用が望まれる。



[23]図書館についてお尋ねします。

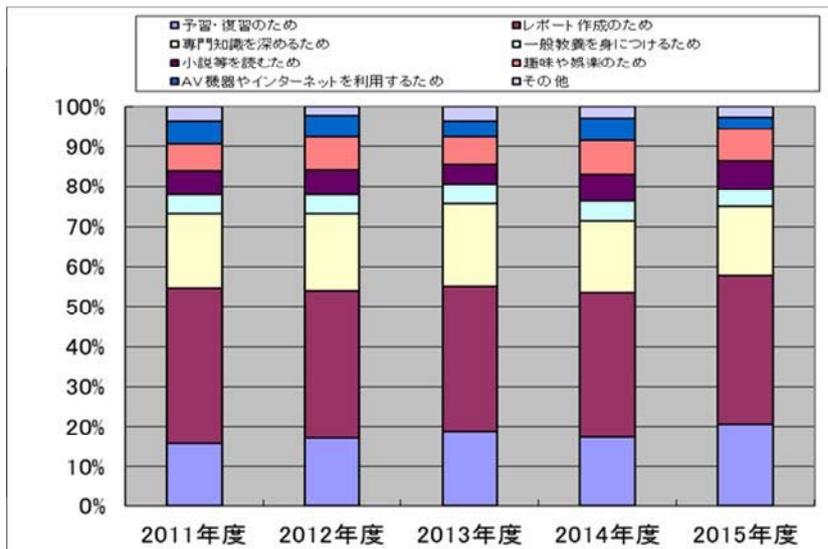
[23-1]図書館を利用している頻度はどの程度ですか。

「1 か月に数回程度」「1 週間 2-3 回程度」「ほぼ毎日」が 60% 前後で推移しており、安定している。



[23-2]図書館を利用する主な理由を答えて下さい。(複数回答可)

5年間を通して「予習・復習のため」、「レポート作成のため」が 55%前後、「専門知識を深めるため」が 20%前後と、ほぼ安定している。また、具体的コメントからは試験勉強が利用の主体である傾向が伺えるため、今後、「専門知識を深めるため」の利用の増加が望まれる。



H (その他) [具体的に]

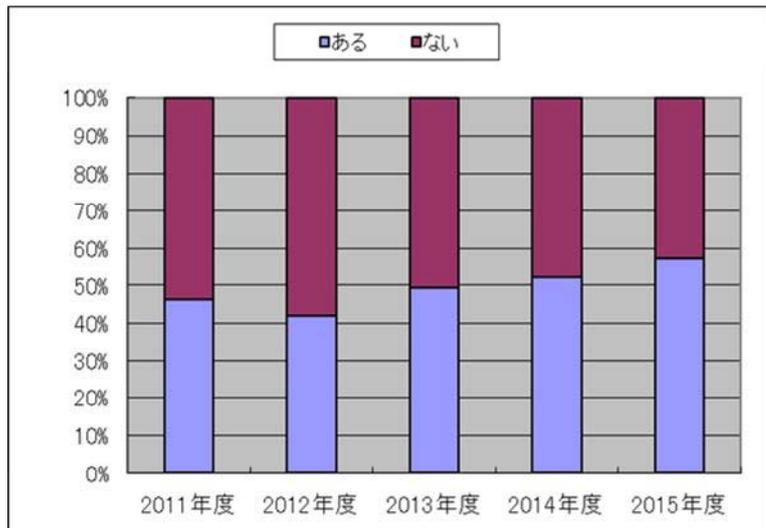
- ・ 新聞
- ・ 試験勉強
- ・ テスト勉強
- ・ テスト勉強
- ・ テスト勉強
- ・ テスト勉強のため
- ・ 試験勉強のため
- ・ テスト前

- ・ テスト勉強のため
- ・ テスト勉強
- ・ テスト勉強
- ・ テスト勉強
- ・ テスト勉強
- ・ フリースペースで話し合いをするため
- ・ テスト前
- ・ 新聞をよむため
- ・ 期末試験前に集中して勉強するため
- ・ 英語の勉強
- ・ テスト勉強のため
- ・ テスト勉強
- ・ テスト勉強
- ・ 文献の調査

[24]工場見学やインターンシップ（工場実習）についてお尋ねします。

[24-1]工場見学やインターンシップに参加した経験がありますか。

昨年よりインターンシップを経験している割合が増加し 2014 年度以降は 50%を超えてきており、就職意識の向上が窺える。



[24-2][24-1]でA（ある）と答えた方。工場見学やインターンシップに参加した経験が、自分自身の成長のために有意義であり、履修した価値がありましたか。

80%近くのインターンシップ経験者が有意義と答えている。また「役に立たなかった」との回答が減少した。就職に直結しなかった可能性もあるが、社会経験として有意義であると考えられる。



## 2. 2 2015年度修了生アンケート（工学府）

※アンケート実施年月日 平成28年2月12日

※アンケート回収率

課程	配付枚数	回収枚数（回答率）
博士前期課程	286枚	257枚（89.8%）
博士後期課程	11枚	8枚（72.7%）

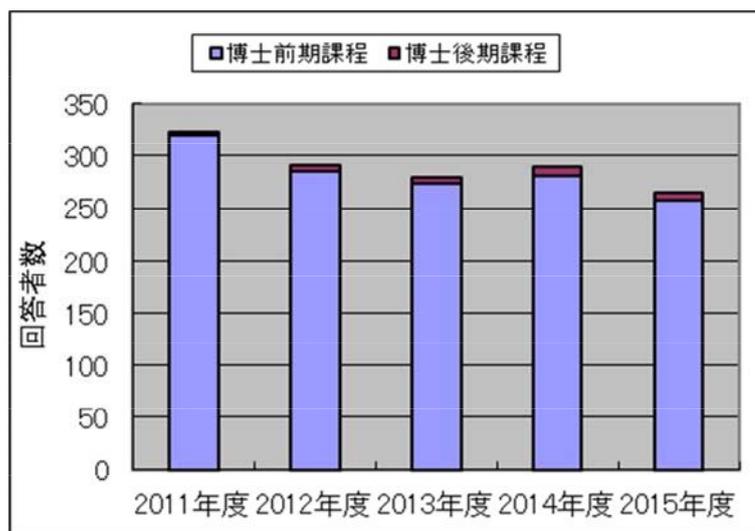
[1]あなたの課程、専攻についてお答え下さい。

[1-1]あなたが修了される課程は何ですか。

A（博士前期課程）257名

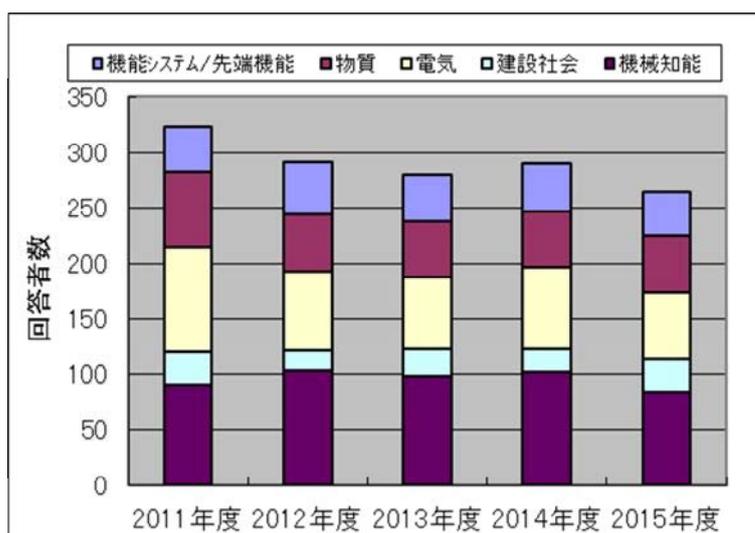
B（博士後期課程）8名

昨年87.7%であった博士前期課程の回答率が増加した（在籍者数の減少により回答者数は減少したが回答率は増加）。博士後期課程も昨年の46.1%より大幅に増加し72.7%に達した。



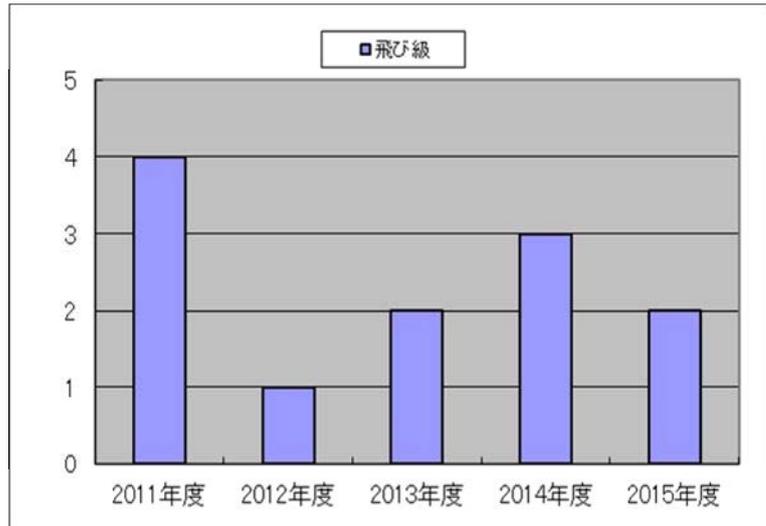
[1-2]あなたが修了される専攻は何ですか。

機械知能 : 84名  
 建設社会 : 29名  
 電気電子 : 61名  
 物質 : 51名  
 先端機能システム : 40名



[1-3]飛び級入学の方は [ ] に○を入れてください。 [2名]

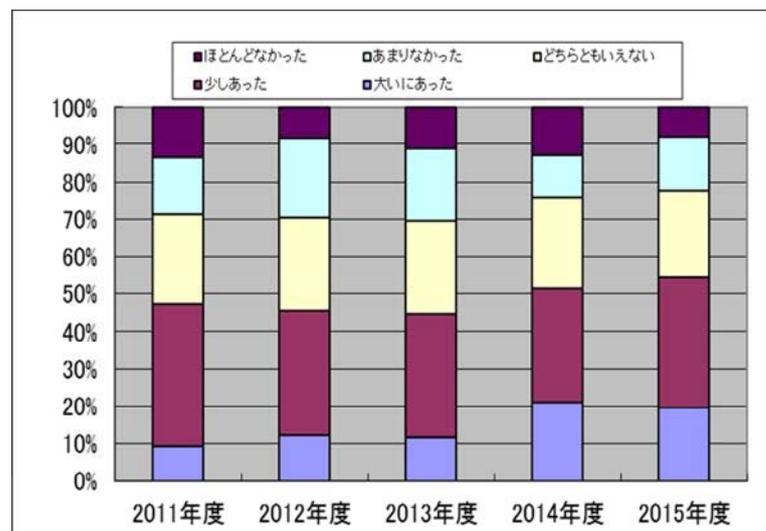
飛び級の入学者は2名であった。飛び級は大学生活が1年間短縮されるという特殊要因が加わるために、推薦されても辞退する学生も多い。飛び級の大学院修了者の動向調査を行うことの検討も必要。



[2]工学府・工学研究科における大学院教育があなたの成長（自己形成）に及ぼした効果についてお尋ねします。

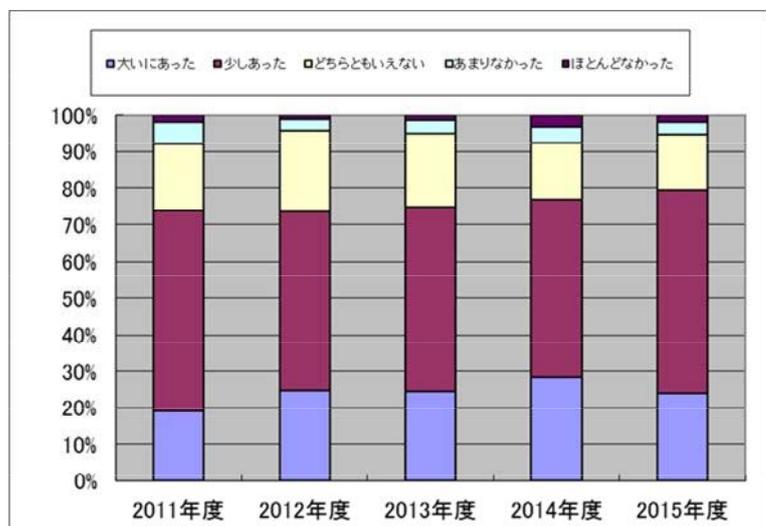
[2-1]外国語科目はあなたの自己形成に効果がありましたか。(受講生のみ)

昨年と比べると「大いに効果があった」及び「少しあった」と回答した学生の比率が増加した。外国語科目の重要性が徐々に認識されている傾向がみられる。



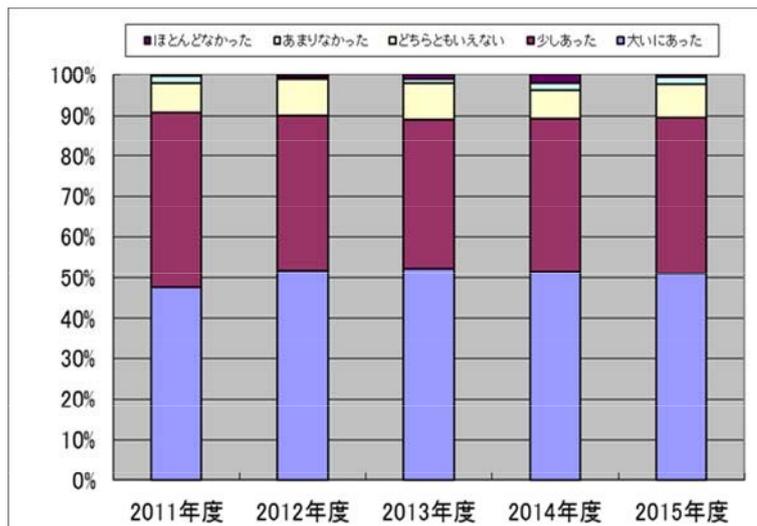
[2-2]共通科目はあなたの自己形成に効果がありましたか。

「大いにあった」が少し減少したものの「少しあった」を含めると80%程度になり、一定の効果を果たしていると思われる。



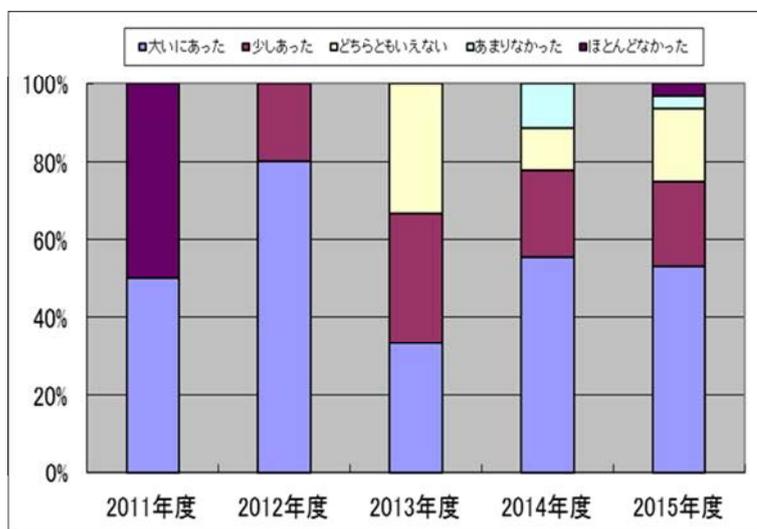
[2-3] 専門科目はあなたの自己形成に効果がありましたか。

昨年とほぼ同じ傾向である。「大いにあった」と「少しあった」で90%近くを維持しているということから専門科目の自己形成に対する高い影響力が窺える。



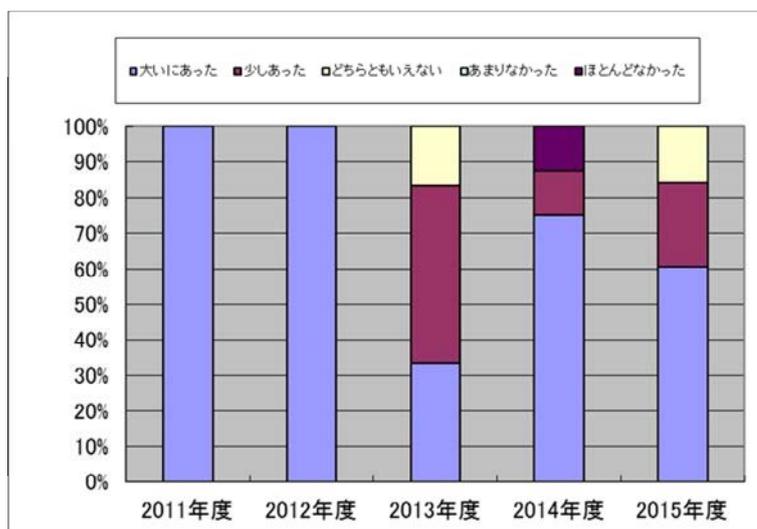
[2-4] 学外研修・特別演習はあなたの自己形成に効果がありましたか。(博士後期課程の方のみ)

「大いにあった」「少しあった」で80%近くになり、効果があることが窺えるが、「どちらともいえない」との回答が増加している。



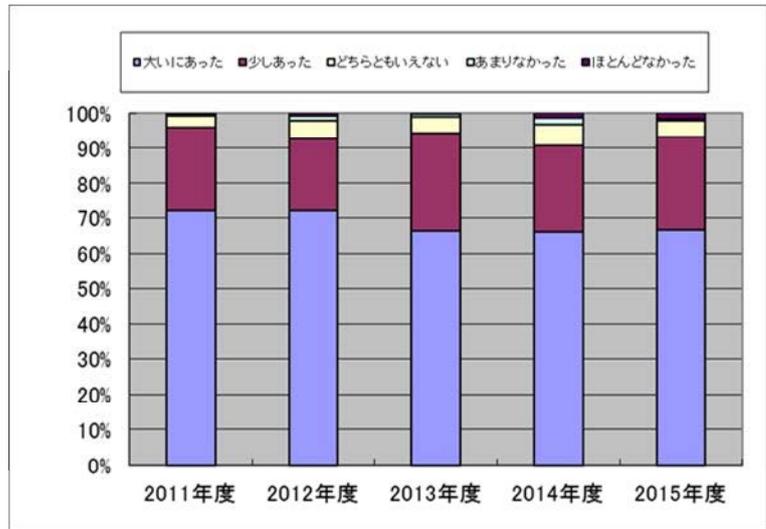
[2-5] プロジェクト研究はあなたの自己形成に効果がありましたか。(博士後期課程の方のみ)

「大いにあった」「少しあった」で90%近くで、効果があると考えられるが「どちらともいえない」との回答が増加している。



[2-6] 学位（修士・博士）論文のための取組みはあなたの自己形成に効果がありましたか。

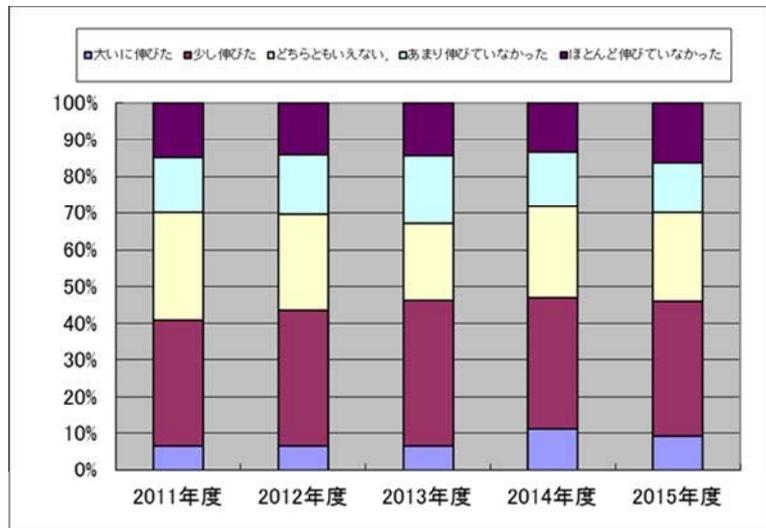
「大いにあった」「少しあった」との回答が90%を超え、昨年より増加している。



[3] 英語力についてお尋ねします。

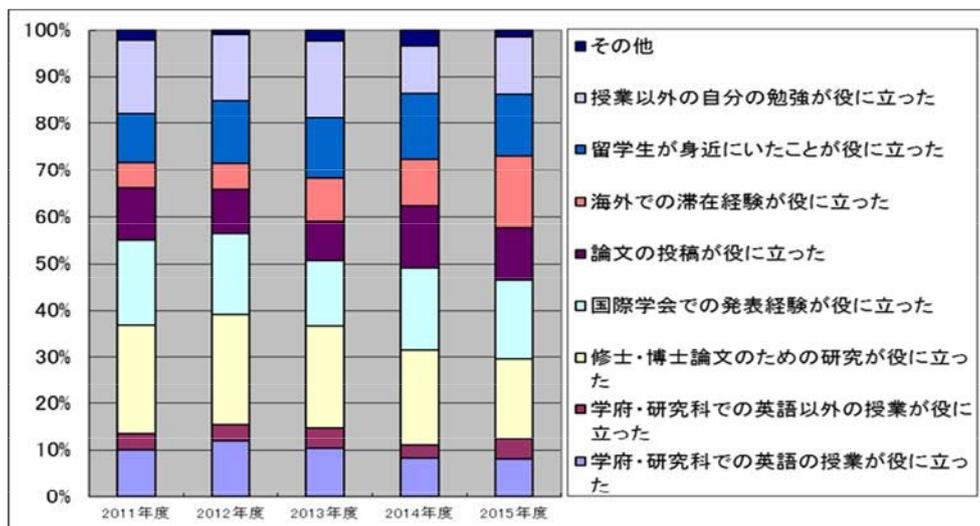
[3-1] 研究科の在学期間であなたの英語力は伸びましたか。

「大いに伸びた」と「少し伸びた」が50%近くに達した状態を維持している。これらの数を増やす方策の検討が必要である。



[3-2][3-1]でA（おおいに伸びた）またはB（少し伸びた）と回答された方：その理由は何ですか。（複数回答可）

「国際インターンシップ等を通じた海外への渡航を推進している効果が現れて「海外での滞在経験が役に立った」の割合が増えている。



## I (その他) [具体的に]

- ・ インターンシップ
- ・ 研究室の留学生との交流
- ・ 英語の論文を読むことで、リーディングが少し身に付いた

[3-3][3-1]でD(あまり伸びていない)またはE(ほとんど伸びていない)と答えた方:その理由は何ですか。

英語に触れる機会が少ないとの回答が多い。また英語学習に対する努力の不足を自分自身で感じている者も多い。これからの社会での英語の必要性を強く認識させるとともに、「英語力」を必要とする機会を増やす方策が望まれる。

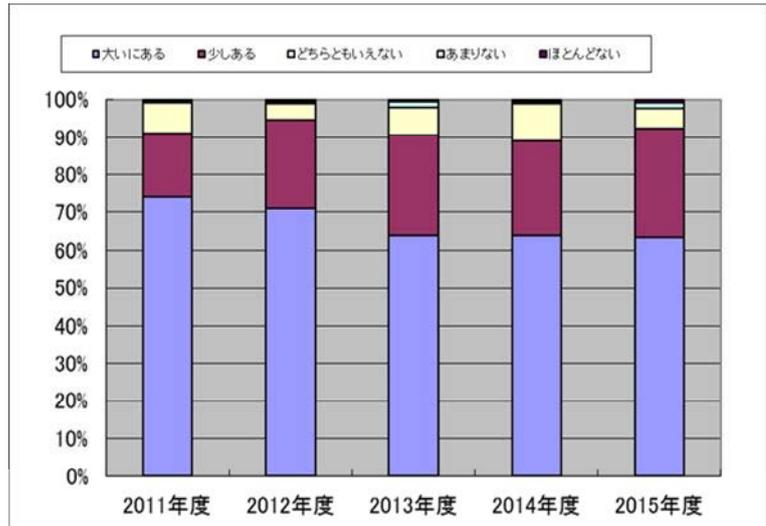
- ・ TOEIC以外であまり英語にふれなかった
- ・ 勉強しなかったから
- ・ 英語を使用する機会が少ない
- ・ 英語以外の課題に取り組んだため
- ・ 授業がない
- ・ 英語を使う機会が少なかったため
- ・ 勉強をしていないため(英語の)
- ・ 勉強時間が足りなかったから
- ・ 修士課程で英語授業がなかったので
- ・ 教え方が中途半端すぎ。伸ばすなら徹底してほしい
- ・ 関わる機会がなかった
- ・ 自身の努力不足
- ・ 機会なし
- ・ 留学生との交流をしなかった
- ・ 学習する機会があまりなかった
- ・ 英語力が伸びる機会がない
- ・ 英語にふれていない
- ・ 苦手意識から英語を遠ざけてしまっていた
- ・ 英語に接する機会が少なかった
- ・ 取り組み具合が足りなかった
- ・ 進んで英語に取組まなかった
- ・ 英語を学ぶ意欲がない
- ・ 使わないからです
- ・ 英語の授業が難しかったため
- ・ 英語を使う場面が日常にないから
- ・ どうすればいいのか
- ・ 積極性に欠けた
- ・ 必要性を感じる事がほぼなく、勉強
- ・ 勉強していない
- ・ 英語の科目を受けていないので
- ・ 英語の勉強を行わなかったため
- ・ 今までの単語力ではまったくわからない文章であり、専門用語が多数でてきたから

- ・ 英語に携わる機会がなかった
- ・ 英語に触れる機会、英語で話す機会がなかった
- ・ 英語を積極的に勉強しなかったから
- ・ 英語にふれる機会がほとんどなかったため
- ・ 英語にふれる機会が無かった
- ・ 勉強する機会がなかった
- ・ 勉強しなかったから
- ・ 授業が少ない
- ・ 英語にふれる機会が少なかった
- ・ 英語を学ぶ時間と余裕が無かった
- ・ 自らの意欲がなかったから
- ・ あまり勉強しなかったため
- ・ 英語を使う機会があまりなかったから
- ・ 日常的に使わないから
- ・ 英語の必要性があまり実感出来なかったから
- ・ 国際学会での取り組み以外で特に頑張らなかった
- ・ 学ぶ機会があまりなかった
- ・ 英語学習を怠ってしまったため
- ・ 使う機会がない(少ない)
- ・ 使う機会が少なかったから
- ・ あまり勉強を使う機会がなかった
- ・ 英語関連の授業がほとんどない
- ・ 勉強してない
- ・ 勉強不足。自主的にできていなかったため
- ・ 授業時間が短い
- ・ 英語科目の授業で、英語を訳すだけの内容だったので身に入らなかった
- ・ 勉強してない
- ・ 英語論文しか読んでおらず、英語の勉強はしてこなかったから
- ・ 勉強していないから。苦手意識が拭えなかったから
- ・ 特に何もしなかったから
- ・ 英語の必要性があまりない
- ・ TOEICの点がのびなかった
- ・ 英語をする暇が無かった
- ・ 英語を使うことがほとんどなかったから
- ・ 英語をあまり学ばないため
- ・ 高校英語の方が高級だった
- ・ 取り組めなかった
- ・ TOEICの点数が変わっていない
- ・ 勉強不足
- ・ 自発的に英語の学習をしようと思わなかったから
- ・ しないから

[4] 学位（修士・博士）論文のための取組みについてお尋ねします。

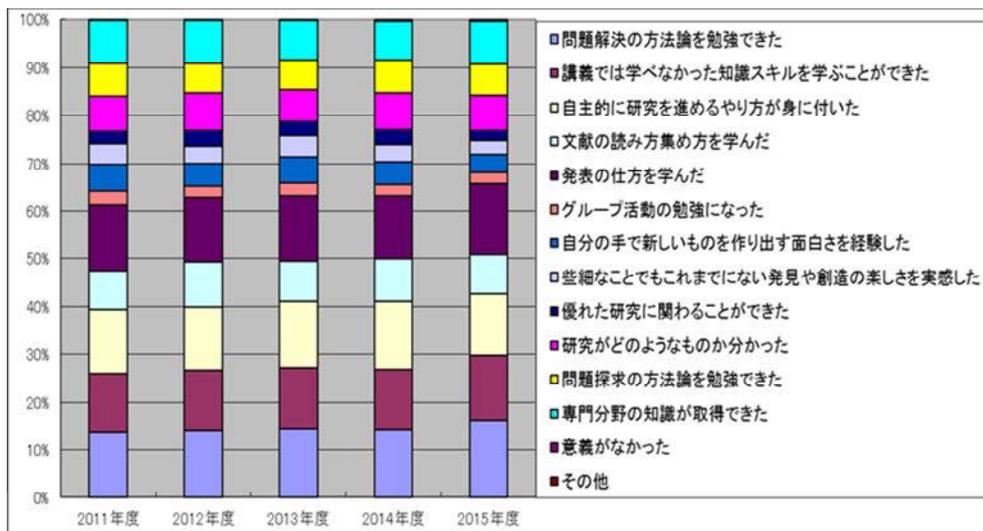
[4-1] 学位論文の意義はあると思いますか。

「ほとんどない」「あまりない」はほとんどなくなり90%以上の高率で意義があると考えている。



[4-2][4-1]でA（大いにある）またはB（少しある）と答えた方：その理由は何ですか。（複数回答可）

ここ5年間比率に大きな変化はなく、課題解決の方法論、自主的に研究を進めるやり方、講義では学べない知識・スキルの取得、発表の仕方が上位を占め、それらの比率は増加傾向にある。



N（その他） [具体的に]

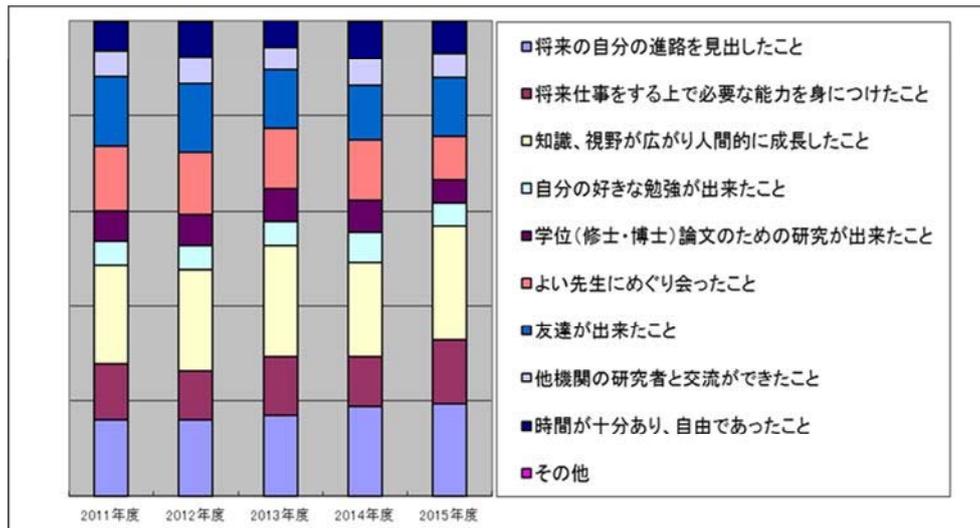
- ・ プロジェクトに沿った研究ができ、とても楽しかった
- ・ 自分自身の考えを形成することに役立った

[4-3][4-1]でD（あまりない）またはE（ほとんどない）と答えた方：その理由は何ですか。（複数回答可）

- ・ 学生がしたいならいいけど、他にしたいことがあってじゃまだったから
- ・ 教授のさじ加減で決まるから
- ・ 教授の力が強すぎて、自由に出来ない
- ・ 卒業のために時間を拘束するものでしかなかった
- ・ 論文の必要性を感じなかったため

[5] 学府・研究科生活を振り返って、どのようなことが良かったと思いますか。（複数回答可）

「将来の自分の進路を見出した」及び「知識・視野が広がり人間的に成長した」が増加傾向にある。進路を重視する者が増加しているようである。



J (その他) [具体的に]

- 論文の書き方、発表方法など

[6] 入学した専攻についてお尋ねします。

「はい」が90%に増加しており、専攻選択時のミスマッチは減少している。

[6-1] 現在の専攻に入学してよかったと思いますか。



[6-2] [6-1]でC (いいえ) と答えた方：その理由は何ですか。

- 自己の成長が見られなかったため
- 就職が厳しい
- 研究した結果、魅力を感じなかったため

[7]進学時の目標についてお尋ねします。

[7-1]あなたは進学の際に研究科で達成したい目標がありましたか。

目標を持って進学した院生の割合が昨年よりわずかに増加した。



[7-2] [7-1]でA (はい) と回答された方。現在どの程度達成されていますか。

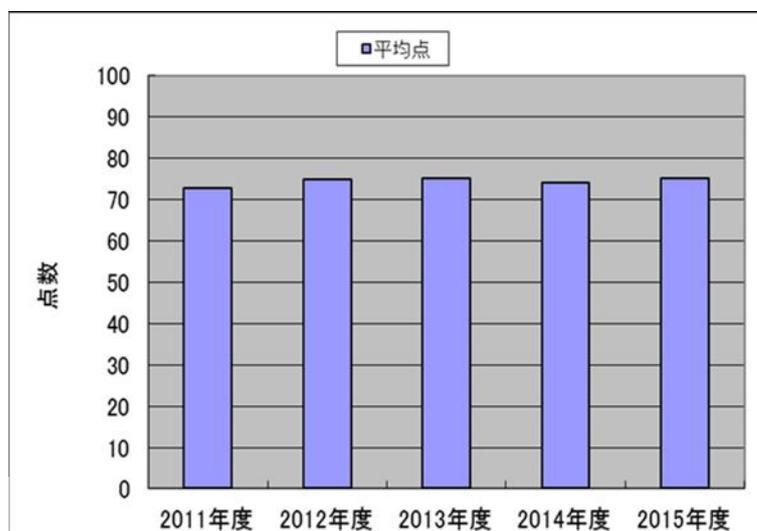
「十分達成された」が増加傾向にあり、達成感を有している院生の割合は80%以上と多い。しかし、「ほとんど達成されていない」が減ったものの数%いることは注意していく必要がある。



[8]学府・研究科在学中の学生生活の満足度に対して100点満点で点を付けるとすれば何点と思いますか。

数年間大きな変動はなく、70点強となっている。さらに向上に向けた問題解決・解決方法等の調査(質問項目の追加)などの努力が必要であろう。

学生生活で不満を感じたことを具体的に挙げてもらうなどの質問項目の追加の検討が必要であろう。



[9] 修了後の進路についてお尋ねします。

[9-1] あなたは修了後就職しますか、進学しますか。

就職する院生が95%以上で残りの学生が進学する傾向はここ数年変わらない。今後高度な研究者を社会に輩出するためにも博士後期課程への進学率向上に向けた努力が必要であろう。



[9-2] あなたは修了後の進路に満足していますか。

修了後の進路に満足を感じている院生の割合は回復しており、就職活動期間の大幅な変更が続いた割に変化が小さい。満足度向上のためには、本人の研究科在学中での研究能力や基礎学力が向上するようにどれだけ努力したかが最も重要である。また、進路指導等についての大学側の企業調査・学生と企業のジョブマッチングについて指導する専門部署の開設なども必要であろう。



[9-3] [9-2]でD（やや不満である）またはE（不満である）と答えた方：その理由は何ですか。

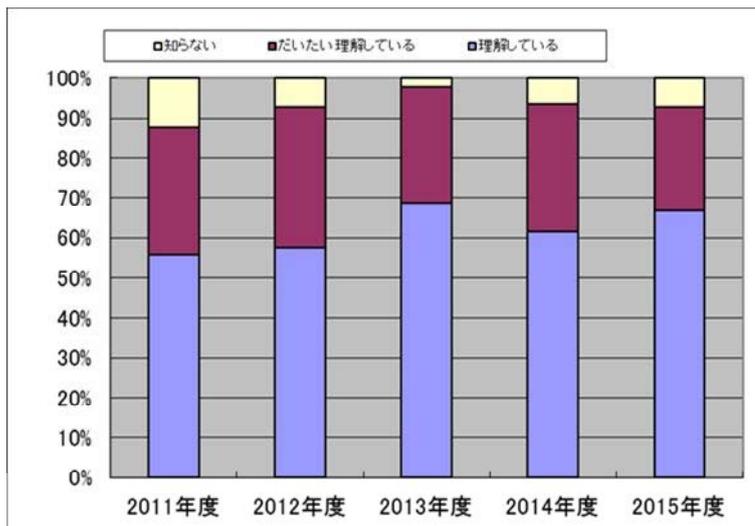
不満足感に加えて、不安感もあると思われる（求人数は増加しているものの、結局は、本人の研究科在学中における努力不足に起因することも考えられる）。

- ・ 不満というより、不安です
- ・ もっと大きい企業に就職したかった
- ・ 第一志望の会社へ就職できなかったため
- ・ 志望した企業に就職できなかったため
- ・ 希望した職種でなかった
- ・ ポスドクの為
- ・ 就職終了後に新たにやりたいことが見つかったため

[10]研究活動についてお尋ねします。

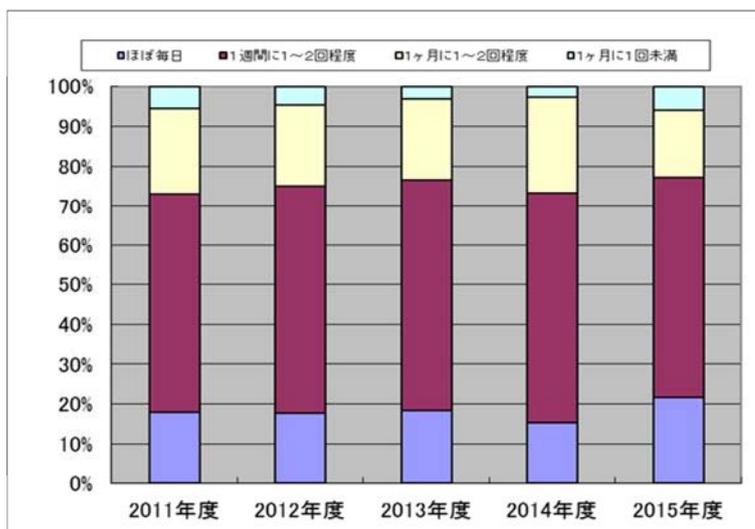
[10-1]進学時の研究室の配属決定方法を理解していますか。

研究室配属決定方法を知らない院生は10%弱で変わらない。配属に関するミーティング時に、配属規定の細かな説明・周知を行ってはいるが、さらなる周知徹底が必要であろう。学科及び教員側は、説明方法を工夫し、努力をしているものの、説明開催時に参加しない学生、理解できなくても質問しない学生側の資質の問題も垣間見られる。



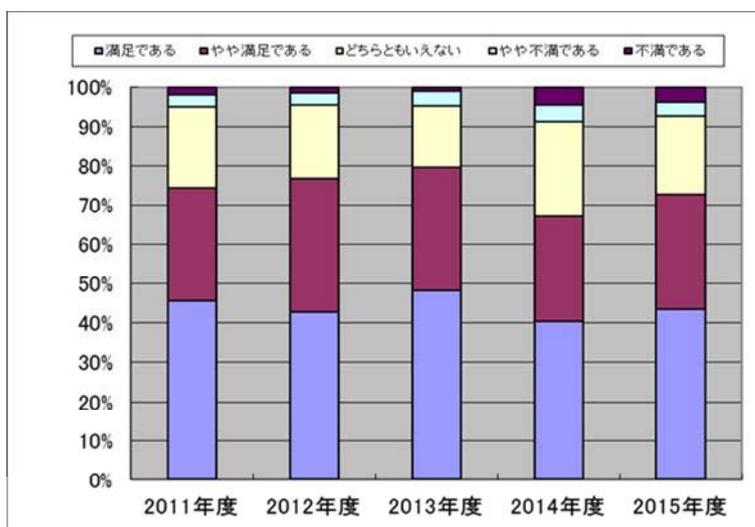
[10-2]研究指導ほどの程度の頻度で受けましたか。

研究指導の頻度については、その割合は数年間変わっていない。「1週間に1～2回程度」が最も多く、「1ヶ月に1～2回程度」と「ほぼ毎日」が同程度であった。教員が院生の研究指導にもっと多くの時間を割けるような対策を講じる必要がある。そのためには、大学の各種委員会の負担軽減や効率化も1つの課題と思われる。



[10-3]あなたの研究に対する指導方法について、どのように思っていますか。

「満足である」と「やや満足である」と回答した割合が70%を上回った。更なる院生の研究指導方法の改善の努力・工夫を続ける必要がある。



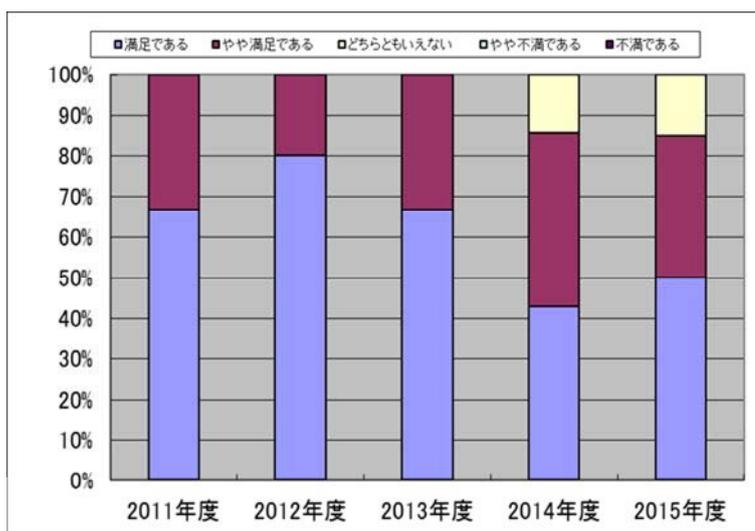
[10-4][10-3]でD（やや不満である）またはE（不満）と答えた方：その理由は何ですか。

学生から見た場合に分かり難い表現が教員側から発せられることが一因と認められる。発言の意図や真意を伝えるための時間をかけた指導を必要とする学生が増えていると思われる。学内の各委員会・ワーキング会議等の簡素化・効率化などの検討を含め教員が院生の研究指導にもっと多くの時間を割けるような対策を早急に講じる必要がある。

- ・ 教授と会える機会が少ない
- ・ 日々の報告結果で方針が変わりやすく、無駄が多い
- ・ 無駄が多すぎてイライラする
- ・ ほとんど干渉せず、全く力が付く気がしない
- ・ 教授の都合の最優先でふりまわされる。時間にルーズ
- ・ やりたい研究ができなかった
- ・ 教授が研究に興味あまりない
- ・ 考えが合わない
- ・ 自主性に乏しくなってしまった
- ・ 指導は満足しているが指導して下さる先生方が複数人いて、身動きが取りづらい時があった
- ・ その場の思いつきだけを提案されるため
- ・ 理不尽教授の知識が少ない。こうそく時間が長い
- ・ 個人的な好き嫌いで判断する
- ・ 人によって態度を変える。完全にムシされる人もいる
- ・ 放置気味なところがある
- ・ 話が通じない
- ・ 気軽に相談ができない
- ・ 指導力に問題があると感じた

[10-5]あなたの研究に対する指導体制（指導教官グループ）について、どのように思っていますか。（博士後期課程の方のみ）

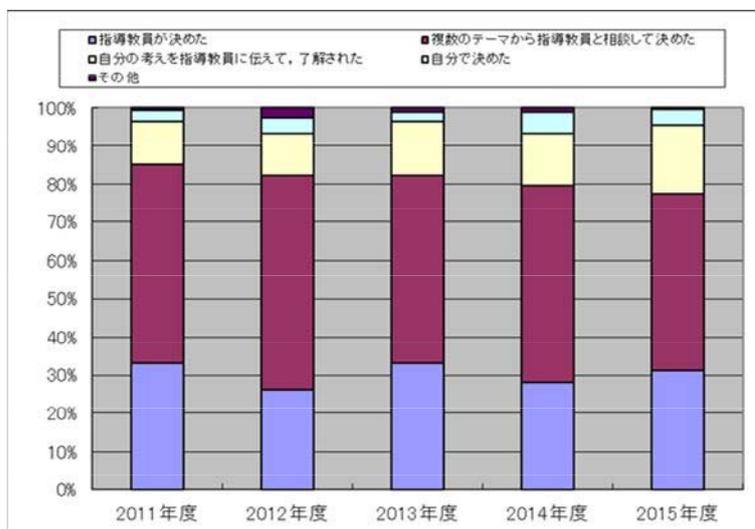
不満は無いものの、「どちらとも言えない」との回答があり、満足度の低下傾向が認められる。[10-6]に回答が無いため詳細は不明であるが、今後の推移を継続して調査する必要がある。



[10-6][10-5]でD（やや不満）またはE（不満）と答えた方：その理由は何ですか。（回答者なし）

[10-7]研究テーマはどのように決定されましたか。

指導教員との話し合い、あるいは複数の候補から研究テーマを決める割合が多く、この傾向はあまり変化していないが学生からの提案も増加傾向にある。社会の動向や要請に応える研究テーマも、工学系大学の研究としては、意味があると思われる。学生のポテンシャルが高ければ、学生本人から提案するよう指導するのも、1つのやり方かもしれない。

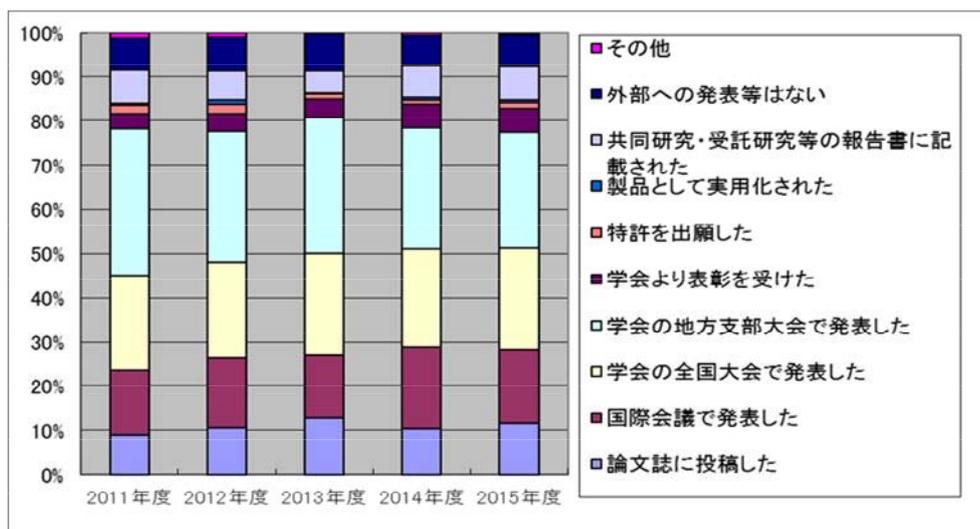


E (その他) [具体的に]

- ・ 卒論の延長

[10-8]あなたが在学中に研究したテーマの成果は下記のうちどれに該当しますか。(複数回答可)

論文誌への投稿、国際会議や学会の全国大会での発表については、ある程度の水準を維持している。高いレベルの研究を積極的に推進する意味でも、国際会議等での発表等へ繋がるような積極的な研究指導が望まれる。まったく発表しないケースも見られるので、さらに改善が必要と思われる。

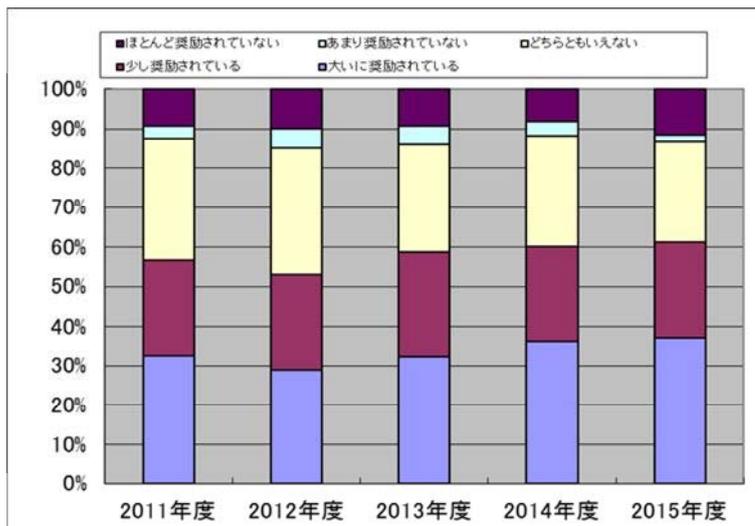


J (その他) [具体的に]

- ・ 後輩が学会にて発表予定
- ・ ポスター発表

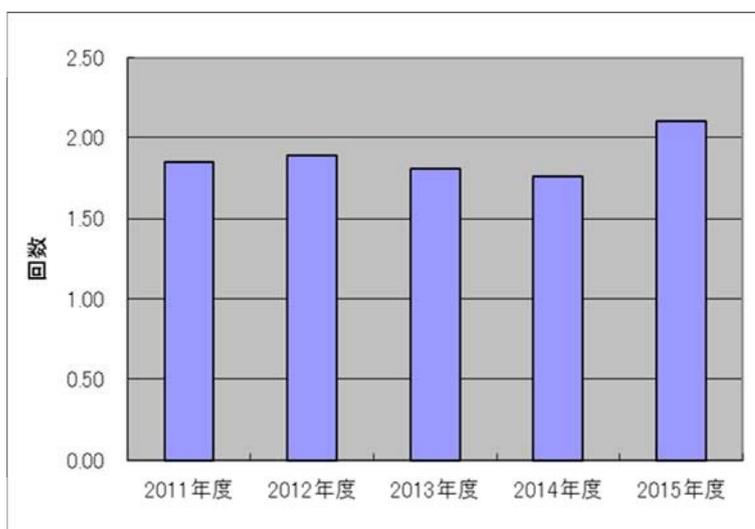
[10-9]学外での研究活動(学会発表や他機関での研究活動等)を奨励されていましたか。

「おおいに推奨されている」あるいは「少し推奨されている」と感じている学生の割合が60%を維持しており、微増の傾向にある反面、「ほとんど奨励されていない」が微増している。他の研究者と意見交換する能力を身につけ、新たな研究領域の見識を広めるためにも、学生を学会で研究活動をさせるのは至極当たり前のことで有り、今後も教員の指導姿勢への意識の改革が必要である。



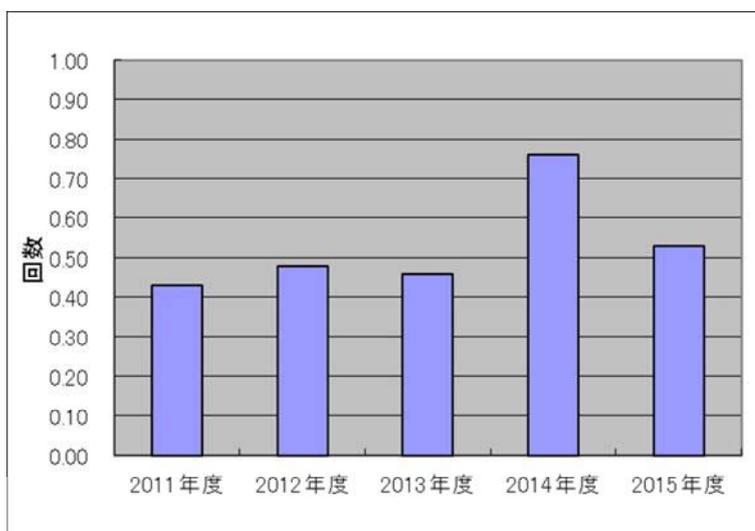
[10-10]あなたは在学中に国内学会(大会等)で何回発表しましたか。

院生の発表回数が2010年度以降2.0以下でほぼ横ばいであったが、2015年度は2.00を超えることができています。在学年数からみて、最低2回程度は妥当であろう。今後も、機会を与えるよう教員側の積極的な研究指導の継続が重要と考えられる。



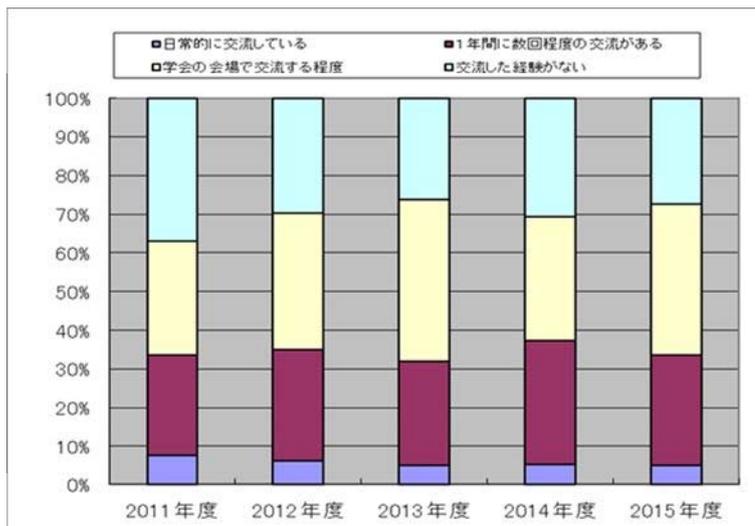
[10-11]あなたは在学中に国際会議で何回発表しましたか。

2014年度は大きく増加に転じていたが、2015年度は2013年度並みに減少している。大学教育環境のグローバル化が叫ばれる中、国際会議での発表などの経験は極めて需要であり、今後、さらに増加するよう努力が必要であると思われる。



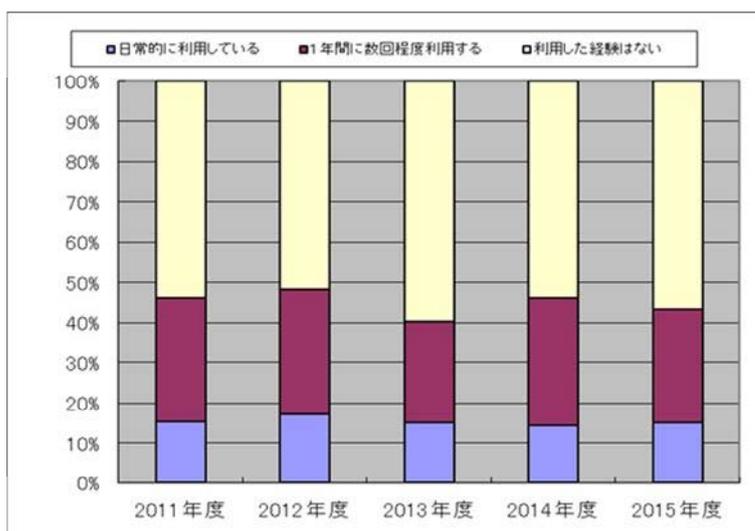
[10-12]学外の研究者（国内および国外）と研究交流した経験がありますか。

傾向は横ばいで、顕著な変化は認められない。交流頻度は、グローバル化が積極的に推進される環境下では不十分と思われる。指導教員がさらなる国際的な交流の活発化を図るよう努力する必要がある。



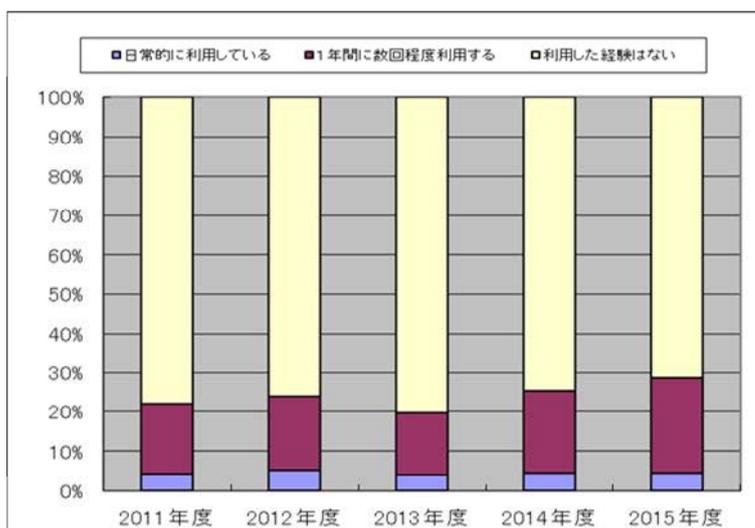
[10-13]学内の共同利用施設（情報科学センター、機器分析センター等）を研究のために利用した経験がありますか。

経験者の割合は50%近くであり、日常的に利用している学生数は20%弱の傾向は、前年度とほとんど変化していない。高度な研究推進のためには、この傾向の更なる向上が重要であると思われる。もちろん共同利用施設に、先端の測定機器等が潤沢に導入されていることが必須条件となる。しかし、国の施策の問題もあり、先端機器の老朽化等の問題を抱えており、先端研究の高いレベルでの維持のためにも大学指導部の協力も必要と考えられる。



[10-14]学外の共同利用施設等を研究のために利用した経験がありますか。

経験者の割合は、30%近くあり、わずかに前年よりも増加している。学内にない測定機器に関しては、積極的な学外利用が必要と思われる。ただ、学内にない測定機器が学内に導入するような努力が望まれる。



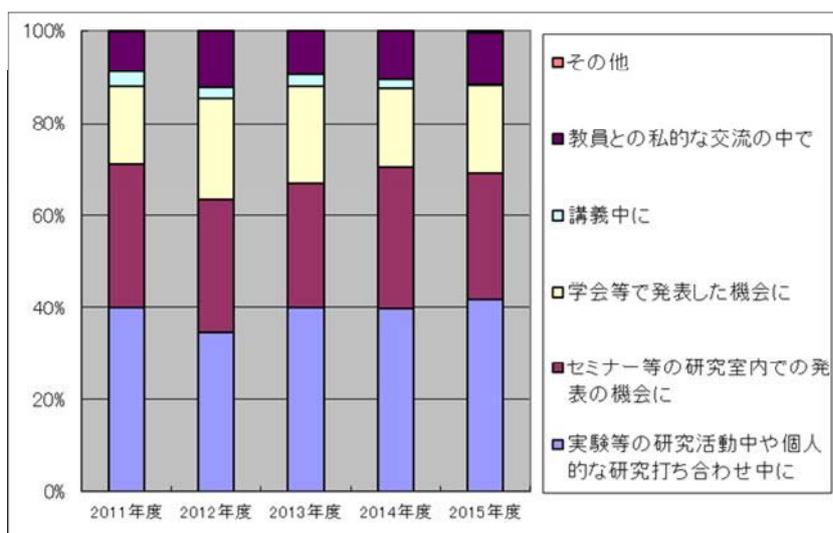
[10-15]学位論文の研究を通して、研究遂行に対して競争意欲が向上するような指導を受けたことがありますか。

指導されている院生の割合は昨年度よりも増加しているが、以前70%を下回っている。[10-3]と連動しているように思われる。継続的な指導改善の取り組みの必要性がある。教員側も世界最先端レベルの研究の高い競争力の維持・高度な研究者の育成のためにも、学生の指導方法について更なる工夫が必要と思われる。



[10-16][10-15]でA（よく指導されている）またはB（指導されたことがある）と答えた方：それはどのような機会に指導されましたか。（複数回答可）

講義中との解答がなくなっているが、教員との個人的な研究打ち合わせやセミナー、学会発表等で指導を受けている学生の割合は90%に達し、この傾向が続いている。



F（その他） [具体的に]

- ・ 共同研究先との打ち合わせ

[11]工学府・工学研究科における講義・演習等についてお尋ねします。

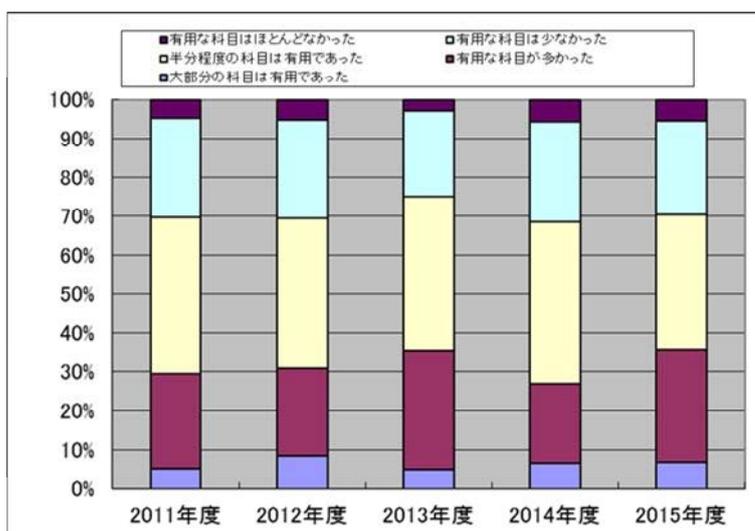
[11-1]工学府・工学研究科における講義・演習等の必要要件単位数は多いでしょうか、少ないでしょうか。

「多い」と回答した院生は減少の傾向が見られ、「やや少ない」と回答した院生が増加しているものの、全体の傾向に大きな変化は認められない。現在の学生の能力からすると理解度を深めるためには、必要要件単位数は現状維持か微増される必要があると考えている。



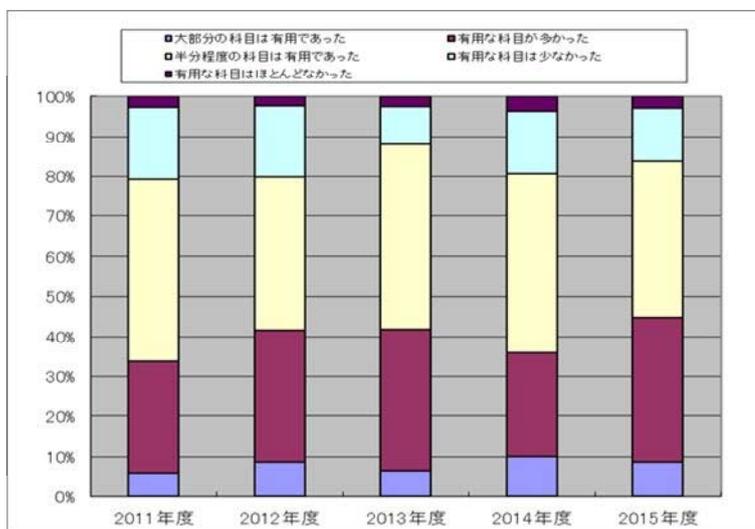
[11-2]工学府・工学研究科で受講した講義科目（演習科目を含む）の中で、自分自身の研究に役立つ科目の割合はどの程度ですか。

70%弱の学生は「有用な科目」と回答しているが、「有用な科目が少ない」と回答した院生が微増したままである。一方で、「有効な科目が多かった」と回答した院生が増加している。有用な科目が増加するように、継続的な講義（演習）内容の改善が必要である。また、学生の科目に対する具体的な意識調査や他大学での動向の調査も必要であろう。



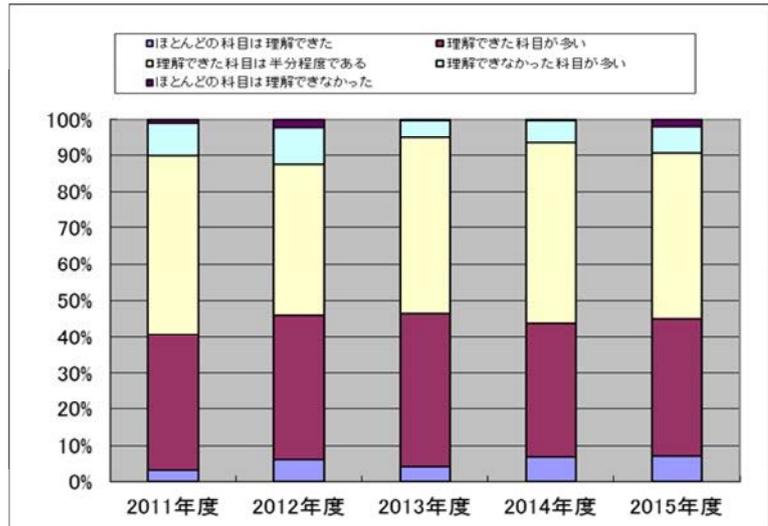
[11-3]工学府・工学研究科で受講した講義科目（演習科目を含む）の中で、自分自身の成長のために有用であり、履修価値があった科目の割合はどの程度ですか。

「半分程度の科目は有用であった」までを含めた修了生は、80%程度となっている。引き続き講義（演習）内容の継続と検討改革が必要と思われる。今後、検討改革のためには、より具体的な有用性の意識調査（具体的科目）等が必要であろう。[11-2]との関連が強い。



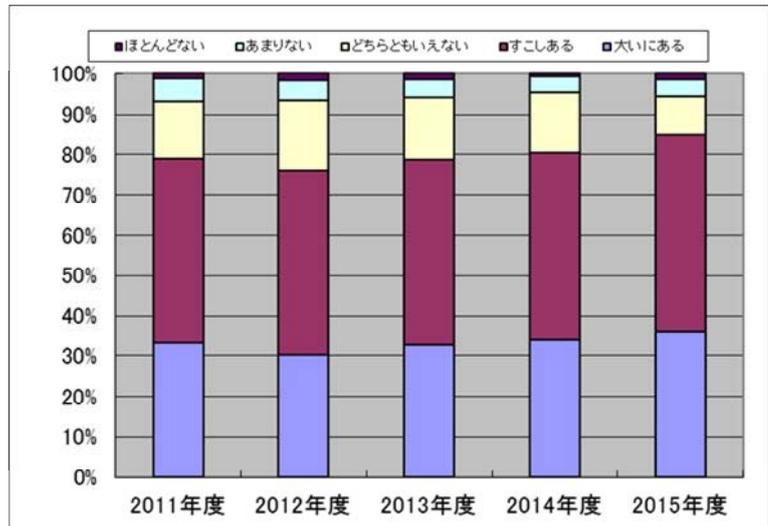
[11-4]工学府・工学研究科で受講した講義科目の理解度はどの程度ですか。

「理解出来た科目が多い」の割合が僅かに増加しているが、「理解できた科目は半分程度である」が減少している。結果として、「理解できなかった科目が多い」の割合が増傾向にあるため、引き続き講義内容や教授方法の検討・改善が必要と思われる。教員側の授業方法についての検討の他に、可能であれば、学生側の授業に対してどれだけ積極的に取り組んでいるかなどの（自己学習や、予習復習の実態）調査も必要と思われる。



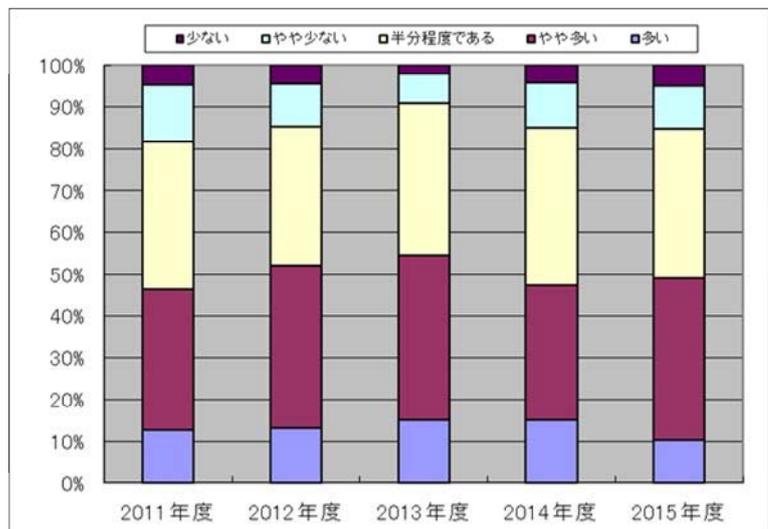
[11-5]学部で履修した科目と研究科で履修した科目の間に、つながりがあったと思いますか。

「学部で履修した科目との関連がある」と回答した修了生の割合が85%程度と増加しており、学部で履修した科目との関連性は高いと判断できる。ただ、「あまりない」「ほとんどない」と回答した学生も5%程度いるため、科目の内容等について更に検討することが望まれる。



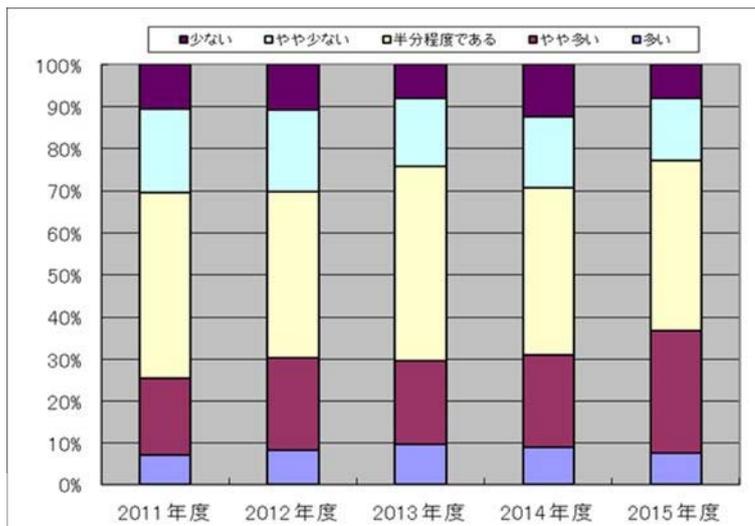
[11-6]工学府・工学研究科で履修した科目全般について、教育への熱意があった担当教員の割合はどの程度ですか。

「半分以上の教員に熱意があった」と回答した修了生の割合は、80%以上を過去5年に亘って維持している。今後の結果を注視すべきである。



[11-7] 工学府・工学研究科で履修した科目で、就職後、仕事をする上で役に立つと思う科目はどれくらいありましたか。

「半分以上の科目は仕事に役に立つ」と回答した修了生は、ここ数年 70% 近くを維持しており、「実学」の観点からの教育効果は維持されていると思われる。



[12] TA、RA等の制度についてお尋ねします。

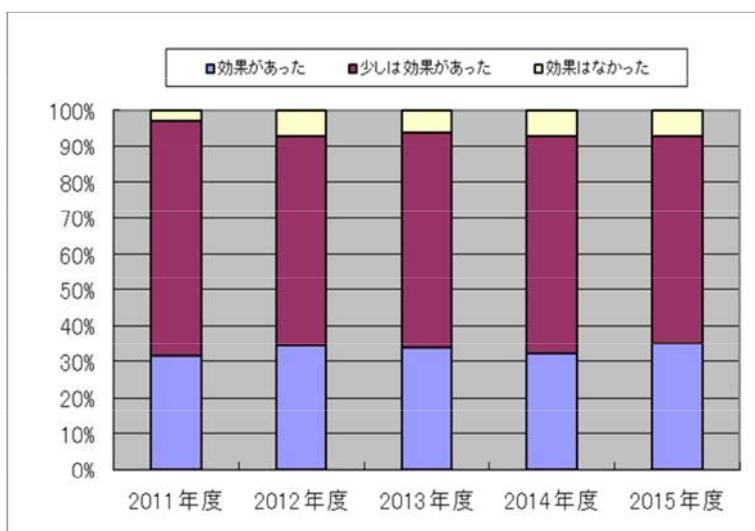
[12-1] TAを担当したことがありますか。

TA経験者は2011年度以降80%以上を維持している。



[12-2] [12-1]でA（効果があった）と答えた方：TA活動を通して、学部学生に対して教育的効果があったと思いますか。

「効果があった」と「少しは効果があった」を合わせるとほぼ90%以上あり、TAが学部教育に貢献していると自己評価している。



[12-3][12-2]でC（効果はなかった）と答えた方：その理由は何ですか。

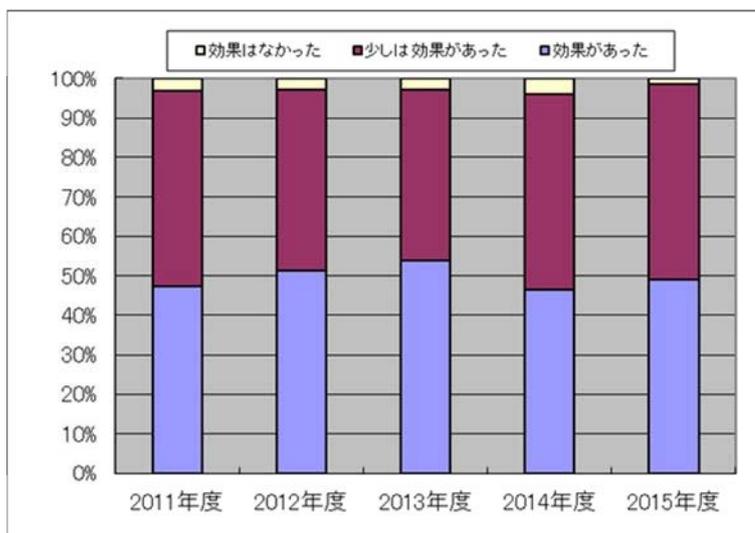
自分が積極的に教育しなかったり、ほとんど先生が教育していた等で、1部その意味を理解せずに関わっていることに不満があることが見てとれる。

- ・ TA活動と教育的効果が結びついていない気がする
- ・ 事務的な作業が多かった
- ・ 基本的にプリントを配るだけだったから
- ・ 手伝いが主であったため
- ・ 自分の知識不足の為
- ・ 形式的だった
- ・ 学部学生のやる気次第のため
- ・ 普段やらない事を指導するので、上手く教えることができなかつた気がします
- ・ 特に関わる事がなかつたため
- ・ 学部生が熱意的に授業に取り組んでいない
- ・ 話を聞かない人が多い
- ・ あまりやる事がなかつた
- ・ どこまで関わっていいのかわからないから

[12-4][12-1]でA（ある）と答えた方：

TA活動は、自分自身にとって教育的効果があったと思いますか。

一貫して 95%以上が、教育効果があったと答えており、TA活動が充分機能していると思われる。



[12-5][12-4]でC（効果はなかった）と答えた方：その理由は何ですか。

TA活動は自分自身にとって教育的効果がなかったとする回答は2015年度には1%であり、この制度が十分教育的な効果を上げていると判断できる。具体的な回答は以下の通りであるが、少数意見である。

- ・ 用意された資料に沿って、手助けをただけなので
- ・ プリントを配るだけだから
- ・ どこまで関わっていいのかわからないから

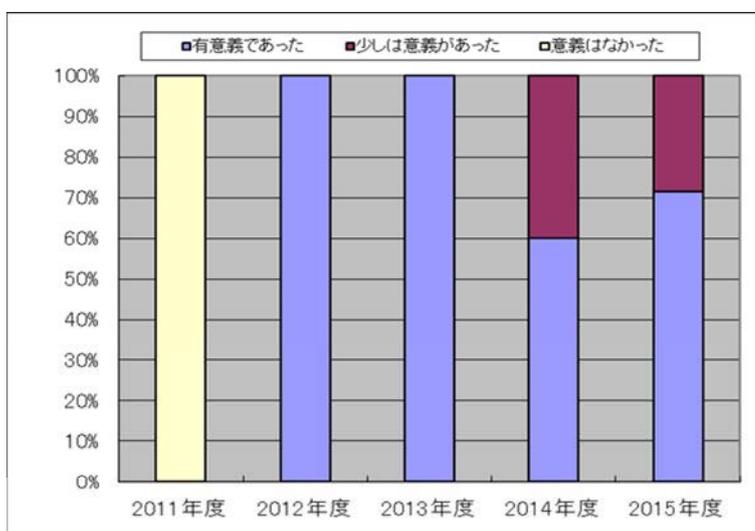
[12-6] R Aを担当したことがありますか。(博士後期課程の修了生のみ)

回答者が少なく、意味のある分析を行なうのが難しい。



[12-7] [12-6]でA (ある) と答えた方。RA活動は、自分自身にとって意義があったと思いますか。

回答者が少なく、意味のある分析を行なうのが難しいが、意義は認められる。

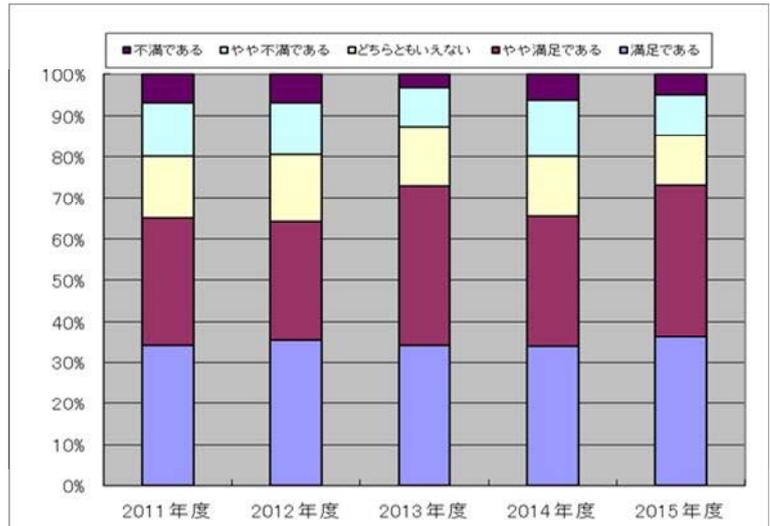


[12-8] [12-7]でC (意義はなかった) と答えた方：その理由は何ですか。(博士後期課程の修了生) (回答者なし)

[13]施設・設備等についてお尋ねします。

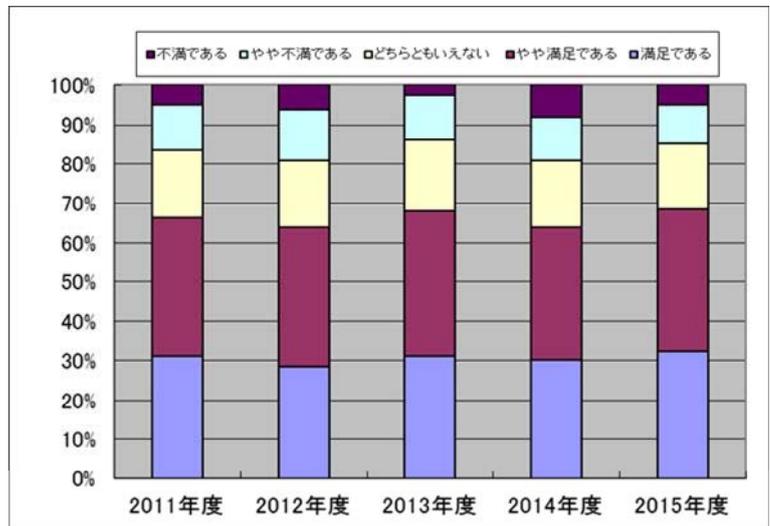
[13-1]研究に使った実験室・実習室のスペースや環境等について満足していますか。

「満足、やや満足」と解答した学生が一貫して3分の2以上を占め、漸増している傾向がみられる。改築等の効果が継続していると思われる。



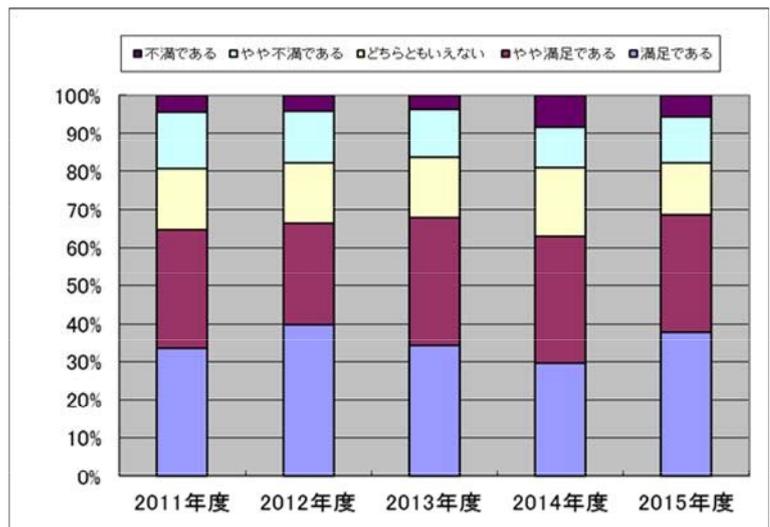
[13-2]研究に必要な設備・装置について満足していますか。

「満足、やや満足」と解答した学生が一貫して3分の2以上を占め、2014年度から漸増している傾向がみられる。改築等の効果が継続していると思われる。



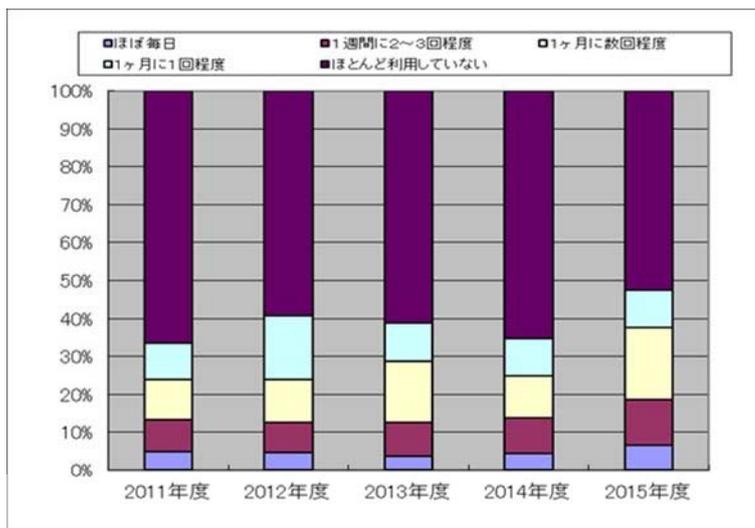
[13-3]研究に必要な情報機器(コンピュータ端末等を含む)の整備状況について満足していますか。

「満足、やや満足」と回答した学生の割合は3分の2程度で定着している。引き続き整備していく必要がある。



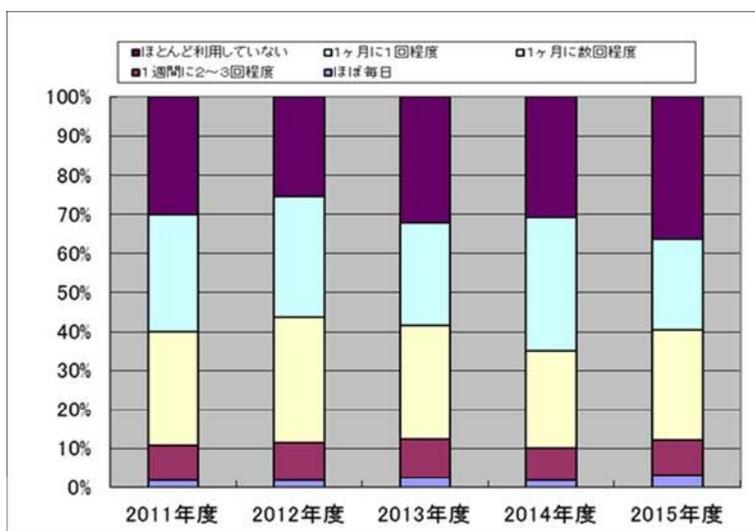
[13-4] 情報科学センターが提供しているサービスをどの程度利用していますか。(インターネットや電子メールを除く。)

2015年度は、利用率が最も高い結果となっているものの、相変わらず約50%の学生が情報科学センターのサービスを利用していない。大学院生の場合、研究室の情報環境を利用していると思われるが、サービス利用の形態について検討をする必要がある。



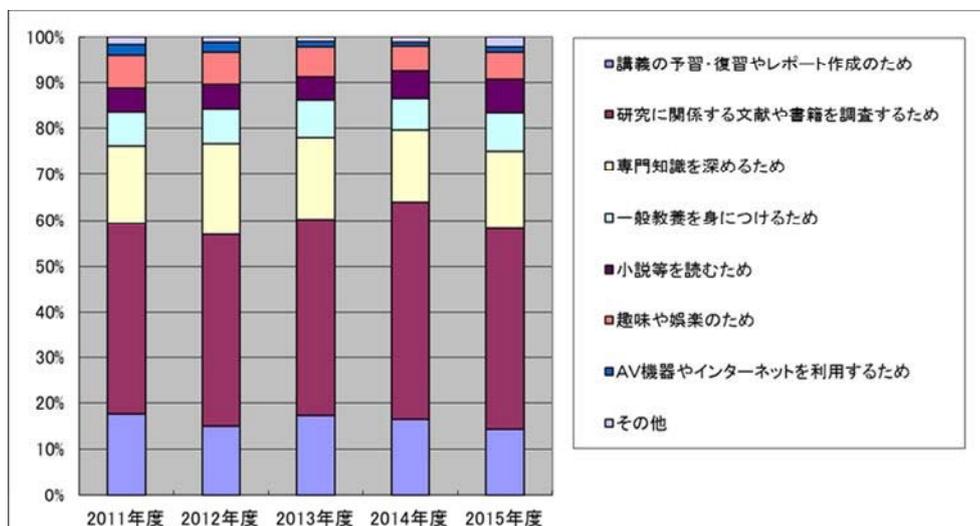
[13-5] 図書館を利用している頻度はどの程度ですか。

例年と同様に図書館の利用頻度は低く、60%の学生が1ヶ月に1回か、殆ど利用なしである。大学院生の研究に役立つ図書館の役割について真剣に検討すべきである。



[13-6] 図書館を利用する主な理由をお答えください。(複数回答可)

学生が講義、研究、専門知識および一般教養に関して図書館を利用している割合の全体的な傾向は大きく変化していない。



## H (その他) [具体的に]

- ・ 新聞を読むため
- ・ 文献探し
- ・ 新聞
- ・ ゼミの発表で部屋を利用するため
- ・ 本を読むため
- ・ TOEICの勉強
- ・ 新聞
- ・ 新聞
- ・ 休憩

## 2. 3 教育達成度評価アンケート：雇用主 (2013年3月以前卒業生)

本節(2.3)と次節(2.4)では、まだ、九州工業大学工学部及び大学院工学府(旧工学研究科)における教育効果が残っていると思われる入社後3年程度を経過した本学卒業生・修了生を対象に、他大学と比較した教育レベルのアンケート調査を実施し、その結果をまとめています。なお、この時、彼らが在職する各会社・各機関(彼らの雇用主)に対しては、本アンケート調査は他大学の卒業生及び修了生に対する本学学生が受けた教育レベルの評価を行うためのものであり、対象者本人の評価を行うものではないことを断わっています。

※アンケート実施年月日 平成28年12月1日

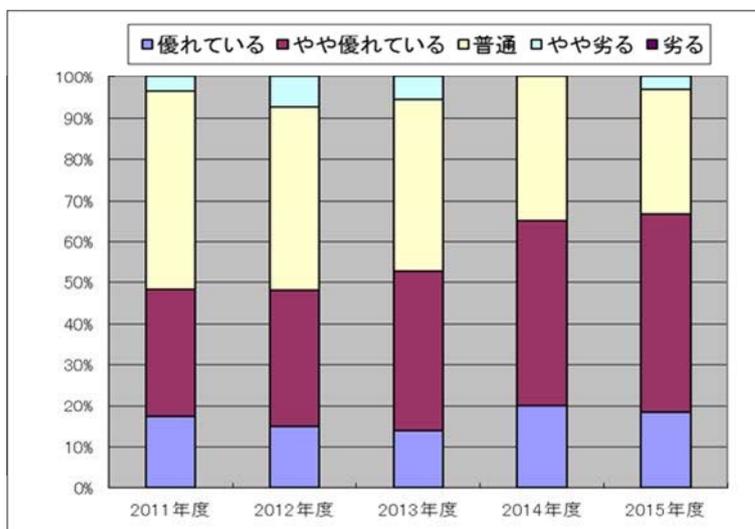
※アンケート回収率

配付枚数	回収枚数
80社	33名

1. 貴社に在籍する九州工業大学工学部卒業生が大学在籍中に受けた教育の習熟度あるいは修得した能力について、該当する項目に○をつけて下さい。

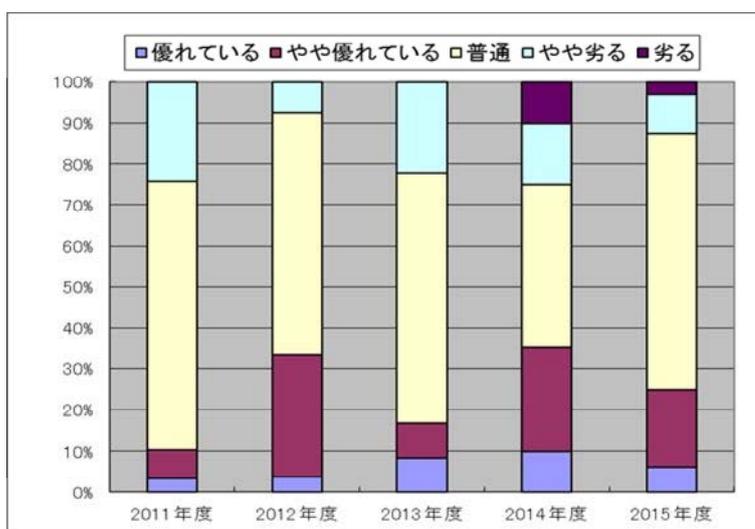
### (1) 卒業生の教養(人文・社会等の一般教養)の習熟度

「優れている、やや優れている」がほぼ同じく60%越えが2年続いている。「やや劣る」は近年徐々に増加の傾向にあったが、この2~3年は減少していた。



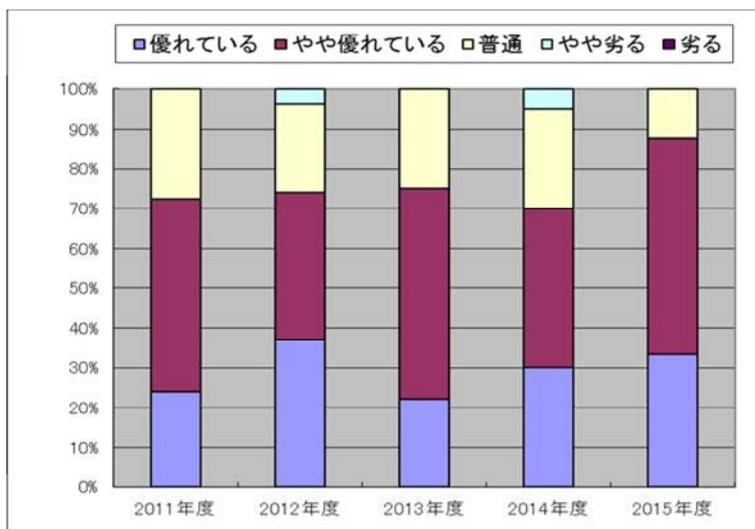
### (2) 卒業生の語学(特に英語)の習熟度

「優れている、やや優れている」が2012年度30%に増加し、「やや劣る」が8%に減少しているものの、2013年度は「優れている、やや優れている」20%以下に減少し、「やや劣る」が20%以上に増加しているが、2015年度は14年度と同様に「優れている、やや優れている」30%程度であり、「やや劣る、劣る」が10%以上に増加している卒業生の語学力に対してなお注視すべきである。グローバル人材教育が求められる時代にあつて、放置できない状況になりつつある。



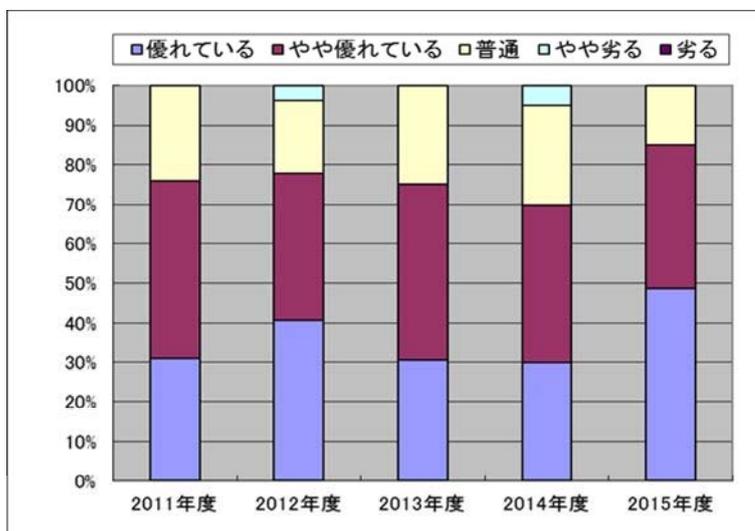
### (3) 卒業生の理数系科目(数学・物理・化学)の習熟度

「優れている、やや優れている」と回答した企業が2010年度から減少傾向にあったが、2015年度は持ち直し、90%に近づきつつある。



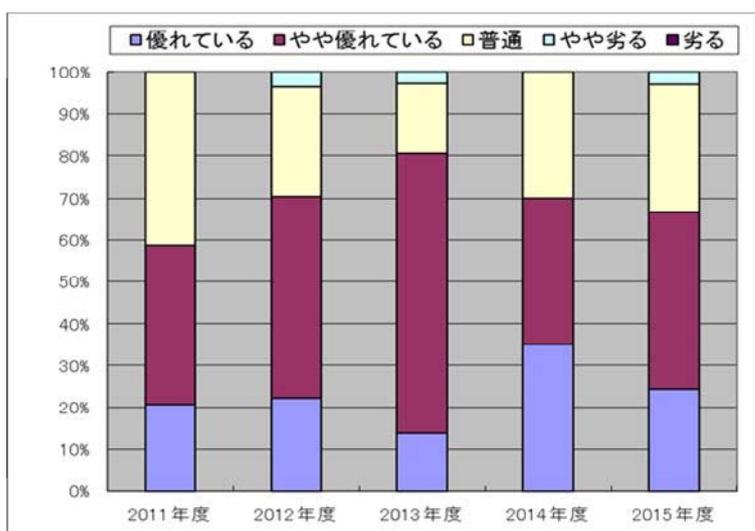
### (4) 卒業生の専門科目の習熟度

卒業生の専門教育レベルについては、「優れている、やや優れている」が年度ごとに一定しないが、60%は割らない。2015年度は80%以上であった。今後も引き続き注視する必要がある。



### (5) 卒業生の課題発見能力

「優れている、やや優れている」が2010年度から減少し続け、2011年度は59%と低さであったが、近年若干の回復傾向がみられるが、なお注視すべきである。



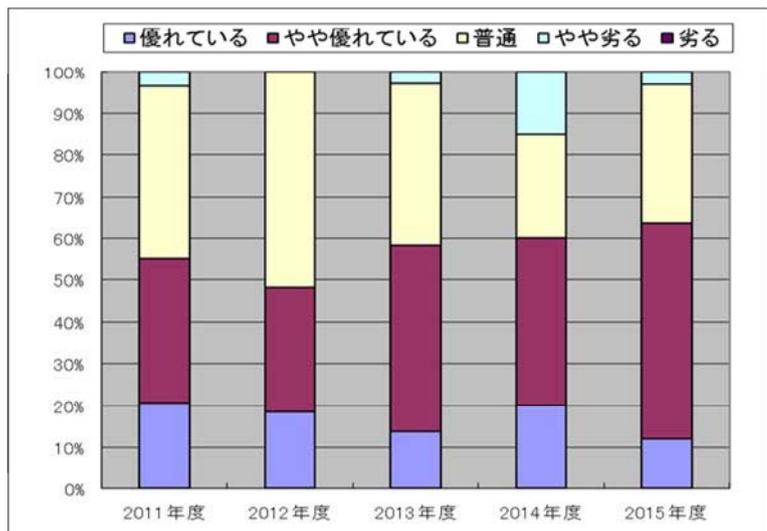
(6) 卒業生の課題探求・解決能力

「優れている、やや優れている」は70%程度になっている。しかし年度ごとの変動もあり、引き続き注視しておく必要がある。



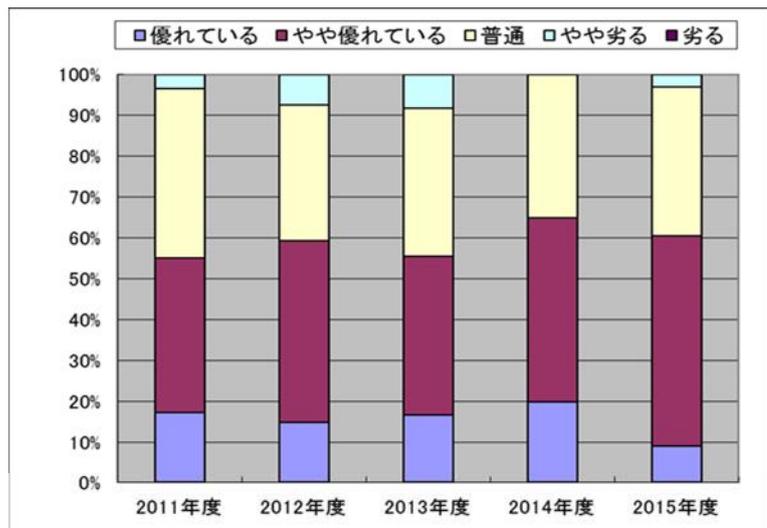
(7) 卒業生の創造的な構想力

「優れている、やや優れている」は50%程度を推移してきた。今後も推移を見守る必要がある。



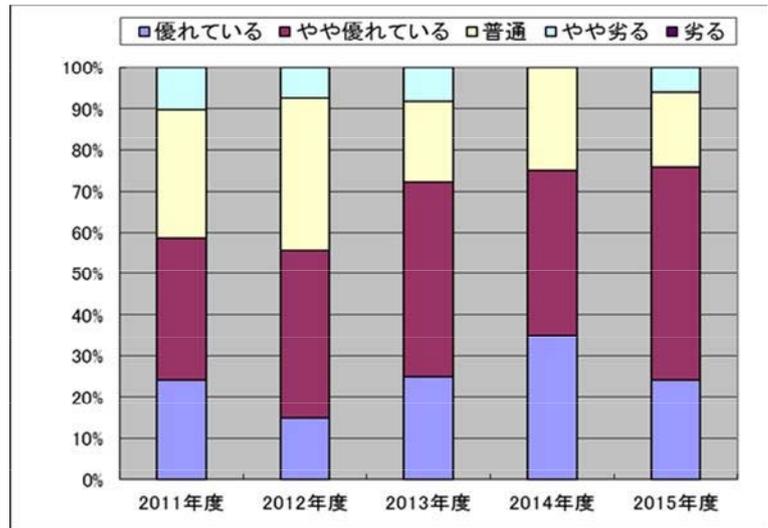
(8) 卒業生の表現力

2011年度以降、「優れている」「やや優れている」を合わせて割合は50%を越えている。2013年度は一時的に微減傾向を示したが、全体的には順調に増加している。また、「やや劣る」「劣る」がなくなったことは評価すべきである。



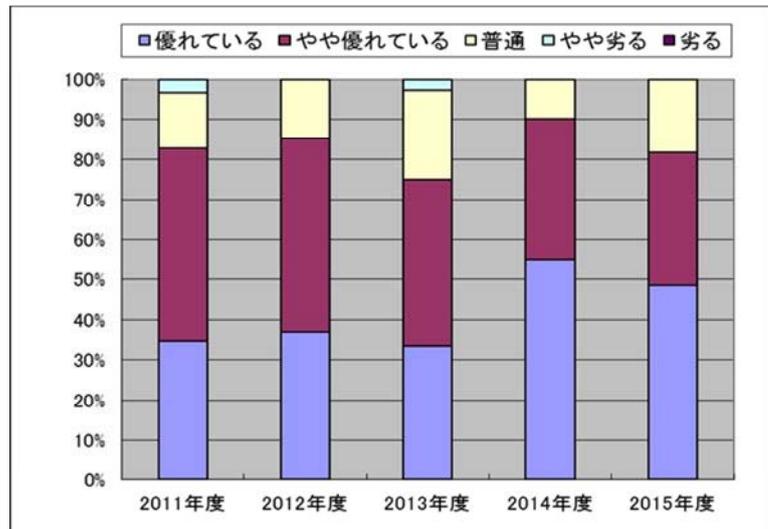
### (9) 卒業生のコミュニケーション能力

「普通」以上の評価は2011年度以降概ね90%以上を維持してきており、2013年度は特に「やや優れている」以上の評価が70%を越え、2014年度はこの傾向がより顕著になった。企業からの評価が良い方向に変化していることを期待させる。



### (10) 卒業生の仕事に取り組む熱意

この数年、「普通」以上の評価は90%後半を推移しているが、2013年度は「やや優れている」以上の評価が約10%減少したが全体的に「やや優れている」以上の評価が上昇する傾向に戻っている。全体として依然評価は高いと言えるが、今後の動向を注視したい。



## 2. 貴社・貴機関が九州工業大学 工学部 卒業生に望む事項（卒業生の資質等）がございましたらご記入ください。

指摘されている事柄をキーワードで列挙すると、「コミュニケーション能力」、「リーダーシップ能力」、「英語力」を望まれているのが目立つ。「倫理的思考力」、「専門知識」、「課題解決能力」、「発信・伝達能力」等も望まれている。

- ・ これまで通りの学生をお願いします
- ・ コミュニケーション能力と自分の将来設定
- ・ 1つでも多く武器となるような知識を持つこと
- ・ 様々な事に対して好奇心を持つこと
- ・ 海外志向が高いこと
- ・ 貴校の学生には優秀な人材が多いと思います。今後はコミュニケーション能力を高めていってほしいと思います。
- ・ 語学の修得
- ・ 課題解決能力および創造的な構想力の向上
- ・ 仕事への適応能力

- ・ チームの中で仕事を遂行する能力
- ・ 倫理的思考に基づく問題解決能力
- ・ リーダーシップを発揮する能力
- ・ 語学力（英語・中国語）
- ・ 主体性、文書作成力
- ・ 指示待ちでなく、自身で問題発見から解決まで、主体的に業務に取り組んでいく姿勢があること
- ・ 打たれ強いこと
- ・ ものづくりが好きであること
- ・ コミュニケーション能力、熱意、基礎学力
- ・ コミュニケーション能力が高く、最後までやり抜く気力・体力があること
- ・ コミュニケーション能力、プレゼン能力
- ・ 学力は優れているが、コミュニケーション能力が今少しと感じます。取引先・客先と打合せする、人前で意見を述べる事を極端に不慣れな学生が多いと感じるので、社会勉強の機会を増やして頂きたいと思います。
- ・ 専門知識（力学）など基礎知識がしっかり身につけており仕事への取組も早く助かっていますので、特にありません。
- ・ グローバルな時代ですので英語力アップは今後も必要と考えます。
- ・ コミュニケーション能力（弊部署は研究分野ではなく、建設・保全工事が主体となるため、現場の操業、保全の人との会話が重要になってくるため。）
- ・ 課題の抽出と解釈能力
- ・ リーダーシップ、表現力（プレゼン能力など）が、より会社業務を行う際に求められる状況となっています。

### 3. 九州工業大学 工学部の教育に対して、ご意見・ご要望（企業が必要とする人材の専門分野、専門知識等）がございましたらご記入ください。

業務に応じた多岐に亘る専門知識についての教育の期待が強く、また、コミュニケーション能力、説明能力に秀でた人材の育成等の期待がある。

- ・ 少子化が進む中、ビジネスチャンスは海外に求めるより他はありません。技術者といえども、ビジネスレベルの英語力が必須になる日も近いと思います。グローバル化に適応できる人材の育成を期待します。
- ・ 努力を怠らない人材
- ・ 機械、電気などの大学レベルでの知識があれば、入社後に OJT や研修の機会があるので、特にございません。
- ・ 当社は鉄道系の建設会社であるため、できれば、鉄道土木、軌道の知識が少しでも習得できるカリキュラムがあればと思います。
- ・ 特段、要望はございませんが、一つ挙げるとすると、当社は開発のみならず、製品として形にするところまで行っている会社になります。よって、開発部署におきましても、机上の空論に終わらず、その後のものづくりの工程や技術に関する知見があると、入社後の業務習得がより早く、ご活躍頂けると考えます。

- ・ 国際的な事に対応ができるように
- ・ 道路舗装の専門知識を有する人材が欲しい。
- ・ 機械系：強度や振動計算の基礎知識、電気回路など電気系統の知識
- ・ 土木系：構造力学、土質力学、コンクリート工学、材料学
- ・ ものづくりに直結した専門知識を教育し、実践力を高めてほしい。
- ・ 専門知識を習得するだけでなく、海外で論文発表の場を経験する等、様々なことに挑戦できる場を学生に提供して頂ければと存じます。
- ・ 基礎的な学力や専門知識はかなり優れていると感じています。それをどのように活かすか、自分で考え創造する姿勢を伸ばす教育をして頂きたいと思います。
- ・ 当社としましては、電気系人材が不足気味ですので、今後は電気系学生の採用を検討します。
- ・ 電気（強電・弱電）の基礎知識・IT技術（ネットワーク）

#### 4. 全体としての傾向

2014年度においては、「やや優れている」以上の評価は、「仕事に取り組む熱意」が90%に達して特に高く、その次に「コミュニケーション能力」の評価の上昇が目立つ。70%台にその「コミュニケーション能力」、そして「理数系教育」「専門教育」「課題探求能力教育」「課題解決能力教育」の4項目があり、60%台に「独創性」、「構想力」、「表現力」、「教養」が続く。60%台の4項目の評価は着実に向上している。しかし、「語学」は依然「やや優れている」以上の評価は少なく、30%台に留まっている。ただし、「優れている」の評価が少しずつではあるが増えており、今後の動向に注視したい。全体的に、「劣る」と「やや劣る」の評価はごく僅かである。

全般において卒業生は企業から概ね高い評価を得ていると判断できる。特に、「仕事に取り組む熱意」における評価が高いレベルを維持していることは目を引く。「語学」の評価は他の項目に比べてかなり低いですが、上昇の兆しが見られており注視すべき項目である。

## 2. 4 教育達成度評価アンケート：雇用主 (2013年3月以前修了生)

※アンケート実施年月日 平成28年12月1日

※アンケート回収率

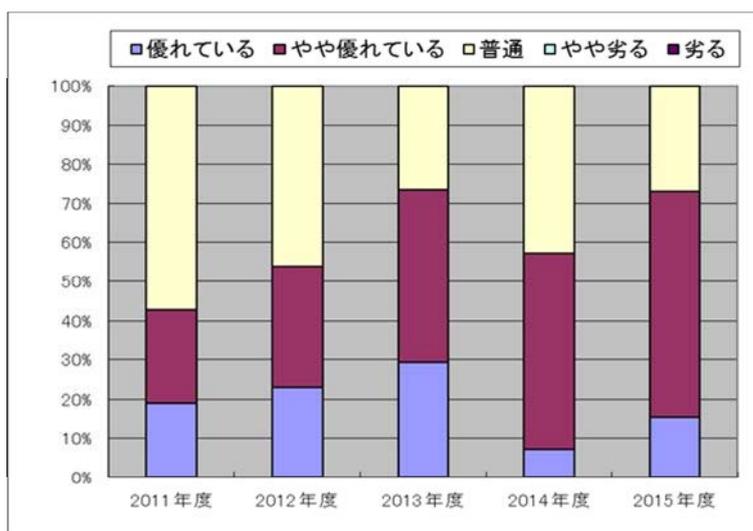
配付枚数	回収枚数
102社	26名

1. 貴社に在籍する九州工業大学大学院工学府・工学研究科修了生が大学在籍中に受けた教育の習熟度あるいは修得した能力について、該当する項目に○をつけて下さい。

### (1) 修了生の教養（人文・社会等の一般教養）の習熟度

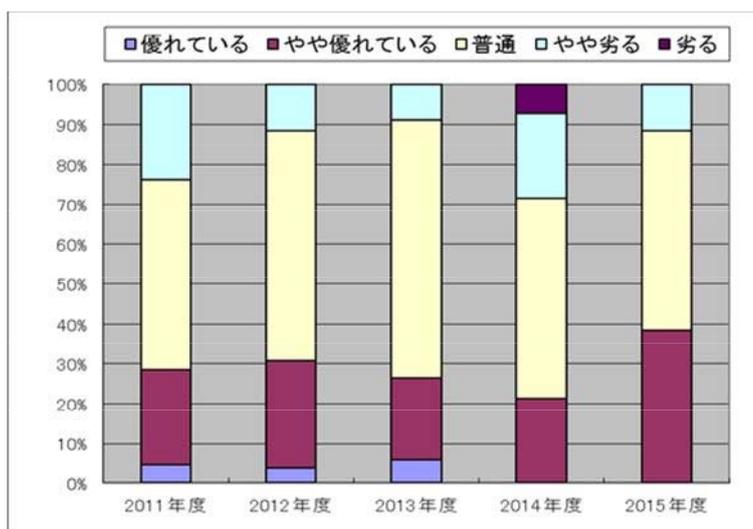
「普通」以上の評価は100%である。

「やや優れている」以上の評価は、前年度は60%を下回った。2015年度は70%以上になっているものの、今後の動向に注意を払う必要がある。



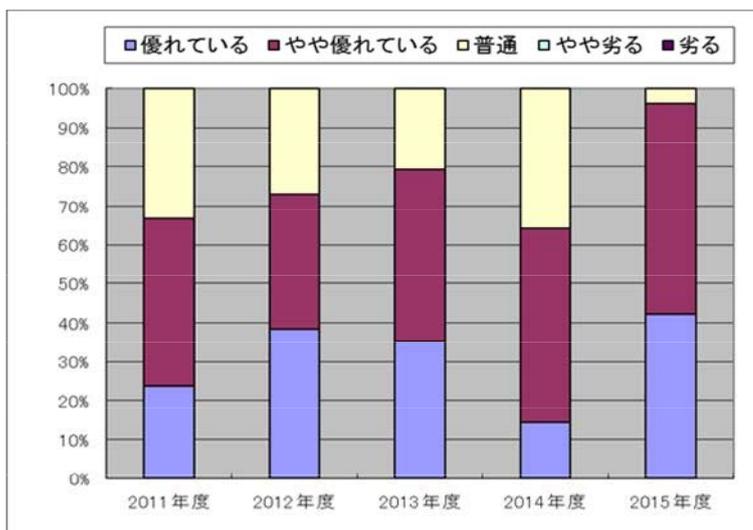
### (2) 修了生の語学（特に英語）の習熟度

「やや優れている」以上の評価が概ね15~30%と低迷を続けている。企業からの評価は厳しく、現在の教育を再点検し、効果的な改善策を考える一方、今後の動向を注視する必要がある。



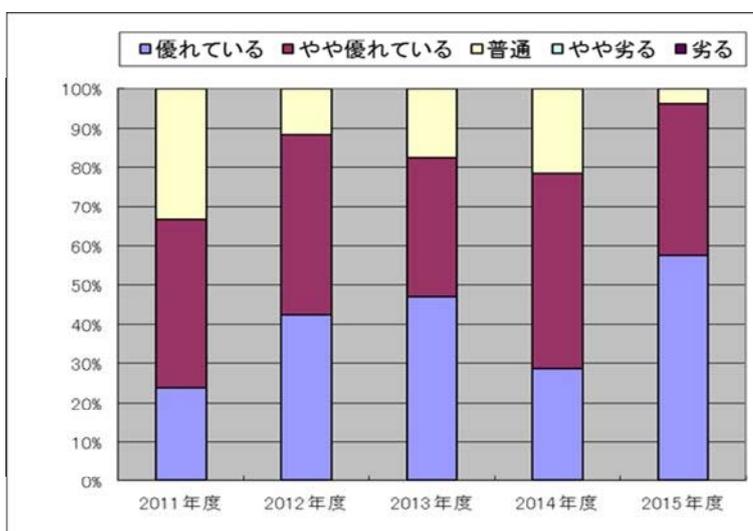
### (3) 修了生の理数系科目(数学・物理・化学)の習熟度

「やや優れている」以上の評価は、2011年以降順調に向上していたが、2014年度は10%以上の低下を見せていたが、回復している。全体的に企業から高い評価を受けていると判断できるが、次年度の動向に注視したい。



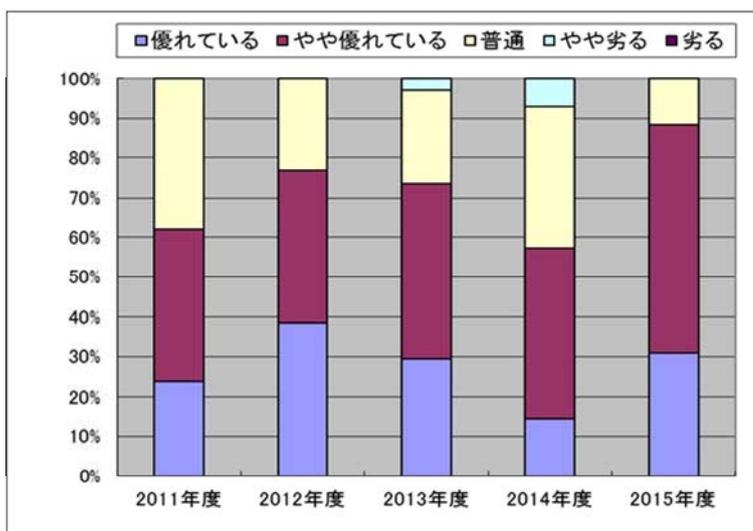
### (4) 修了生の専門科目の習熟度

「やや優れている」以上の評価は、2011年度は70%を切ったが、2012年度は例年のように80%を超え、2013年度も80%代を維持していた。2014、15年度も前年度とおおむね同じレベル以上を推移しており、依然として企業からの評価は高い。



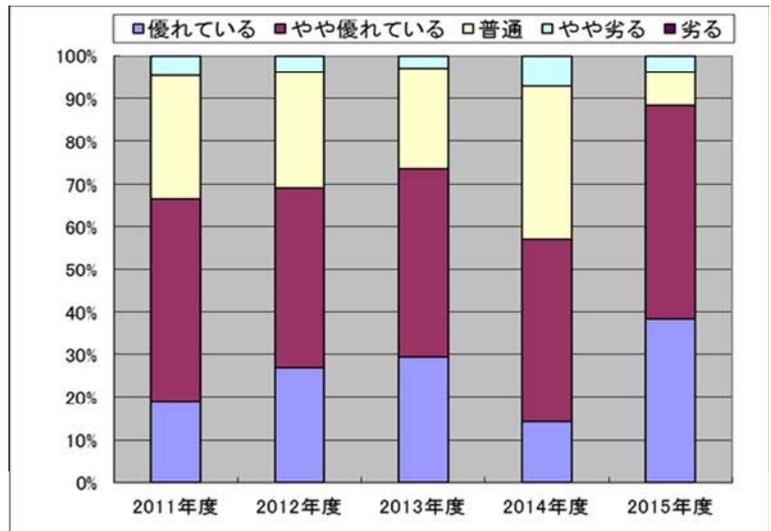
### (5) 修了生の課題発見能力

「やや優れている」以上の評価は、2011年度は60%近くまで減少したが、その後、回復傾向にあり、2014年度は60%をきった。「やや劣る」も増えており、企業からの評価は低くなっていた。今年度は回復傾向にあるものの、次年度の動向に注視したい。



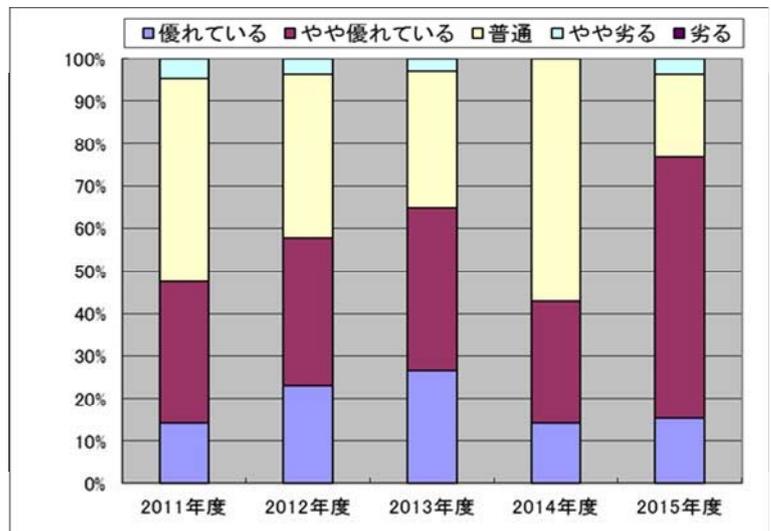
(6) 修了生の課題探求・解決能力

この数年間、「やや優れている」以上の評価は概ね60～80%で推移していたが、2014年度は60%を割り込んだ。2015年度は回復傾向にあるものの、企業から評価に変化が見られていると受け止め、課題解決能力教育について検討をする時期にあるのかもしれない。



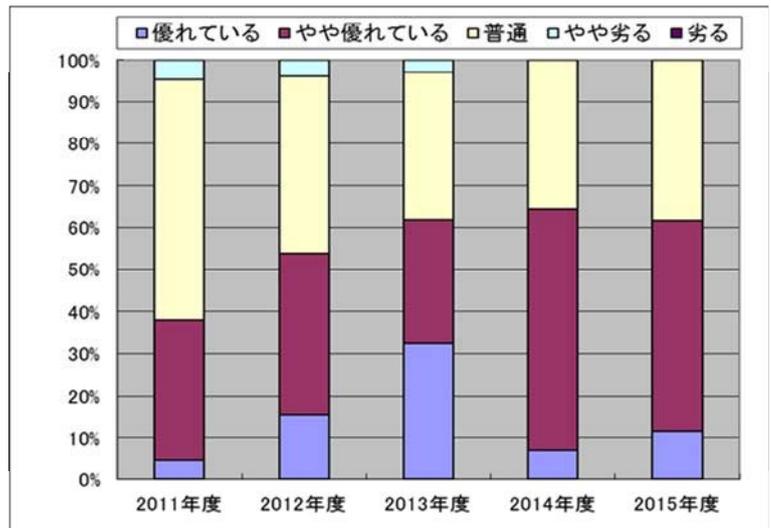
(8) 修了生の創造的な構想力

「やや優れている」以上の評価が2011年度以降、着実に向上して、2013年度は60%を上回ったが、2014年度は10%以上低下している。2015年度は若干の回復がみられるものの、見逃せない推移であり、今後の推移次第では、対策を考えなければならない。



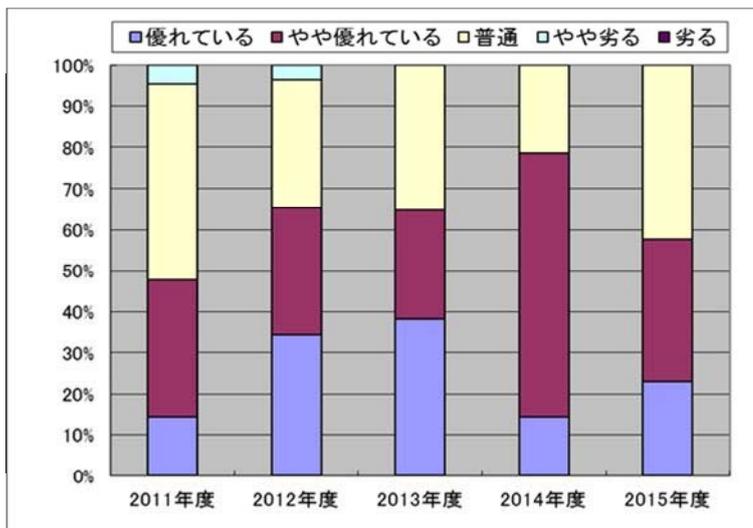
(9) 修了生の表現力

「やや優れている」以上の評価は前年度まで概ね35～55%の範囲で推移していたが、2013年度は60%を越えた。しかし、2014年度は約20%の低下となっている。「やや劣る」は無いものの、楽観視できない教育項目である。



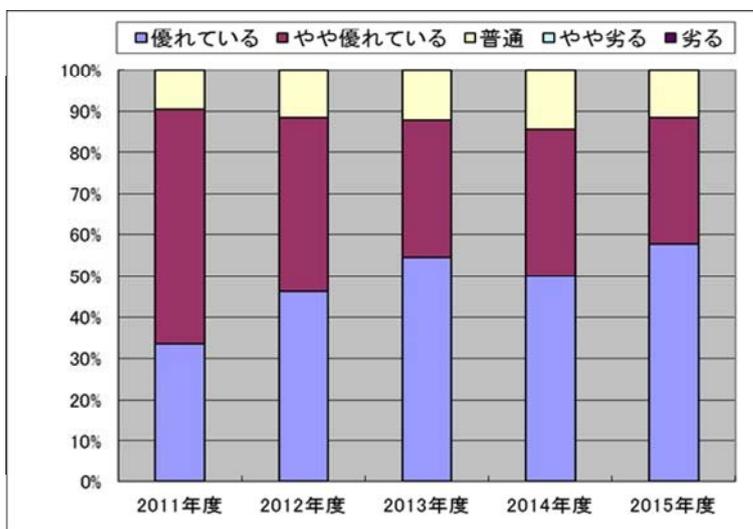
### (10) 修了生のコミュニケーション能力

「やや優れている」以上の評価が2011年度は50%を切ったが、それ以降、順調に上昇しており、2014年度は「やや劣る」が無く、企業の評価が上昇している項目である。今後は、「優れている」の評価を増やす対策を考える必要がある。



### (11) 修了生の仕事に取り組む熱意

「やや優れている」以上の評価は概ね90%の高い数値を維持している。2012年度以降の「優れている」の評価が、50%を前後している高評価は頼もしい。修了生は企業から高い評価を受けていると判断できる。



## 2. 貴社・貴機関が、九州工業大学 大学院工学研究科 修了生に望む事項（修了生の資質等）がございましたらご記入ください。

指摘されている事柄をキーワードで列挙すると、「コミュニケーション能力」、「積極性」、「リーダーシップ力」、「問題解決能力」、「英語力」等を期待されていることがわかる。

- ・ 技術分野について高い知識と教養を修得されていると感じます。今後も技術分野での高い教育をお願いします。
- ・ 工学分野の専門性とグローバル化への対応などを想定した柔軟性。
- ・ チャレンジ精神と自己研鑽力
- ・ 自律的な行動推進
- ・ ものづくりの基礎である要素技術をしっかり習得してほしい。貴校の修了生は比較的しっかりと習得されているが、世の中ではグローバルや幅広い知識を持ったエンジニアの育成に重きを置く傾向にあり、基礎知識がやや不足しているため。
- ・ 社会人として必要な資質を十分備えて入社いただいています。
- ・ 仕事への適応能力
- ・ チームの中で仕事を遂行する能力

- ・ 倫理的思考に基づく問題解決能力
- ・ リーダーシップを発揮する能力
- ・ 語学力（英語・中国語）
- ・ 主体性：自己課題や目標を見つけ取り組む姿勢
- ・ 課題探求・解決能力、創造的な構想力、プレゼンテーション能力
- ・ 専門以外（仕事に限らず）への好奇心（社業の範囲は広範であり、より広範囲の知識を持つ人材が必要）
- ・ 論理的に課題解決を進め、自分の仕事の成果を人に分かりやすく説明する能力は、将来企業を引っ張る人材には必要なので、若いときから意識していただきたいと思います。
- ・ 学生時代によく勉強しており、教養・専門はかなり高め。協調性や内なる熱意も十分にある一方で自己主張・発信力は標準レベル。もっと発揮してもらってもよい。
- ・ 興味・関心のある物事に対して、広く浅くより狭く深く追求・没頭できる力
- ・ 工業系の大学なので実験等を含め忙しい学生生活だと思いますが、学業はもちろんの事、様々な事にチャレンジして欲しいと思います。平均的で何事もある程度は成果をあげられる方もいいですが、”これだけは一生懸命やった”と言える方のほうが成長を感じられます。  
物事に対するスケジュール感、優先順位を見極める力・自分の考えをまとめ、他者に対して納得感を与える説明を行う力
- ・ 主体性
- ・ 直接業務に関係する専門知識は入社後に身につけていくものが正直なところほとんどだと考えているので、学生時代に学んだ知識等をどれだけ仕事に役立てられるかという応用力とその情報等を周りに発信するアピール力を磨いてほしいと考えている。

### 3. 九州工業大学 大学院工学研究科の教育に対して、ご意見・ご要望（企業が必要とする人材の専門分野、専門知識等）がございましたらご記入下さい。

指摘されている事柄をキーワードで列挙すると、「専門分野の基礎力」、「関連分野を含む総合的技術と能力」、「グローバル意識」、「リーダーシップ力」、「広い視野をもつ」、「外国語能力」等の育成を期待されていることがわかる。

- ・ 土質力学、構造力学、水理学の基礎知識の習得をお願いします。
- ・ 殆どの学部卒業生が大学院へ進学しているため、学部～大学院一貫での育成最適化が必要と考える。例えば、上記2. に関しては、学部で要素技術教育を強化し、大学院で幅を広げる教育をする等。
- ・ 貴学出身の社員は、大学で学んだ専門分野を活かして活躍しておりますので、特に要望等はございません。
- ・ 課題発見能力、課題探求・解決能力、創造的な構想力を訓練する様な教育を望みます。
- ・ 学生時代の専門研究と全く同じ仕事をすることはまれなので、熱力学や状態図の見方など基礎的な教育についても幅広く学んでおいた方が、応用力の高い人材として活躍の場が広がると思います。
- ・ 情報系の専門知識・応用力は（一般論として）さらに強化して欲しいところ。併せて、物事の本質を見極めて、より正しいアプローチを執ることができるよう、研究の中でご指導いただきたい。
- ・ 我々（中小企業）の努力不足は大いにありますが、大学側にしてもより地元企業の紹介の場を多く作っていただけたらと思います。

- ・ グループでの統率力、企画・運営能力の向上、ディスカッション・プレゼンテーション力の向上
- ・ 今後とも引き続き、優秀な人材の輩出をお願いします。

#### 4. 全体としての傾向

2012年度においては、「やや優れている」以上の評価は、「仕事に取り組む熱意」が90%に迫るレベルで高く、「専門教育」がそれに続く。そのあと、60%台に「理数系」、「コミュニケーション能力」の2項目が続く。「コミュニケーション能力」の評価が継続的な上昇を見せていることは喜ばしい。しかし、「課題探求能力」「課題解決能力」の50%台への低下は問題視すべきである。「教養」も50%台と継続的な改善の兆しが無いことが気にかかる。「独創性」「表現力」「構想力」も30-40%台への低下が見られ、要注意項目である。「語学」は30%を下回っており、一層の注視が必要である。全般的には「劣る」、「やや劣る」の評価は少ない。

回答数が少ないので、今の結果を鵜呑みにはできないが、全般的に修了生に対する企業から評価はやや低下していることを示唆する結果になっている。「語学」、「独創性」、「表現力」、「構想力」における改善の必要性を意識すべきであろう。

## 2. 5 教育達成度評価アンケート：卒業生 (2013年3月以前卒業生)

本節(2.5)と次節(2.6)では、まだ、九州工業大学工学部及び大学院工学府(旧工学研究科)における教育効果が残っていると思われる入社後3年程度を経過した本学卒業生・修了生を対象に、彼らが大学時代に受けた教育レベルと満足度に対するアンケート調査を実施し、その結果をまとめています。

※アンケート実施年月日 平成28年12月1日

※アンケート回収率

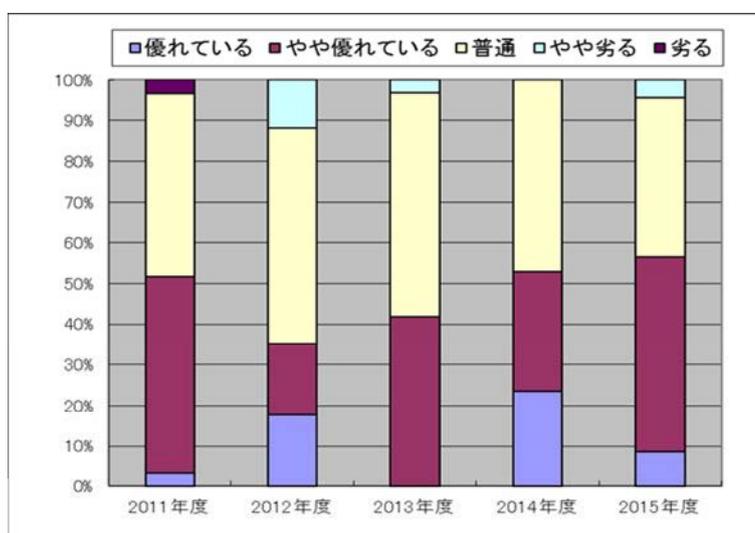
配付枚数	回収枚数
82名	23名

1. 教育の達成度について、該当項目に○をつけてください。

### (1) あなたが受けた教養教育のレベル

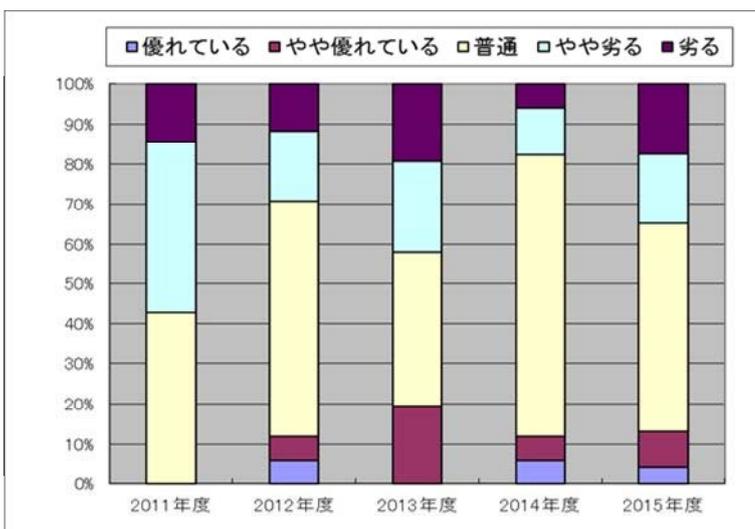
「優れている」の評価は前年度より若干下がっているが、「やや優れている」以上の評価はここ4年間上昇している。

「普通」以上の評価が95%以上あり、全体的な評価はまずまずと言える。



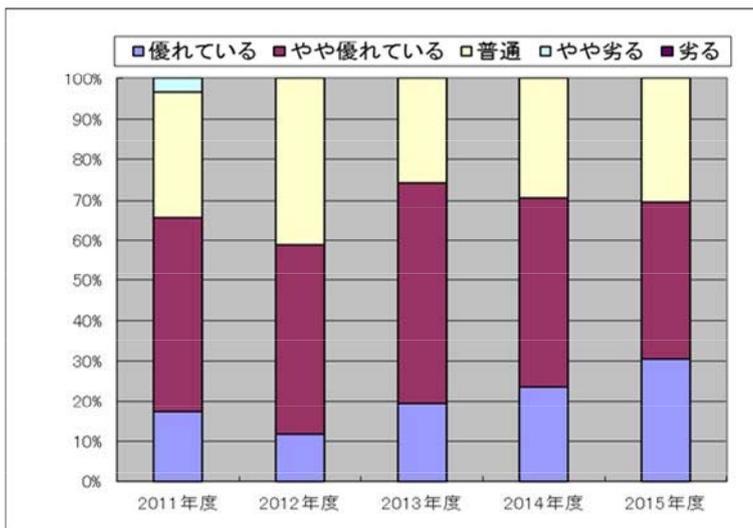
### (2) あなたが受けた語学(とくに英語)教育のレベル

「普通」以下の評価が85%以上あり、これは前年度と同程度である。しかしながら、「やや劣る」以下の評価が30%以上あり、前年度に比べ悪化している。これまで行われてきた対策ならびに、これから行われようとしている対応策を見ながら更なる改善策を引き続き考えていく必要がある。



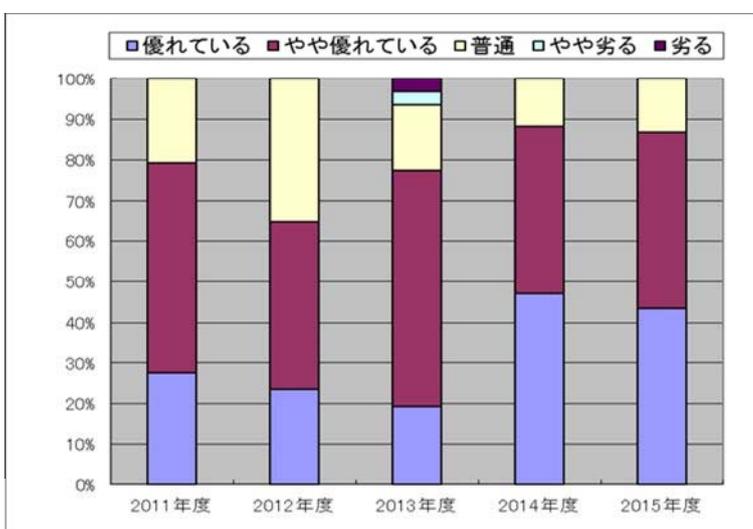
(3) あなたが受けた理数系教育のレベル

「やや優れている」以上の評価は70%あり、これは前年度と同程度である。「優れている」の評価が30%あり、過去5年の中で最高の評価を得ている。また、否定的評価は4年連続で0%となっており、教育内容がおおむね高く評価されていることが分かる。



(4) あなたが受けた専門教育のレベル

「優れている」の評価も前年度に比べて微減である。また「やや優れている」以上の評価も前年度に比べて微減であるものの、85%以上ある。消極的な評価はゼロである。このことから、専門教育の内容についてはほぼ期待に達しない満足できるものであることが読み取れる。



(5) あなたは入社後資格を取得しましたか？

○入社後取得した資格（具体的に）

熱処理技能士

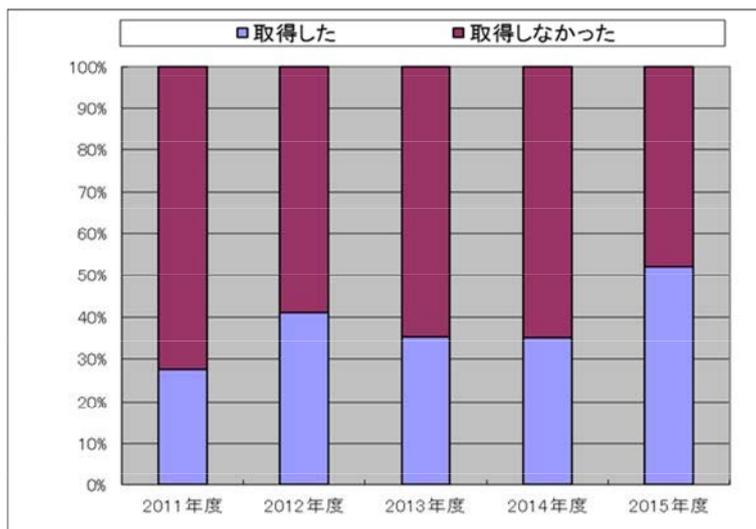
溶接管理技術者、防食溶射管理者

技術士補、土木施工管理技士

コンクリート技士、建築施工管理技士

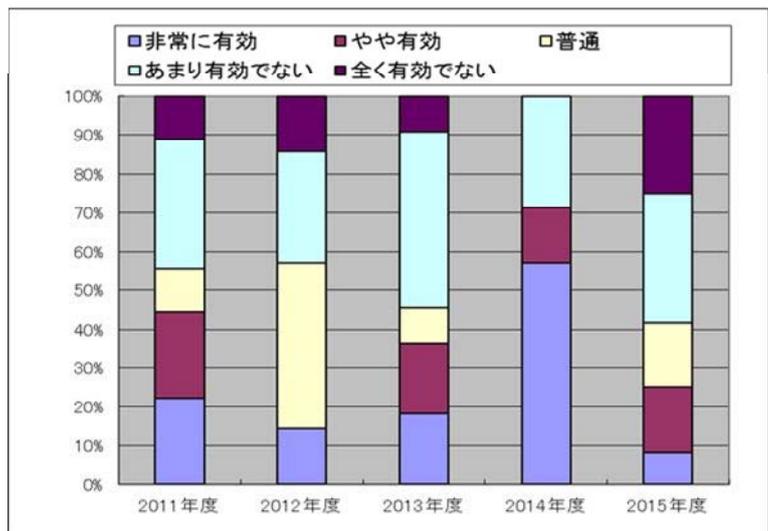
玉掛け、床上操作式クレーン

ここ5年増加傾向にあり、今年度50%を超えた。入社後に卒業生が多く資格を取得しているのが確認できる。JABEEの認定など、資格取得に影響を与えるような大学全体の取り組みがどのような効果を生んでいるのか、引き続き調査を行うことは有効である。



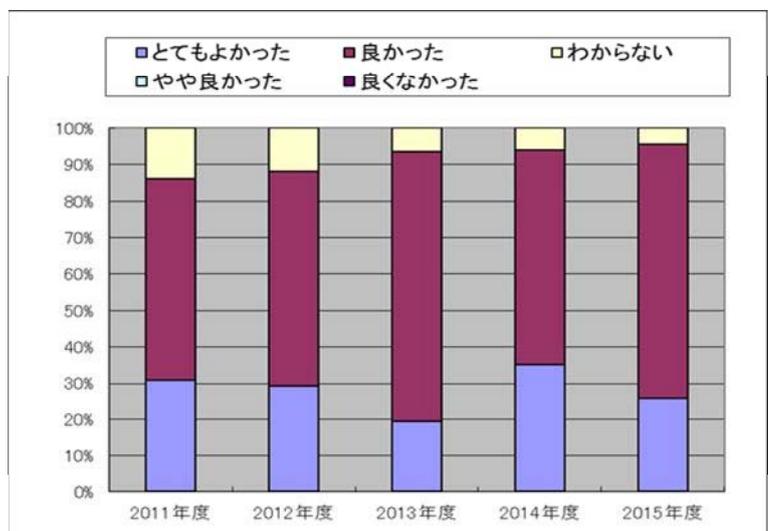
(6) 資格を取得した方にお尋ねします。  
 本学の教育は資格取得に有効でしたか？

本学の教育が資格取得に有効であることを認める割合が25%であり、また「全く有効でない」という評価も25%ある。前年度と対照的な結果となっている。資格取得者が増えていることが影響しているかも知れない。今後の分析が必要である。



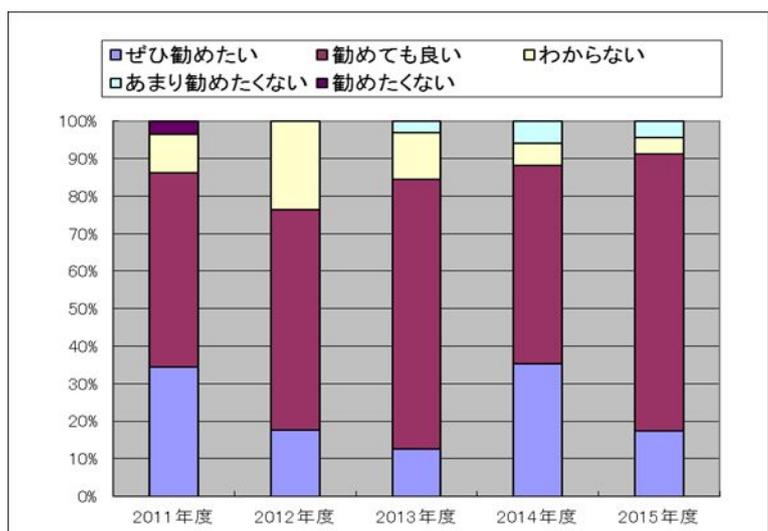
(7) あなたは、九州工業大学工学部を卒業してよかったと思いますか？

「とても良かった」の割合は減ったが、「良かった」の割合が5年間連続して増加しており、今年度は95%に達している。高い満足度を示していると言えるだろう。全体として、卒業生がキャリア形成において、本学の学修内容を高く評価していることが分かる。



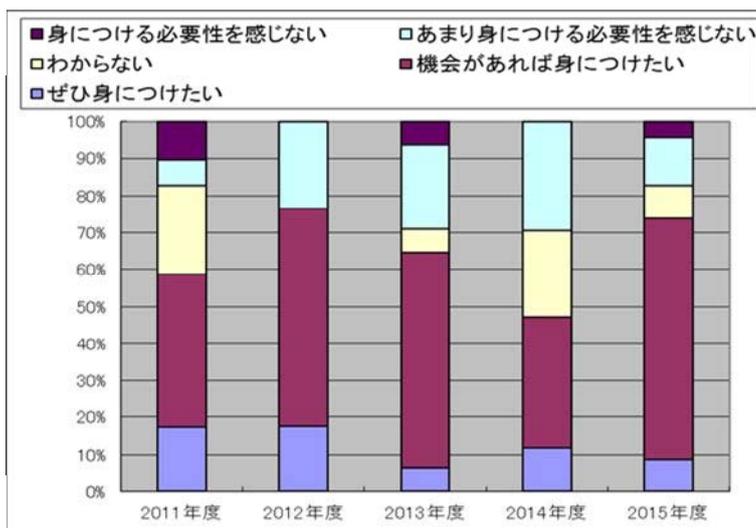
(8) あなたは、九州工業大学工学部を魅力ある学部として後輩・知人に勧めたいと思いますか？

「ぜひ勧めたい」の割合は減少したが、「勧めても良い」の割合は増え、90%を超えた。過去の5年間の中で最高である。確実に評価は高まっていると言える。本学の歴史など、愛校心を育む教育も一部行われているが、このような取り組みとの関連は調査する必要がある。一方で「あまり勧めたくない」の評価も5%程度ある。学生へのガイダンスや面談などを通じて、対応改善が可能であれば望まれる。



(9) あなたは、更に高度な学力（修士、博士）を身につけたいと思いますか？

「機会があれば身につけたい」という評価が大幅に増えた。3年前に近い分布となっている。前年度に比べ積極的評価が増えているものの、現在、6年一貫教育のプランが進行中であり、大学院教育の必要性を認識してもらうよう、指導や周知において対応が必要であろう。



2. あなたが九州工業大学 工学部 に在学して良かった点がありましたらご記入下さい。

教育面では専門教育やキャリア教育が高く評価されており、それらの教育は就職時に、そして就職後の資格取得やキャリアアップに直接的に役立っている。教育内容と、教育と将来の進路を繋ぐ人的ネットワークの双方がバランスよく構築された教育機関として認識されている。

- ・ 多くの会社で九州工業大学を卒業した方に出会えるため、会話などスムーズに入りやすい。
- ・ 卒業研究等で専門知識が豊富にある大先輩や教授の方々から熱意ある指導を受けられたこと。
- ・ 専門性の高い研究を行えたと思う。
- ・ 卒業後も他社の卒業生と関わりがある点
- ・ 工学部では幅広い知識が得られてよかったと思っています。
- ・ 就職して金型の設計、加工の業務をやっています。鋼材の組成や性質を調べる際に、大学で学んだ専門知識が役立っています。
- ・ 基礎科目は社会人になって役立つところが多々ある。
- ・ 自分が得意、好きな分野について知ることができた。
- ・ 専門性を持って学ぶことができた。多様な個性を持つ学友に出会うことができた。
- ・ 高度な専門の知識を身に付けることができたこと。
- ・ 就職のサポートがしっかりしていて内定後も内定先にあわせた教育・フォローをしてくれたこと。
- ・ 自分にとっては少し内容の難しい授業が多かったのですが、今、少し役立っているのでよかったです。
- ・ 論文を書く機会が多いので、研究室で正しい日本語の使い方を厳しく指導されたことを活かしています。科目や技術以外にも、自身の意見を伝達する能力を指導し、伸ばしてくれたことに感謝しています。
- ・ 教授の先生方が丁寧に分かるまで何度も教えて下さった。実験の数が多く、寝る時間がなくなるほど勉強させてもらえた。不真面目な人間はとことん評価されないことを教えてくれた。
- ・ 就職先が幅広かった。
- ・ 就職に有利な点
- ・ 専門的な知識を見につけるのに適していると感じた。また、自分のやりたい研究を自由に実施でき

るので、やりがいも感じた。

- ・ 仕事で組織を観察するので、材料の知識が少しあることで、理解するのに役立っています。

3. あなたが九州工業大学 工学部 に在学して不満を感じた点、こう改善すべきだと感じた（例えばこういった技術（科目）を教えてほしかった）点がありましたらご記入ください。

履修科目の自由度や授業内容の技術的改善を求める声がある。特に実用的なスキル・学力を求めていることが分かる。これらは今後の教育改善の参考となるであろう。

- ・ 工学系の科目に関しては、それぞれの分野ごとに異なる内容であるため、良いと思います。工学ではないのですが、英語の授業で会話をもう少し取り入れた方が良いと感じました。社会人になり、英語のやりとりもあるため、話せる方が便利だと感じました。

鑄鉄の生産技術について、実際のものづくり現場の視点を取り込んだカリキュラム設定があると良かった。（学術論だけでなく）

- ・ 実際に現場で行われている作業についてわかる若しくは体験できる授業があれば良かった。溶接の基礎的なことを、もっとしっかり勉強できる授業とか。

- ・ CAD ソフトを使用した科目が欲しかったと思っています。

- ・ CAD を用いた製図

テストの難易度が教授によって違いすぎる。

- ・ ノート持ち込み可など、勉強をあまりしなくても単位が取れる科目はどうかと思う。

- ・ 英語のレベルが低すぎる。

- ・ より社会に出て活用できる実務に近い形の設計演習があってもよかった。製図の授業では費用はかかるのかもしれないが、CAD の演習等があると実践的であると感じた。また、英語は苦手ではあったが、苦手な人間でも履修できるような講義があると良かった。

語学教育に関して、第2外国語の選択は学生全員の希望に添えるようにしてほしい。

- ・ 実験や製図を1シーズンにまとめ過ぎていて辛かった。

- ・ Word や Excel の使い方を学んだ方が良かった。C 言語や fortran は必要性を感じない。卒業論文の発表以外にも、PowerPoint を使用する機会を増やして欲しかった。

- ・ 実用的な CAD の授業を実施してほしかった。工事現場見学などの、実際にものを造っている現場に触れる機会が増えると良いと思う。

- ・ 授業を受けたら資格が取得できる仕組み。

総シス以外の学科でも教員免許を取得できたら良い。

- ・ 研究室では各研究室毎に、ある分野に特化して研究ができるが、その前に幅広くいろいろな分野の実験を経験できればいいのではと思います。

- ・ 必要単位に対して科目の選択肢が少なく、ほとんどの講義を受講しないといけないところが、ちょっと嫌でした。

- ・ CAD → 専門職（土木系職種、ゼネコンやコンサル）への就職に多少有利になると思う。

#### 4. 全体としての傾向

回答率は28%（82名中、23名回答）であった。今回の回答率は前年度の18%と比べ改良されているが、データの信頼性としては十分なものとは言いがたいであろう。絶対数に関しても1人分が4.3%を占めるため、全体的な傾向を見ることに関しては適しているが、10%程度は誤差範囲と考えた方がよいかも知れない。

全体的な傾向として、おおむね卒業生が本学の教育（特に、理数系教育・専門教育）・就職支援体制に満足しており、自身のキャリア形成に手ごたえを感じていることを示している。

学部教育においては、語学や一部の科目についてより一層の改善と充実が求められている。本学の提供するディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシーと照らし合わせながら、全人教育も含んだ大学教育のあり方を考える必要があるだろう。

## 2. 6 教育達成度評価アンケート：修了生 (2013年3月以前修了生)

※アンケート実施年月日 平成28年12月1日

※アンケート回収率

配付枚数	回収枚数
147名	27名

1. 教育の達成度について、該当項目に○をつけてください。

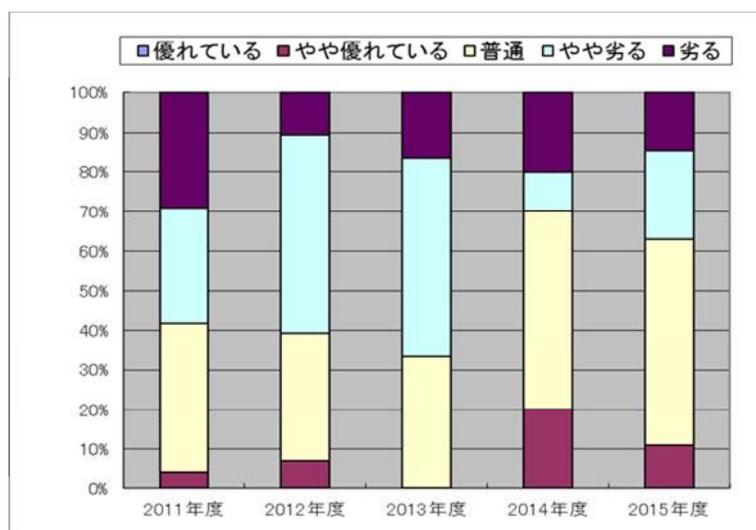
### (1) あなたが受けた教養教育のレベル

前年度に比べ評価が悪くなっているように見えるが、前年度は回答者が10名であるため、評価が悪くなったかどうか断定することは難しい。2～4年前に比べ、評価が高くなっているため、教養教育についての評価が良くなってきていることが分かる。



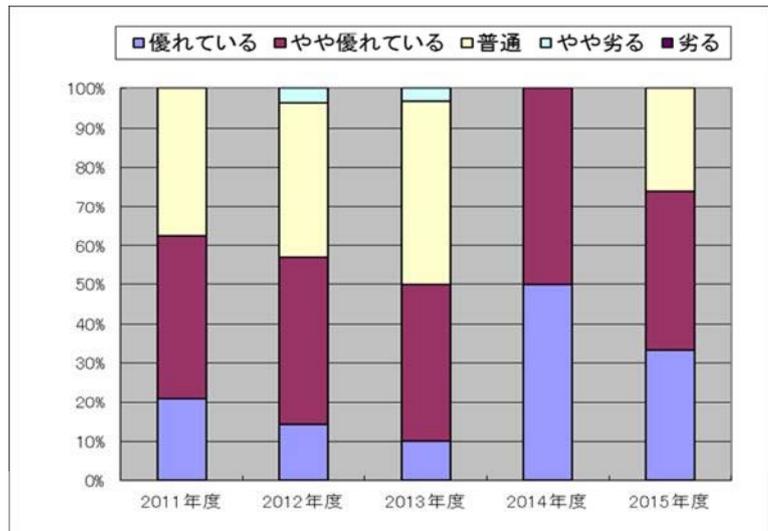
### (2) あなたが受けた語学（特に英語）教育のレベル

回答者の少なかった前年度に比べ悪くなっているが、2～4年前に比べ、評価が高くなっているため、語学教育についての評価が良くなってきていることが分かる。



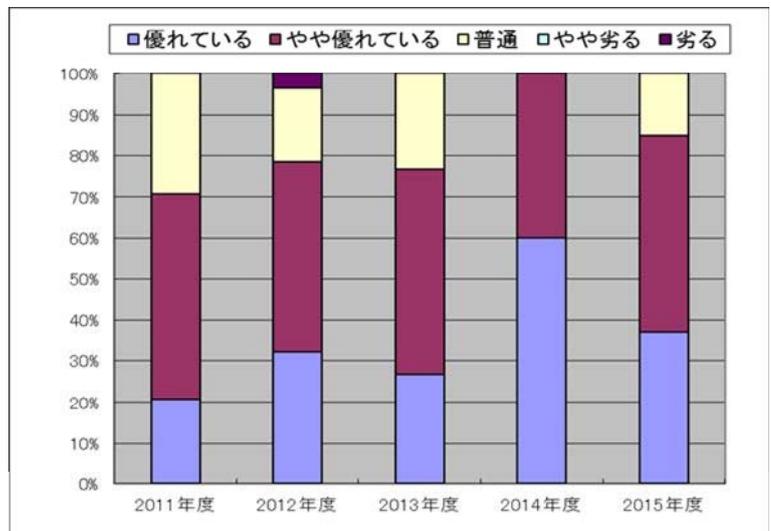
(3) あなたが受けた理数系教育のレベル

「やや優れている」以上の評価が70%を超えている。また否定的評価は0%である。このことから、良好な評価であるといえる。回答者の少なかった前年度に比べ悪くなっているが、2～4年前に比べ、評価が高くなっているため、理数系教育についての評価が良くなってきていることが分かる。



(4) あなたが受けた専門教育のレベル

「やや優れている」以上の評価が80%を超えている。また否定的評価は0%である。このことから、ほぼ理想的な評価になっているといえる。回答者の少なかった前年度に比べ悪くなっているが、2～4年前に比べ、評価が高くなっているため、専門教育についての評価が良くなってきていることが分かる。

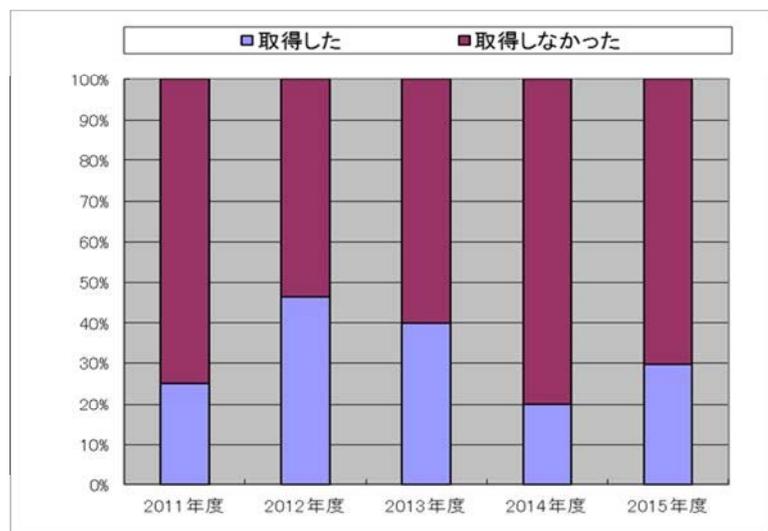


(5) あなたは入社後資格を取得しましたか？

○入社後取得した資格（具体的に）

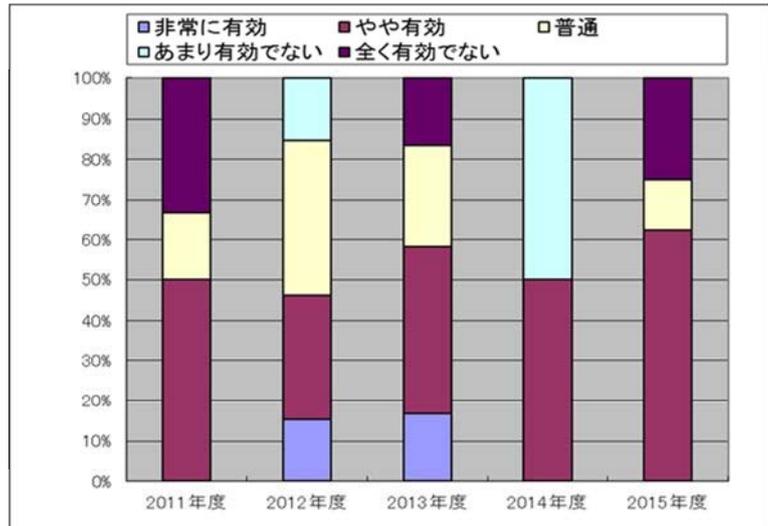
- ・ 建築士
- ・ コンクリート技士
- ・ 土木施工管理技士
- ・ 第三種電気主任技術者
- ・ 第一種電気工事士
- ・ 玉掛け、床上操作式クレーン

30%の人が何らかの資格を取得している。前年度よりは増えているが、2～3年前よりは減っている。今後の分析が必要である。



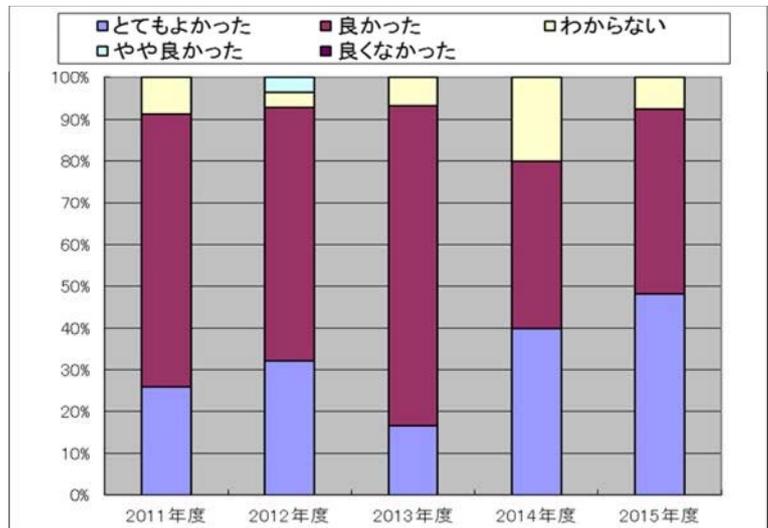
(6) 資格を取得した方にお尋ねします。  
 本学の教育は資格取得に有効でしたか？

「やや有効」が60%（5名）、「全く有効でない」が25%（2名）と評価は2分されるが、母数が8名であるため、数値のみで意味のある結論を導くのは難しいかも知れない。



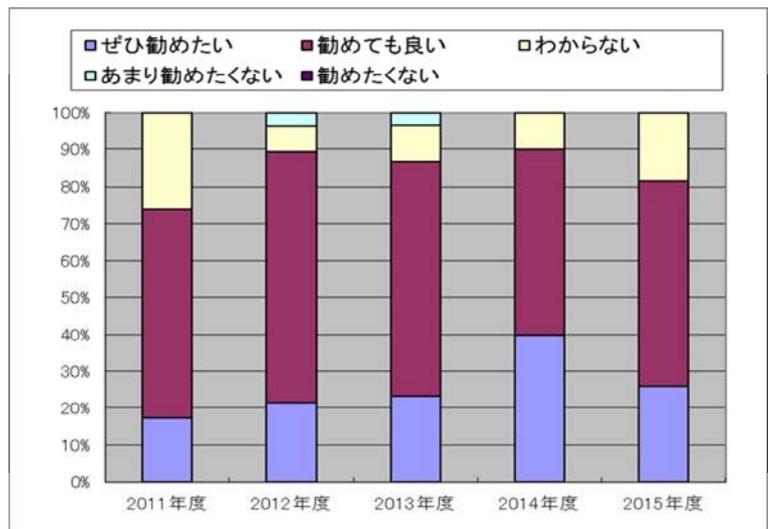
(7) あなたは、九州工業大学大学院工学研究科（博士前期又は後期課程）を修了してよかったと思いますか？

「とても良かった」が50%近くあり、過去5年で最大となった。「良かった」以上の評価は90%を超え、ほぼ例年並みである。また否定的な評価がない。そのため、非常に高い評価を得たと言えるだろう。



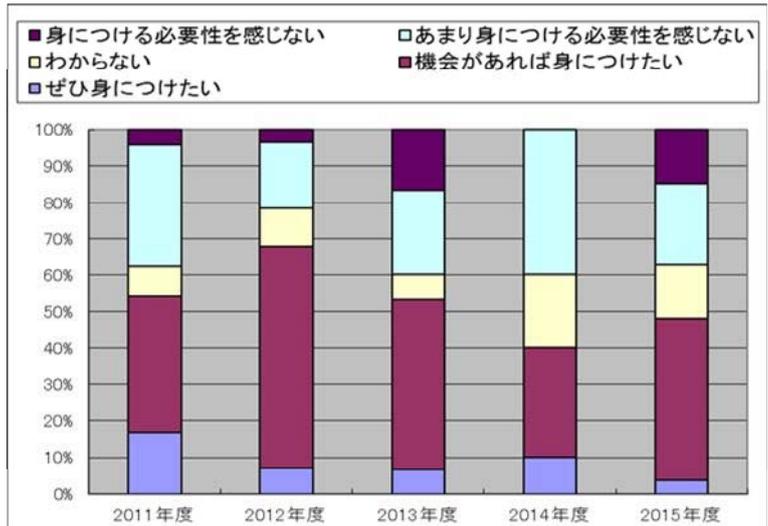
(8) あなたは、九州工業大学大学院工学研究科を魅力ある研究科として後輩に勧めたいと思いますか？

「勧めてもよい」以上の評価が80%あり、また否定的な評価はない。このため、高評価であると言えるが、過去3年と比べて若干悪い評価である。今後の分析が必要である。



(9) あなたは、更に高度な学力(博士)を身につけたいと思いますか?

前年度より改善されているが、前年度は回答者が少ない。2～4年前に比べ肯定的な評価が減少傾向にある。博士後期課程進学の特長やキャリアパスなどについて理解を深めてもらう必要性がある。



2. あなたが、九州工業大学大学院工学研究科に在学して良かった点がありましたらご記入ください。

大学院における教育や研究について満足していることが挙げられており、それらが就職にも繋がっていることが実感されている。具体的に、教授内容や環境についての評価もあり、人、モノの両面での長所が指摘されている。産学双方にまたがる人的ネットワークについても評価されている。今後もこのような長所を維持発展できるような取り組みを続ける必要がある。

- ・ 就職に強い(明専会を通じてOBとの関わりが強い)
- ・ 明専トランプを学べたこと
- ・ 自発的に研究に取り組むよう指導を受け、その行動が身に付いたため、仕事で難しいことがあっても落ち着いて考えてやれるようになったと思う。
- ・ 講義内容が卒業研究に直接役立つ機会は少ないが、その過程で学んだ基礎、特に数学関係には助けられている。
- ・ 水環境工学研究室の秋山教授から、とても充実した教養教育を受けることができた点。社会人生活に上記の経験がとても役立っており、とても感謝しています。
- ・ 友達ができた。
- ・ メカトロニクス、特に制御分野において研究室、課外活動(学生フォーミュラ)等、実践を通じて学べる場が充実していた点が良かった。
- ・ 必修科目が多く、自由度は低いと思ったが、自身の所属した制御コースとしては、何が社会に出て職に活かせるかわからない中で、受動的ではあったものの、基本・応用を学ぶことができたため、結果的に良かった。
- ・ 大学院在学時に携わった研究(研究の中で課題や問題点に対し、自身もしくは教員たちと考え、様々なアプローチで解決する経験は社会人になって役立つ)
- ・ 就職先の候補が多く、推薦枠も十二分にある。
- ・ 就職に強い点
- ・ 多様な実験装置、学問、多くの学会に参加させていただけたことで「経験」が多くできたことが一番良い点でした。
- ・ 専門知識、人とのつながり

- ・ のびのび勉強できた。
- ・ 非常に就職活動に力を入れており、教授の方々から様々な話を伺うことができました。講義においても、実際にどのように活用される内容かということを含んだものとなっており、勉強する上で非常に分かり易かった。共同研究も盛んに実施しており、他研究室の学生との対話により、様々な分野の知識を得やすい環境だった。
- ・ 私は大塚研究室に在学していました。大塚研究室に在学したのは1年程度でしたが、内容の濃い一年でした。現在でもOB会等で係らせていただいています。大塚研究室に在学して良かった点は学生のやりたいように研究させていただいて、発言したいように発表させていただいたことです。自分のやってきた研究を卒業論文の発表会で自分が伝えたいように発表できたことは会社に入ってから大変役に立ったと思います。自分がやってきたことをまとめて報告するという事は、会社に入ってから大事なことだと感じています。
- ・ 私が在学していた時、建築学コースは2年目で、土木も建築も学ぶ環境がありました。今勤めている会社は化学プラントのある事業所全体の土建設備保全と建築です。建築物から自社のダムまで幅広い設備があり、土木・建築双方の知識・技術を必要とします。大学院まで進むことで、土木・建築ともに修得する良い機会が得られました。また、所属していた研究室では、研究を通して、施工の在り方まで学ぶことができ、入社してからもスムーズに仕事に取組めました。
- ・ 在学中に学んだことが資格取得などに役立っている。
- ・ 同じ大学の先輩が多く在籍しており頼りになる。
- ・ 材力、電熱、弾力、流体、機械設計、加工学等の専門教育が非常に役立っている。基本を押さえていたので、日々の業務で応用できている。
- ・ 様々な薬品に触れ、実験・研究が自由にできたこと。知識だけではなく実体験ができたことが非常に良い経験となりました。
- ・ 研究への取り組み方が仕事に役立っているのは間違いないと思います。私は自身の研究以外にも研究装置のソフト面（プログラミング）の構築等、いろいろな事をさせていただいたので、初めて取組む分野（流体解析等）でも、それなりに対応できていると思われる。

### 3. あなたが、九州工業大学大学院工学研究科に在学して不満を感じた点、こう改善すべきだと感じた（例えばこういった技術（科目）を教えてほしかった）点がありましたらご記入ください。

大学院での専門科目と社会的に必要な実践的内容とのミスマッチを指摘する声が多い。大学院教育のあり方を考える上で、専門性と汎用性のバランスを考慮に入れつつ発展させる必要があるだろう。

- ・ 学生時代にモーター、アクチュエーター、受配電等の電気科目や古典制御、現代制御の基礎くらいは学んでおきたかった。（当時の通信システムコース）
- ・ 博士課程ではより専門に特化したことを行ってほしい。
- ・ 研究を行い、学会に出た数を単位として認める制度があれば良かった。単位のために関心のない授業を受けてはいたが、頭に何も残っていない現状があるため。
- ・ 大学院にはあったが、学部にも、もっと英語を読むクセをつけられるようにした方が良いと思う。
- ・ C言語の重要度が高い。より深くまで学んでおきたかったと感じる。
- ・ 幾何公差についてもっと深く取り扱ってほしかった。（製図において必須知識であるため）
- ・ 日本の最近の風潮として、技術系企業では英語力、英会話能力を求められるため、工業系大学（院）

としても、もっと第一外国語の履修を積極的に（必修にする等）すると、より役に立ったのではと感じる。

- ・ コミュニケーション能力を向上する技術（メールマナー、プレゼンテーション能力）
- ・ 説明資料等の作成能力を向上する技術（仕様書、プレゼン資料）
- ・ ロジカルシンキング能力、英語能力
- ・ 研究、論文も大切だが、「現場」、「仕事」を「経験」できるプログラム、大切さを伝える機会があったらと思います。
- ・ 英語
- ・ 英語をもう少し増やしてもらえれば良かった。
- ・ 大学院では特にありません。（上記のとおり）学部（特に1・2年）の時、基礎的な内容を学ぶ際に、もっと社会でどう活かされている学問なのかを意識づけられれば、その後の学生の向上心、積極性を育むことにつながると思う。
- ・ 在学中は特に不満はありませんでした。難しいですが、建築士の制度にも対応しつつ、土木・建築の知識・技術双方を深く学べる環境を整えて頂き、学生の可能性を拓けるようにして頂ければ幸いです。
- ・ 若い先生を増やすべき。海外の先生を増やしてほしい。
- ・ 微小領域での細かい考え方、物事の根源について、もっと詳しく学びたかった。基本的なことを組み合わせて応用しているときにふと困ることがある。
- ・ 応用化学だったので、もっとたくさんの分析技術や分析装置の使い方を学ぶ機会があれば良かったと思います。名前は知っているが、どのような原理でどのようなものを評価できるのかわからないものが多数あるので。
- ・ データや資料まとめの際、基本的にはメジャーなソフト（Excel等）を使用すべきだと思います。私は学部の電気工学科を卒業しました。電気回路の定理を学ぶのも重要であると思われませんが、モータ等、実際確立した（代表的な）物をマイナーチェンジして中身の理解を深めるような実験科目があったらよかったです。

#### 4. 全体としての傾向

回答率は18%（147名中、27名回答）であった。今回の回答率は前年度の6%（10名回答）と比べ改良されてはいるが、データの信頼性としては十分なものとは言いがたいであろう。絶対数に関しても1人分が3.7%を占めるため、全体的な傾向を見ることに関しては適しているが、10%程度は誤差範囲と考えた方がよいかも知れない。

前年度と比べ評価が悪くなった設問が多かったが、前年度の回答者は10名であるため、前年度との比較がどれほど意味があるのか、不明である。過去5年間の結果は、本学の大学院教育について高い満足度を示しているが、2～4年前と比べて、されに高評価を得ているように読み取れる。

設問1（9）の回答結果は、博士後期課程への進学についての問題を浮き彫りにしており、進学率を維持、増加させるための取り組みが必要であると考えられる。

### 3 大学院工学研究院・工学府・工学部の管理運営

#### 3.1 大学院工学研究院・工学府・工学部の組織図

平成27年度の管理運営組織並びに意志決定体制を、図3.1.1及び図3.1.2に示す。

図3.1.1 組織図

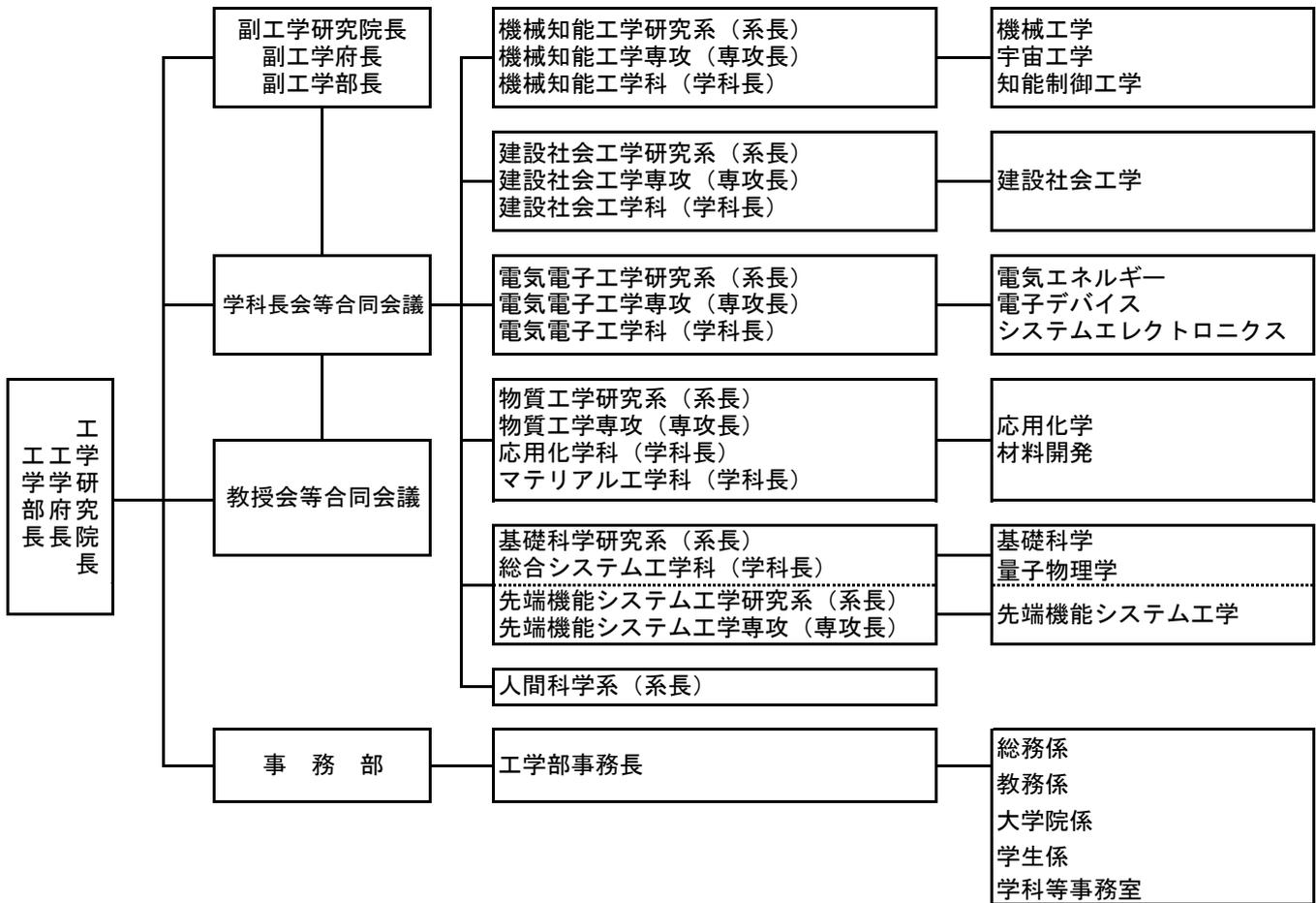
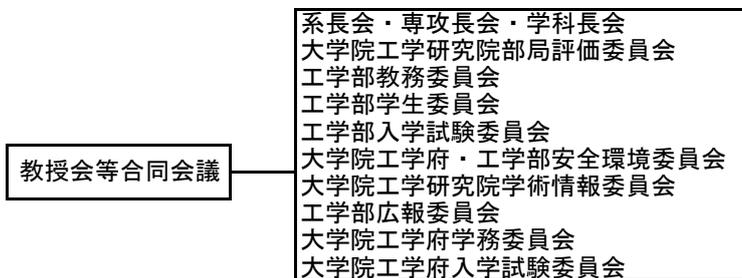


図3.1.2 各種委員会



## 3. 2 各種委員会活動の点検・評価

### 3. 2. 1 大学院工学研究院部局評価委員会

#### 1. 今年度取り組んだ課題

- (1) 平成26年度卒業生、修了生アンケートの解析
- (2) 平成26年度企業アンケートの実施
- (3) 平成27年度卒業生、修了生アンケートの実施
- (4) 「現状と課題」平成26年度版の発行準備
- (5) 平成27年度教育職員評価における実施後の意見集約
- (6) 第2期実績報告書の作成作業（部局執行部と共同で作成）

#### 2. 今年度採択した事項

- (1) 「現状と課題（平成26年度版，平成27年度版）」の作成スケジュールを検討した。
- (2) 平成28年度卒業生・修了生アンケート内容を検討した。
- (3) 平成27年度企業アンケート内容および実施方法を検討した。

#### 3. 残された課題または将来解決すべき事項

- (1) 「現状と課題（平成26年度版）」の早期公開  
「平成26年度卒業生、修了生アンケートのまとめ」ならびに「平成26年度企業アンケートの解析・まとめ」の作業が遅滞している。来年度早々、平成27年度の委員を中心にそれらの作業を速やかに実施し、「現状と課題（平成26年度版）」の早期公開を行う必要がある。
- (2) 各種アンケートの内容変更と継続的な内容の検討  
第2期を通じた各種アンケートの結果を分析した上で、さらに今後の大学評価と各種アンケートとの関連性を意識した上で、「修了・卒業を控えた学生」、「修了・卒業した学生」、「修了生・卒業生を受け入れた企業」に対するアンケートの内容を精査する必要がある。

#### 4. 委員会の議論に使用された主な資料

- ・工学研究院部局評価委員会内規
- ・企業に対するアンケート（雇用主とその企業で就業する卒業生・修了生にあてたもの）
- ・上記のアンケートの改善案
- ・平成27年度教育達成度評価アンケート実施後の教員のコメントに対する大学評価室からの回答(案)
- ・「現状と課題」26年度版と「現状と課題」27年度版の作成スケジュールについて
- ・第一回，第二回大学評価委員会の議事録

#### 5. 工学部の現状に関する意見または改善に関する提言

上記3（2）と同様。

#### 6. 昨年度の改善に関する提言に対する改善状況と未改善及び新たな問題点

- (1) 各種アンケート内容の見直しの効果的な活用  
卒業生，修了生，企業に対して実施しているアンケートは、過年度との比較が重要であるため長年、同一の内容のまま維持されてきた。しかし、来年度から第3期がスタートするにあたり、その内容を点検・精査すべき時に来ている。今年度の委員会では現状のアンケート項目の問題点の洗い出しを行ったが、今後、大学評価の際のエビデンスとして使用されることも意識した精査・検討が必要である。第2期からの変化を見る上でも、アンケート内容の全面的な変更は好ましくはないが、本学の状況を的確に把握するアンケート項目を検討すべきである。

### 3. 2. 2 工学部教務委員会

#### 1. 今年度取り組んだ課題

- 教育改革
  - ・学修細則及び履修課程表の改正
  - ・クォーター制度の導入
  - ・6年一貫教育制度の導入（グローバル・エンジニア養成コース）
  - ・コアカリキュラムの策定について対応
- 中期計画・中期目標
  - ・平成27年度中期計画・中期目標への対応
- 予算
  - ・工学部基礎共通実験実習経費の承認
- 規則等
  - ・工学部教務委員会内規の改正
- 学修細則
  - ・工学部学修細則の一部改正
- 成績
  - ・卒業査定、進級査定
  - ・学生の除籍、学生異動への対応
- 単位認定
  - ・編入学学生の単位認定への対応
  - ・外部機関での履修に伴う単位認定について
- 国際交流協定
  - ・プトラ大学派遣学生への対応
  - ・オールドドミニオン大学派遣学生への対応
  - ・昌原大学校サマープログラム派遣学生への対応
  - ・クラウスタール工科大学派遣学生への対応
  - ・釜山大学校派遣学生への対応
  - ・揚州大学及びテレマーク大学派遣学生への対応
  - ・キング・モンクット工科大学トンブリ校派遣学生への対応
  - ・韓国電子技術研究院派遣学生への対応
- 研究生受け入れ
  - ・日本人の研究生・聴講学生・科目等履修生の受入れへの対応
  - ・外国人の研究生・特別聴講学生・短期訪問学生の受入れへの対応
- 学年暦・行事予定など
  - ・学年暦・主要行事予定表・時間割・授業調整期間・再授業学力再確認期間の設定
  - ・期末試験・学力再確認の実施
  - ・成績評価の異議申し立てへの対応
  - ・新入生研修、コース分けへの対応
  - ・推薦入試I合格者の入学前教育・ガイダンスの実施

- ・公開授業への対応
- ・指導教員の割り振り

●その他

- ・教務委員会で取り上げるべき課題等の整理・実施
- ・TOEFL 一斉受験及び TOEFL 講座の開講への対応
- ・再入学申請について対応
- ・情報工学部学生の工学部への移籍について対応
- ・工学部共通教育連絡委員会を開催

## 2. 今年度採択した事項

●教育改革

- ・再試験の廃止
- ・人文・英語科目や各学科のカリキュラム改正  
→工学系他分野科目について、機械工学概論の科目統合、生命体工学概論の新設
- ・平成28年度学年暦のクォーター制対応  
→前期授業開始日：情工・生命体と揃え、4月7日（木）  
→後期授業開始日：学生異動や授業料債権等を考慮し、10月3日（月）開始（生命体も同様）  
→後期の開始日は情報工学部と異なる  
→授業調整日を工学府と統一  
→クォーター科目については、各クォーター毎の年4回試験を実施する  
→試験室確保が厳しいため、各クォーター毎に試験予備日を設定
  - ・グローバル・エンジニア養成コース「GCE 専門科目」を決定
  - ・コアカリキュラムの策定について検討を依頼

●中期計画・中期目標

- ・平成27年度中期計画・中期目標について  
今年度の取り組み予定、課題等の確認を行った。項目を各教務委員に割振り、分担して実施。
- ・平成27年度中期目標・中期計画の暫定評価の実施
- ・平成27年度年度計画の最終評価の実施

●予算

- ・工学部基礎共通実験実習経費について  
物理学実験、化学実験、情報教育の平成26年度決算及び平成27年度予算について承認

●学修細則

- ・工学部学修細則の一部改正

●成績

- ・連続する2年間で30単位を修得できない学生について  
→工学部学修細則第15条第2項の取扱いについて、疾病を「特別な理由」として学部長に意見を求めることができ、休学していなくとも第15条第2項適用が検討できることを確認
- ・卒業査定の承認
- ・進級査定の承認

●単位認定

- ・入学前の既修得単位の認定
- ・外国語能力試験の成績に基づく単位認定
- ・平成27年度編入学学生の単位認定
- ・編入学生への出身高専等で修得した科目の内容調査書の承認
- ・成績評価の異議申し立て期間の決定
- ・eラーニング高等教育連携に係る遠隔教育による単位認定

●国際交流協定

- ・プトラ大学派遣学生の単位認定
- ・オールドドミニオン大学派遣学生の単位認定
- ・昌原大学校サマープログラム派遣学生の単位認定
- ・釜山大学校派遣学生の単位付与
- ・クラウスタール工科大学派遣学生の単位付与
- ・揚州大学及びテレマーク大学派遣学生の単位付与
- ・キング・モンクット工科大学トンプリ校派遣学生の単位付与
- ・韓国電子技術研究院派遣学生の単位付与

●研究生受け入れ

- ・国費外国人研究生の受入れ承認
- ・外国人研究生の受入れ承認
- ・外国人研究生の期間延長の受入れ承認
- ・外国人研究生の期間短縮承認
- ・短期訪問学生の受入れ承認
- ・特別聴講学生の受入れ承認
- ・外国人特別聴講学生の受入れ承認
- ・昌原大学校との短期プログラム実施及び特別聴講学生の受入れ承認
- ・科目等履修生の受入れ承認
- ・平成28年度工学部研究生等事務手続き要領の承認

●学年暦・行事予定など・平成27年度前期授業調整期間の設定・後期授業調整期間・再授業学力再確認期間の設定

- ・平成27年度前期末試験・学力再確認の実施
- ・推薦入試I合格者の入学前教育の実施
- ・平成28年度学年暦の設定
- ・平成27年度コース分けスケジュールの決定
- ・平成28年度1月以降主要行事予定表の決定
- ・福岡県立ひびき高校との高大連携に係る公開授業の承認
- ・平成28年度時間割の作成
- ・推薦入試I合格者ガイダンスの実施
- ・成績評価の異議申し立てへの対応
- ・平成28年度オリエンテーションスケジュールの決定

- ・平成28年度入学生の指導教員の割り振り
- ・新生研修に伴う休講措置の決定
- ・平成28年4月以降の行事予定の決定
- ・平成28年度前期授業調整期間の設定
- その他
  - ・TOEFL一斉受験及びTOEFL講座の開講への対応
  - ・九州職業能力大学の学生を特別聴講生として受け入れる交流協定を承認
  - ・学生向け研究倫理・不正防止教育を実施
  - ・再入学申請受入れについて承認

### 3. 残された課題、又は将来解決すべき事項

#### ●教育改革

- ・卒業単位124にむけた各教室におけるコアカリキュラムの設定
- ・物理実験、化学実験の位置づけについて各教室で検討する
- ①グローバル・コンピテンシー（GCE）養成教育プログラムの策定及び実施
  - ・TOEIC受験と学生の実力向上へ向けた具体的な取組み
- ②6年一貫教育制度の導入検討
  - ・プレ卒業研究（研究室早期配属）の教室ごとの具体的な実施方法と単位付与について
- ③クォーター制度の導入検討（全学年）
  - ・セメスター制がやむを得ない授業（実験など）を除く授業のクォーター制への移行
  - ・GCEによる学生派遣のためのカリキュラム編成（3か月間空ける努力）
- ④再試験の廃止への対応
  - ・学力再確認制度として残した今後の方針（継続か、廃止か）を継続審議する。

#### ●学修細則の一部改正について

- ・GPAの計算方法について世界の動向を調査する必要がある、その後、本学のGPA計算手法を検討する必要がある（リテイク制度など）。

#### ●平成27年度編入学学生の単位認定

編入学学生の単位認定について、委員会において下記のような意見が出されており、問題点を整理して、またJABEEとも整合性がとれるよう、来年度以降の検討する。

- ・1，2年次の必修科目が認定されなかった場合、編入してからの時間割が重複してしまい、編入生の負担が大きくなる。
- ・3年次編入なので、認定単位数を増やす目的で3年次の専門科目を認定することは難しく、学科としても3年次の科目から受けさせたいと考えている。
- ・以上のことを踏まえ、単位認定の目安を76単位以上として、できる限り80単位の限度へ調整する具体的な方法を検討する。

#### ●新しい教育手法についての検討

##### ①アクティブ・ラーニング MILAiS

- ・PBLなどでアクティブラーニングを増やしてきたが、今後は低学年におけるPBLのあり方や低学年ゼミなどの取り組みについても検討する。

- ・一般的な座学については、Moodle を併用するなどして、学生の自主的な学習を促す具体的な方法について検討する。

#### ②PBL 科目への対応

- ・引き続き、一部施行されているルーブリックの導入を推進する。

#### ③エンジニアリング・デザイン教育の進め方の検討

- ・異分野（文系学生）の人と協働作業できる具体的な取り組みを検討する。

#### ●「工学倫理・安全工学」の開講について

「工学倫理」「安全工学」「工学と環境」「知的財産」をキーワードに1単位ずつとして、各教室が自前で授業を行う具体的な方法について検討する。

#### ●外部試験による英語の単位認定の基準について

GCEの修了要件TOEIC600点以上が現実的な値となるよう、キャリア教育も併用した学生の意識改革など、具体的な方策を検討する。

#### ●学修自己評価システム等

学修自己評価システムの利用率向上は必須であり、スマートフォンからの入力を可能とする仕様の変更を教育企画室へ要望するとともに、引き続き、利用率向上について具体的な方策を検討する。

#### ●海外派遣の促進

各教室で実施しているプログラムについて情報交換するとともに、学生派遣に必要な経費獲得についても情報交換するなど、実施を推進するための方策を検討する。

### 4. 委員会の議論に使われた資料

- (1) 教務委員会資料等
- (2) 教育企画室会議資料等

### 5. 現状に関する意見または改善に関する提言

教務に関する取り組みとして、海外派遣、PBLの成果や学生のTOEIC点数、GPA履歴、ルーブリック評価など既に多くの成果があるはずであり、それらを集約するシステムを構築し、中期計画の報告資料作成に活かす具体的な方法を検討頂きたい。

### 6. 昨年度の改善に関する提言に対する、改善状況と未改善および新たな問題点

学生TAおよび非常勤講師については既に多くを削減しており、さらなる削減については教育の質低下につながる恐れがある。

### 3. 2. 3 工学部学生委員会

#### 1. 今年度取り組んだ課題

- (1) 中期目標・中期計画の年度計画の立案と実行
- (2) 全国学生相談会及び障害学生支援実務者育成研修会にて情報収集と共有
- (3) 保健センターとの定期的意見交換
- (4) 学生総合支援室のキャンパスソーシャルワーカー（オブザーバ参加）との情報交換、質疑応答（発達障害、またはそれと疑われる学生、連続欠席や不登校の学生へのサポート等について）
- (5) 鳳龍奨学賞を補完する工学部奨学賞の実施
- (6) 不正行為防止についての検討と実施
- (7) 工大祭への対応（企画段階でのアドバイスと実施時の巡回）
- (8) 新入生研修の実施日程に係る部局意見の検討
- (9) 新入生研修やオリエンテーションにおける学生への注意喚起と資料の検討・更新
- (10) 駐車場ゲートを不正に通過している学生への警告
- (11) 日本学生支援機構奨学生の選考
- (12) 国費外国人留学生の奨学金支給期間延長の推薦
- (13) 学寮（明専寮）運営委員会への委員長の参画
- (14) 意見箱へ寄せられた学生からの意見への対応（試験の時間割に関する要望）
- (15) サークルヒアリングの実施と課外活動団体への物品援助に係る団体選定の確認
- (16) 平成27年度学生生活実態調査の「大学への要望等」に対する回答

#### 2. 今年度採択した事項

- (1) 工学部奨学賞を実施し、63名の学生を表彰した。
- (2) 学生表彰に関して被表彰者の周囲の学生に対して意見を聴取し、その結果に関して議論を行った。
- (3) 課外活動団体の代表者に対して、大学の支援体制について意見の聴取を行い、検証を行った。
- (4) 定期試験にあたり、不正行為がいかにかんげすべき行為であるか等の事項を列挙した学生向け警告文を検討・更新し、掲示板及びWeb上で周知するとともに、学生がダウンロードする試験時間割PDFファイルの冒頭にも学生向け警告文を付加し、周知の徹底を図った。さらに、教員向けに「不正行為に対する留意事項（試験直前用）（試験前講義用）」のスライドを作成し、授業担当教員からの周知についても依頼をした。
- (5) 工大祭の学科展窓口教員のあり方について、議論を行った。
- (6) 駐車場ゲートの不正通過に関して、学生への警告文及び掲示物を作成し注意を促した。

#### 3. 残された課題、又は将来解決すべき事項

- (1) 学生のマナーアップ（駐輪、喫煙、飲酒等）に対する具体的な取り組みと駐輪場の整備要望の継続。
- (2) 抜本的な不正行為防止策の検討。
- (3) 発達障害、メンタル不調、引きこもり、自殺など学生を取り巻く今日的課題に対する、工学部内外の各部署との連携による、情報を共有する仕組みづくりに関する継続した取り組み。

#### 4. 委員会の議論に使われた資料

- ・九州工業大学中期目標・中期計画
- ・全国学生相談会報告書
- ・障害学生支援実務者育成研修会報告書
- ・学生総合支援室リーフレット

#### 5. 工学部・工学府の現状に関する意見、又は改善に関する提言

不断の注意喚起と教職員の協力にも関わらず、残念なことに再試験における不正行為が1件と、不祥事（盗撮）が1件発生した。試験における不正行為や不祥事については、今後も、新入生研修や年度初めの2・3年生向けオリエンテーション等の場で、不正行為等を行った場合は厳正な処分が下されることを周知するとともに、試験における不正行為については教員側に対しても試験開始前アナウンスを行うことを徹底してもらう必要がある。

また自転車の迷惑駐輪や喫煙マナーも、変わらず問題となっている。学生への注意喚起をしながら、駐輪場の確保（屋根付き、固定機付きなど）と学生に知らせる表示方法等についても議論し、業務分掌の明確化と実施の迅速化が求められている。

さらに今日的な課題である学生の発達障害、メンタル不調、引きこもり、自殺などに関し、各部署が連携し情報を共有するための対応策については、本委員会において、キャンパスソーシャルワーカーから業務の概要説明を受けた後、発達障害、またはそれと疑われる学生、連続欠席や不登校の学生へのサポート等について、情報交換、質疑応答を行った。今後もこのような連携が求められる。

#### 6. 昨年度の改善に関する提言に対する改善状況と未改善及び新たな問題点

- ・試験において不正行為が今年度は1件発生した。監視体制が有効に機能している証拠とも言えるが、好ましくない事象であり、引き続き、防止策の検討を行い、有効な対策を採る必要がある。
- ・総合教育棟における迷惑駐輪については、現在のところ1台も無い状態をキープできているが、4月に新入生が入ってから再度周知を行わなければ、従前の状態に戻ってしまう可能性もある。
- ・今年度、学内において盗撮を行うという不祥事が発生し、加害者については懲戒処分とした。保健センターとも連携し、必要に応じて被害者へのカウンセリングを実施するなど、今後のケアを行う必要がある。

### 3. 2. 4 工学部入学試験委員会

#### 1. 今年度、本委員会が取り組んだ課題

- (1) 平成28年度工学部編入学試験実施について
- (2) 平成28年度工学部推薦入試Ⅰ実施について
- (3) 平成28年度工学部推薦入試Ⅱ実施について
- (4) 平成28年度工学部帰国子女入試実施について
- (5) 平成28年度私費外国人留学生入試実施について
- (6) 平成28年度個別学力検査実施について
- (7) 平成28年度工学部帰国子女入試の選考方法について

#### 2. 今年度、本委員会が採択した事項

通常の選考・審査，募集要項の作成については例年どおり実施した。ここでは，新たに実施した事項についてのみ記す。

- (1) 平成29年度推薦入試Ⅰから，Web出願を導入することとなった。(編入学試験は，平成30年度入試より導入)
- (2) 平成29年度入試より前期日程および推薦Ⅰ・Ⅱでは30点，後期日程では15点を最大とし，また各入学試験の配点を上限として加算することとした昨年度決定に引き続き，CEFR及びTOEFLの得点分布に基づいた加点換算表を採択し，上程した。
- (3) 平成28年度一般入試の正員数を決定する際，参考データとして，平成28年度センター試験の成績のみによる仮選考表を用いると，合格者等選考方法の記載を修正した。
- (4) 平成28年度帰国子女入試の選考方法について，第1志望学科のみで選考することになった。これに伴い，募集要項を修正した。

#### 3. 残された課題、又は将来解決すべき事項

##### (1) 入試科目の検討

工学部の個別学力検査において，入試科目に生物の追加を希望する学科があり，第2志望および第3志望学科の受け入れ条件や実施時期について，改組を踏まえて早急に検討する必要がある。

##### (2) 入試倍率の分析と改善策

平成28年度入試では，平成27年度に比べ受験者数が増加傾向にあったものの，入試倍率に関する分析を今後も継続して行い，改善策，例えば，学生定員の見直しなどを検討することが必要である。

##### (3) 入試戦略を担当する部署との連携

工学部の入試結果を改善・向上するためには，アドミッションポリシーを見直すとともに，それに沿って入試改革を実行することが必要であり，そのためには，入試戦略を担当する部署を立ち上げ，その部署と入試委員会が連携して入試改善に取り組むことが極めて重要である。

#### 4. 委員会の議論に使われた資料

- (1) 平成28年度入学者選抜要項
- (2) 平成28年度工学部推薦入試学生募集要項
- (3) 平成28年度帰国子女入試学生募集要項
- (4) 平成28年度一般入試学生募集要項
- (5) 平成28年度私費外国人留学生入試募集要項
- (6) 平成28年度第3年次編入学学生募集要項
- (7) 平成27年度第4回工学部入試委員会資料

#### 5. 工学部の現状に関する意見、又は改善に関する提言

上記3で記述した。

#### 6. 昨年度の改善に関する提言に対する改善状況と未改善及び新たな問題点

前年度の提言に関して，調査分析を行い，進むべき方向性を示した。

### 3. 2. 5 大学院工学府・工学部安全環境委員会

#### 1. 今年度取り組んだ課題

- (1) 研究室単位の「安全衛生教育」、「安全衛生ミーティング」の実施および実施結果の評価
- (2) 「学部2と3学年安全衛生教育」の実施および実施結果の確認
- (3) 「平成28年度版実験・実習における安全の手引き」の改訂、及びダイジェスト版の改訂

#### 2. 今年度採択した事項

該当なし

#### 3. 残された課題、又は将来解決すべき事項

- (1) 昨年度からの課題の「研究室安全衛生ミーティング」について、必ず全員参加を原則としているが、参加できない学生については、別日を設けて実施することなど柔軟な対応が求められる。
- (2) 安全ミーティング報告書で挙げられた「本部への要望等」に対する回答を情報共有して各学科にフィードバックする体制を作る必要がある。

#### 4. 委員会の議論に使われた資料

該当なし

#### 5. 工学部・工学研究府の現状に関する意見、又は改善に関する提言

上記3. と同様。

#### 6. 昨年度の改善に関する提言に対する改善状況と未改善及び新たな問題点

- (1) 今年度は事務担当業務の引き継ぎの不手際及び事務担当の想定外の途中交代などが重なり、メールでのやり取りが中心になった。事務業務の引き継ぎが予定されている場合は、前年度の委員会にオブザーバーとして参加し、スムーズに引き継ぎができるよう準備しておくことが望ましい。

### 3. 2. 6 大学院工学研究院学術情報委員会

#### 1. 今年度、委員会が取り組んだ課題

- (1) 本委員会組織に関わる検討
  - A. 正副委員長の選出と本委員会の業務等確認
  - B. 情報基盤企画室運営会議への委員の参加
  - C. 情報セキュリティポリシー策定専門部会への委員の参加
  - D. 情報セキュリティポリシー実施WGへの委員の参加
  - E. 「ソフトウェア使用許諾権の更新」政府調達における仕様策定委員会への委員の参加
  - F. 電子ジャーナル検討WGへの委員の参加
- (2) 違法行為防止、及びセキュリティ向上についての検討と対処
  - A. 新入生オリエンテーション及び学部2年・3年生向けオリエンテーションでの情報モラルとネットワークセキュリティ教育の実施
  - B. 平成27年度情報モラル向上週間の企画と実施(年2回)
- (3) 全学運用ソフトウェアの工学部での運用方法の検討と実施
  - A. マイクロソフト教育機関向けライセンスプログラムの運用に関する工学研究院の基本方針策定
  - B. ウィルス対策ソフトウェアの運用に関する工学研究院の基本方針策定
- (4) 附属図書館に関する検討
  - A. 平成27年度工学部学生用図書購入予算額配分の審議
  - B. 図書館情報リテラシー(中級)の卒業研究への組織的参画について
  - C. 平成28年度電子ジャーナル等の購読について

#### 2. 今年度、委員会が採択した事項

- (1) 本委員会組織に関わる検討
  - A. 正副委員長の選出と本委員会の業務等確認(第1回)  
正副委員長を選出し、副委員長が全学委員会へオブザーバー参加することを確認した。  
また本委員会における業務等をまとめ、確認した。
  - B. 情報基盤企画室運営会議への委員の参加  
委員長が情報基盤機構運営会議に参加することを確認した。
  - C. 情報セキュリティポリシー策定専門部会への委員の参加  
委員長が情報セキュリティポリシー策定専門部会に参加することを確認した。
  - D. 情報セキュリティポリシー実施WGへの委員の参加  
委員長が情報セキュリティポリシー実施WGに参加することを確認した。
  - E. 「ソフトウェア使用許諾権の更新」政府調達における仕様策定委員会への委員の参加  
委員長が「ソフトウェア使用許諾権の更新」政府調達における仕様策定委員会に参加することを確認した。
- (2) 違法行為防止、及びセキュリティ向上についての検討と対処
  - A. 新入生オリエンテーション及び学部2年・3年生向けオリエンテーションでの情報モラルとネットワークセキュリティ教育の実施
  - B. 平成27年度情報モラル向上週間の企画と実施(年2回)  
前期は平成24年度に策定した、情報モラル向上週間の運用方法に従い、各学科で「情報倫理デジタルビデオ小品集3」のビデオ映像の閲覧を行った。後期は「情報倫理デジタルビデオ小品集5」の新規購入に伴い、当該ビデオ映像を用いた情報モラル向上週間の運用方法を検討し、ビデオ映像の閲覧を行った。
- (3) 全学運用情報化関連ソフトウェアの工学部での運用方法の検討と実施
  - A. マイクロソフト教育機関向けライセンスプログラムの運用に関する工学研究院の基本方針策定  
・平成27年度のMicrosoft社製ソフトウェアのライセンス管理について情報基盤室に依頼/  
各学科毎の依頼にするかの検討を行った。
  - B. ウィルス対策ソフトウェアの運用に関する工学研究院の基本方針策定  
平成27年度のライセンス契約の確認を行った。
- (5) 附属図書館に関する検討
  - A. 工学部学生用図書購入予算額配分  
従来通り各系に予算を按分することを了承し、選書を実施した。

- B. 図書館情報リテラシー（中級）の卒業研究への組織的参画について  
卒業研究の一環として組織的に実施することに関して、実施方法や時期などを確認した。
- C. 平成28年度電子ジャーナル等の購読について  
購読電子ジャーナル削減要請に伴い、各学科で必要な電子ジャーナルのアンケート調査を行い、工学研究院としての優先順位付けを行った。

### 3. 残された課題、又は将来解決すべき事項

以下の事項について、引続き主体的に取り組んでいく必要がある。

- (1) 購読電子ジャーナルの選択  
今回の購読電子ジャーナル削減が、本学第3期中期目標である「研究力向上のための取組み」と逆行するとの強い批判あった。また予算不足の対策として、エルゼビア等の三大パッケージ契約の見直しが必要であるとの意見が数多く寄せられた。
- (2) 情報セキュリティポリシーの周知徹底
- (3) 情報モラル向上のための啓蒙活動
- (4) ソフトウェアライセンス管理の徹底とCA申請システムの改善  
CA申請システムの認証機能が独自で開発されているため、全学教育用統合IDとの連携が今後望まれる。

### 4. 委員会の議論に使われた資料

- ・平成27年学術情報委員会資料（全学委員会資料）
- ・平成27年度大学院工学研究院学術情報委員会委員名簿
- ・大学院工学研究院学術情報委員会内規
- ・大学院工学研究院学術情報委員会委員長ローテーション表
- ・平成26年度大学院工学研究院学術情報委員会報告書「昨年度の活動」
- ・マイクロソフト教育機関向けライセンスプログラムの運用に関する工学研究院の基本方針
- ・ウィルス対策ソフトウェアの運用に関する工学研究院の基本方針
- ・平成27年度 工学部学生用図書購入予算額配分（案）
- ・新規整備した電子ブック・電子ジャーナル等のトライアルについて
- ・工学専門教育研究用計算機システムについて
- ・図書館情報リテラシー（中級）の卒業研究への組織的参画について（依頼）
- ・「オーダーメイド講習会」の開催について

### 5. 工学研究院の現状に関する意見、又は改善に関する提言

購読電子ジャーナル削減に関し、専門誌購読中止に伴う研究活動への悪影響の懸念が数多くあった（American Chemical Society ジャーナル・American Physical Society ジャーナル購読継続の要望書の提出2件）。中期目標達成に向け、3大ジャーナルパッケージの解体も含めた効率的な予算運用が必要であると考えられる。

他は上記3.と同様。

### 6. 昨年度の改善に関する提言に対する改善状況と未改善及び新たな問題点

情報モラル向上のための啓蒙活動については、今後も継続して実施していく必要がある。

### 3. 2. 7 工学部広報委員会

#### 1. 今年度、貴委員会が取り組んだ課題

工学部広報委員会は学部学生募集活動の実施母体である全学の学部学生募集専門部会（以下「募集部会」という。）を通して情報工学部および生命体工学研究科と連携を取りながら、全学的に統一性のある学生募集活動の充実に努めた。また、工学研究院広報室（以下「広報室」という。）と密接に連携して、質の高い学生募集活動の充実に努めた。これら活動のために、本委員会は、各学科、人間科学系から各1名および広報室室長から構成されており、委員長、副委員長および広報室長は募集部会の構成員となっている。あわせて、本委員会の委員は広報室の構成員も兼務している。このような組織の下、主に以下の定例的な課題について検討を行い実施した。

- (a) オープンキャンパス
- (b) 高校訪問（大学説明会）
- (c) 進学説明会
- (d) 本学主催入試説明会
- (e) 高校からの工学部訪問への対処
- (f) 大学案内の編集補助
- (g) その他

#### 2. 今年度、貴委員会が採択した事項

前項目の各課題に対応するため下記事項を採択し実施した。

- (a) オープンキャンパス
  - (1) H27年度のオープンキャンパスは、8月7日（金）と8日（土）に開催し、それぞれ1133名、1298名の参加者があり盛況のうちに終了した。最近の傾向として参加者が増加している。
  - (2) 学科ツアーは、生徒の希望だけでなく、できるだけ多くの学科を見学してもらうことを目的として、専門分野の類似性、一般入試の第1、2志望の組合せおよび各見学場所間の移動の容易さなどを考慮し、表1に示す組合せで実施した。

表1 学科ツアーの組合せと参加人数

	A コース	B コース	C コース
8月7日	機械知能 総合システム	建設社会 応用化学	電気電子 マテリアル
	午前 178名	77名	57名
午後	20名	27名	13名
8月8日	機械知能 マテリアル	建設社会 総合システム	電気電子 応用化学
	午前 163名	118名	141名
午後	33名	32名	17名

学科ツアーの参加者は、午前中に集中する傾向が例年続いており、午後のツアーに分散させる対策が必要である。また、自由見学と同じ会場を使用する学科では、参加者が集中した場合に説明時間や移動時間の確保が課題になると考えられる。

自由見学は、例年同様学科ツアーと並行に実施し、複数の学科への見学を促すため、スタンプラリーの形式で行った。

- (3) オープンキャンパスでは学科紹介の展示だけでなく、来場者からの質問、疑問に密接に応えられる各種の相談コーナーをインタラクティブ学習棟 MILAiS に設置した。「学科相談コーナー」では各学科の教員が、各学科での修学、就職の状況、推薦入試に対する質問に対応した。「入試相談コーナー」は広報室室員が担当し、進路相談、一般入試に関する質問に対応した。「女子学生相談コーナー」は各学科から選抜された女子学生が担当し、女子高校生からの相談に対応した。2日間で81名の参加者があり、本学女子学生の丁寧な対応で和やかな雰囲気の中、疑問だった点や不安に感じていたことなど気楽に話すことが出来たと好評であった。

- (4) 各学科の説明においては、昨年度と同様に説明者の服装、態度に関して配慮をお願いすると共に、平易な説明を心がけていただけよう依頼した。
- (5) 期間中にボランティアで誘導に協力していただく生協学生委員に対して、昨年同様、服装、態度に関して配慮をお願いした。
- (6) 平成 28 年度オープンキャンパスの開催日程について検討し、学年歴に入れていただくように教務委員会に依頼した。
- (b) 高校訪問（大学説明会）

募集部会にて「高校訪問（大学説明会）実施に関する事務処理申し合わせ」に基づき決定された高校及び予備校を広報委員等が分担して訪問し、生徒向けの説明会を実施した。全体で 106 校の申し込みがあり、広報委員会は 38 校を担当した。

説明には全学共通のスライドを用い、事前にその内容を検討した。また、昨年度の高校訪問報告書のまとめを参照し質問への対応に活用した。
- (c) 進学説明会  
募集部会にて「企業主催による進学説明会への参加の基本方針」に基づき決定された進学説明会に広報委員等が分担して参加し、ブース訪問者へ説明、対応を行った。
- (d) 本学主催入試説明会  
本学主催の入試説明会に出席し、スライドを用いて工学部に関する説明を行い質問へ対応した。
- (e) 高校からの工学部訪問  
理数教育支援センターで受付けている大学訪問に対して大学説明を実施した。
- (f) 大学案内の編集補助  
大学案内は 2 年ごとに改訂しており、H28 年度版はその改訂期に当たるため、H27 年度は、学科紹介のページの著者選定を広報委員会で行った。その他 Index や Curriculum など工学部に関連するページは見直しを行い、高校生が工学部や各学科を身近に感じより魅力を抱くように工夫した。なお、H30 年度に全学的な改組が予定されており、H29 年版はその改組の内容を取入れたものとするため、H29 年版は 1 年間だけの使用になり、H28 年度に大幅改定を行う予定である。
- (g) その他  
全学広報戦略会議からの依頼で「夢ナビ」及び「夢ナビライブ」に対応する教員の追加、ベネッセのマナビジョンへの掲載原稿の対応等を行った。また、明専会と共同で、在校生のための明専女子塾を企画・実施し、OGの体験談を聞くなど、相談をする機会を設けた。理系女子のキャリアパスを知ることができたと好評であった。

### 3. 残された課題、又は将来解決すべき事項

充実したオープンキャンパス、高校訪問等为目标に活動を行ってきた。これからも、同内容の活動を着実に遂行していくことが重要であると思われる。特に工学部では H30 年度に改組を予定しているため、改組による入試制度の変更を的確に高校教員、高校生および保護者に伝えることが非常に重要になる。H30 年度の入学者は H28 年度の高校 2 年生であり、オープンキャンパス来場者の中心層が高校 2 年生であることを考慮すると、広報活動として入念な準備が必要と考えられる。

### 4. 委員会の議論に使われた資料

募集部会資料、大学案内、オープンキャンパスアンケートおよび調査結果。

### 5. 工学部・工学研究科の現状に関する意見、又は改善に関する提言

特になし

### 6. 昨年度の改善に関する提言に対する改善状況と未改善及び新たな問題点

学科ツアーの参加者が午前中に集中する問題を解決すべく、各学科ツアーと自由見学の展示について広報委員会で検討したが、高校生の希望する学科だけでなく工学部の各学科を広く知ってもらうために例年同様の学科ツアーを実施した。参加者の分散を図るため学科ツアーの受付において午後も開催していること、自由見学も並行で開催していることを周知した。その結果、午前中のツアーで定員を超過することはなかった。来年度においても学科ツアーと自由見学の内容や会場を精査し、

ポスターやチラシを通して有効な情報提供を検討する必要があると考えられる。

### 3. 2. 8 大学院工学府学務委員会

#### 1. 今年度取り組んだ課題

##### (1) 授業関係・教育関係

学位論文評価基準の制定

クォーター制導入に伴うカリキュラムの検討

工学専攻の学位論文審査等の取り扱い

博士学位論文審査申請書類作成上の注意事項

ProST の修了要件

融合科目の運用等

工学府学修細則の一部改定

大学院工学府教育職員等資格審査委員会内規一部改正

九州工業大学大学院工学府における長期にわたる教育課程の履修に関する基準の改正

工学府社会人修学支援講座実施要項の改正

工学府社会人修学支援講座平成 28 年度募集要項

平成 28 府学生便覧等の原稿作成

平成 28 年度工学府時間割表

教育・学習系統図

工学府授業科目の特例履修に関する単位の認定

ダブルディグリー学生の単位認定

派遣学生の単位認定

他学府等の授業科目の履修

平成 28 年度大学院工学府研究生・科目等履修生・聴講生の募集要項

平成 28 年度学年暦（工学府）

『博士後期課程「工学融合科目」実践メニュー』等ウェブサイトの更新

6 年一貫教育（グローバル・エンジニア養成コース）の上級語学科目

##### (2) 学生関係

学位記の様式

学位記発行による英文による証明書

学生異動・派遣

外国人研究生・特別研究学生・特別聴講学生の受入

国費外国人留学生（研究留学生）受入

社会人修学支援講座（技術者大学院講座）の聴講生の受入

平成 27 年度博士後期課程指導教員グループの決定

日本学生支援機構奨学金 特に優れた業績による返還免除 新制度の利用について

日本学生支援機構大学院予約奨学生の選考

日本学生支援機構大学院第一種奨学金の返還免除候補者推薦枠の配分

長期履修申請

就学体験生受入要項

学生生活実態調査「大学への要望等」の対応

##### (3) 中期目標・中期計画

中期目標・中期計画の調査、エビデンスの収集

#### 2. 今年度採択した事項

##### (1) 授業関係・教育関係

###### イ. 学位論文評価基準の制定

学位論文の評価基準を「学生に対してあらかじめ明示する」ため、学位論文評価基準の制定について審議し承認した。

###### ロ. クォーター制導入に伴うカリキュラムの検討

平成 28 年度から、1 週 2 コマの講義を実施することに伴い、カリキュラムや時間割について審議し承認した。なお、工学部の授業時間割調整において例年に比べ講義室の確保が厳しい状況であるため、大学院の時間割を取りまとめ調整する際は、基本的に学部授業の講義室を優先して調整すること

とした。また、来年度時間割表のフォーマットを変更することとした。

ハ. 工学専攻の学位論文審査等の取り扱い

工学専攻の早期修了予定者の専攻内での審議及び学位論文審査の専攻内審査については、学生が便宜的に所属する領域でも責任をもって対応してもらうこととし、早期修了予定者の専攻内での審議については、学生の所属する領域の学務委員が早期修了申請書の（確認者）学務委員欄に確認すること、学位論文専攻内審査については、博士前期課程の専攻長を学生の所属する領域の専攻内審査の代表者とし、学位論文専攻内審査結果報告書及び学位論文審査委員会委員候補者推薦書の確認欄に確認することが承認された。

ニ. 論文目録「2. 印刷公表の方法及び時期」の記載について

「2. 印刷公表の方法及び時期」に記載する論文は、申請者が第一著者の論文のみ記載しなければならないのではないかとの問題提起について審議し、必ずしも第一著者である必要はないが、ここに記載する論文を申請者の博士論文を構成する論文とすることについては、レスポンスオーサーの許可を取っておく必要がある旨を「博士学位論文審査申請書類作成上の注意事項」に追記することとした。

ホ. ProST の修了要件の変更

対象を A 課程の学生にも拡張することに伴い、ProST の修了要件の変更について審議し承認した。

ヘ. 大学院工学府教育職員等資格審査委員会内規一部改正について

「九州工業大学大学院博士課程担当教員資格審査細則」の改定に伴い、大学院工学府教育職員等資格審査委員会内規一部改正について審議し承認した。

ト. 工学府学修細則の一部改正

平成 27 年度の工学府学修細則について、クォーター制導入に伴う科目の廃止、新設等について審議し承認した。

チ. 長期履修申請書等の様式変更

学長宛の申請であることを配慮し、様式変更について審議し承認した。

リ. 九州工業大学大学院工学府における長期にわたる教育課程の履修に関する基準の改正

長期履修期間の短縮の願い出期間を明確にさせるための基準の改正について審議し承認した。

ヌ. 工学府社会人修学支援講座実施要項の改正について

科目の廃止、新設について審議し承認した。

ル. 工学府社会人修学支援講座平成 28 年度募集要項について

募集要項の印刷にかかる費用、広報状況及び申込者数等を鑑み、審議の結果、平成 28 年度分より冊子体として印刷せず、大学HPにてPDFを掲載することとし、企業等にはその掲載案内を郵送することとした。

ヲ. 産学連携サービス経営人材育成事業について

地域資源(ストック)活用型サービス経営人材育成事業が採択されたこと及び教育プログラムの実施に当たって必修となる「ストックマネジメント学」、「エリアマーケティング学」及び「ストックデザイン演習」の3科目の実践科目の新設について審議し承認した。

ワ. 『博士後期課程「工学融合科目」実践メニュー』等ウェブサイトの更新について

留学生向けに、「工学融合科目」の履修方法、講演聴講例ならびに成績報告書の記述法に英訳を付記することとし、その文面を確認した。

カ. 平成 28 年度工学府学年暦について

平成 28 年度から学部もクォーター制を導入することを鑑み、学年暦について審議し承認した。

ヨ. 6 年一貫教育(グローバル・エンジニア養成コース)の上級語学科目

「英語で専門分野について理解を深める」ことを目的とし、6 年一貫教育GEコースの科目(上級語学)を工学英語科目で対応することにした。また、工学英語科目のシラバスの目的には、上記文言を加筆することとした。ただし、工学府のこの決定に対して、6 年一貫教育・クォーター制合同ワーキンググループから疑義が呈された。

(2) 学生関係

イ. 学位記の様式

B 課程の学生については修士論文を課さないことから、学位記の記載内容に修正について教育企画

室会議へ上程することとした。

- ロ. 日本学生支援機構奨学金 特に優れた業績による返還免除 新制度の利用について  
審議の結果、貸与者数が少ないため、採用時に決定した内定者分の推薦枠が貸与終了時に来るとは限らない、また、期課程（貸与終了時）での「特に優れた業績」により推薦者を決定したほうがよい等の意見により、工学府としては新制度を利用しない旨を全学学生委員会に報告した。

- ハ. 「日本学生支援機構大学院予約奨学生の選考方法について」  
博士前期課程第一種選考において、端数順位同率3位の2コースの合格者では、現奨学生数も同率であったため、入試成績により順位付けを行い、上位者を推薦することについて審議し承認された。なお、「大学院工学府博士前期課程1年次生の日本学生支援機構奨学生選考方法に関する申合せ」については今後見直し検討することとした。

## ニ. 就学体験生受入要項

学部への申請数の増加および受入対応に対して懸念があり、大学院の研究室での受入程度に抑えた方がよいのではとの意見があり、教育企画室会議に申し入れることとした。

## (3) 中期目標・中期計画

### イ. 第2期 年度計画・最終評価について

委員の交代による担当者の変更、年度計画の実施計画および最終評価の検討事項について確認を行い、あわせてエビデンスの収集を行った。

## 3. 残された課題、又は将来解決すべき事項

### (1) 改組への対応

博士前期課程1専攻化に伴う履修基準表、教育課程表等の改定

### (2) 教育改革の実施（第3期中期計画対応）

例えば、学生アンケート回収率の大幅な改善。

### (3) 6年一貫教育プログラムの検討・準備

上級語学、GCE 実践科目、海外派遣の実施方法等の検討、平成33年度までの数値目標（受講者数の割合を60%以上）の達成、平成30年度までのシラバスの英語化。

### (4) 日本学生支援機構大学院予約奨学生の選考方法について

大学院工学府博士前期課程1年次生の日本学生支援機構奨学生選考方法に関する申合せにおいて、端数ならびに現奨学生数が同率である場合が想定されていなかったことの問題の解消。

## 4. 委員会の議論に使われた資料

- (1) 教育企画室会議資料
- (2) 日本学生支援機構奨学金返還免除選考資料
- (3) 学務委員会資料等

## 5. 工学府の現状に関する意見または改善に関する提言

本年度からのクォーター制導入との業務命令を工学府は真摯に受け止め、科目の廃止、新設等の各専攻の努力により実施にこぎつけたところであるが、来年度から1週間2コマの実施との教育企画室会議の決定に対応するため、再び科目の廃止、新設等の工学府学修細則の改正を行った。これに伴い、現修士1年生の来年度の履修に関しては、不利益が出ないように十分な配慮が必要である。

## 6. 昨年度の改善に関する提言に対する、改善状況と未改善および新たな問題点

特になし

### 3. 2. 9 大学院工学府入学試験委員会

#### 1. 今年度取り組んだ課題

- (1) 副委員長、大学院入学試験専門部会委員、出願資格認定委員会委員の選出について
- (2) 平成28年度工学府入学試験日程について
- (3) 「推薦型」志願者への「一般型」受験案内の配布について
- (4) TOEFL-ITP試験の実施日程について
- (5) 他大学院入試日程動向調査について
- (6) 平成27年10月入学大学院工学府博士後期課程入学試験（外国人留学生特別選抜）面接免除候補者の選考
- (7) 博士前期課程一般選抜志願者への試験分野共通の受験案内について
- (8) 工学府第2回試験の実施時期の検討について
- (9) 大学院工学府博士前期課程入学試験（一般選抜推薦型）合格候補者の選考
- (10) 大学院工学府博士課程入学試験（外国人留学生特別選抜）合格候補者の選考
- (11) 大学院工学府博士課程国際共同教育学生選抜実施要項に基づく入学試験合格候補者の選考
- (12) 中期目標・中期計画について
- (13) 台風等非常変災時における大学院入試実施対応策について
- (14) 学生動向調査における収集データの項目について
- (15) 平成28年度大学院工学府博士前期課程一般選抜（第2回募集）の実施について
- (16) 平成28年度工学府入学試験（第2回）実施日程について
- (17) 平成29年度大学院入学試験日程について
- (18) 平成28年度大学院工学府博士前期課程一般選抜（第2回募集）の実施について
- (19) 平成29年度募集要項について
- (20) 平成28年度大学院工学府博士前期・後期課程入学試験の出願資格認定について
- (21) 大学院工学府社会人プログラムリーフレットについて
- (22) 平成27年度の年度計画最終評価について
- (23) 平成29年度大学院入学試験日程の一部変更について
- (24) 大学院工学府博士課程入学試験（外国人留学生特別選抜）合格候補者の選考
- (25) 大学院工学府博士課程国際共同教育学生選抜実施要項に基づく入学試験合格候補者の選考
- (26) 大学院工学府博士前期・後期課程入学試験合格候補者の選考について
- (27) 大学院工学府入学試験委員会内規の一部改正（案）について

#### 2. 今年度採択した事項

- (1) 「九州工業大学大学院工学府入学試験委員会内規」の一部改正について

平成28年度1月21日付け学長依頼「研究院長・研究科長による系長・学科長・専攻長や各委員長の決定方法見直し」により各委員長は複数年の任期で研究院長が指名することになったこと、及び教養教育院設置に伴い人間科学系委員が構成から外れることになったことから、委員会内規の一部改正を行った。

- (2) 就職・採用活動時期の後ろ倒しに伴う「他大学院入試日程」の動向調査について

就職・採用活動時期の後ろ倒しを受けて、夏の大学院入試日程を前倒したことに伴い、相当する他

大学院入試日程の動向調査を実施した。調査初年度であることから、工学系の国立大学のほか西日本の主な公立、私立大学についても調査を行った。

(3) 就職・採用活動時期の後ろ倒しに伴う「本学部生」の動向調査について

就職・採用活動時期の後ろ倒しを受けて、夏の大学院入試日程を前倒したことに伴い、学部生の動向調査を行うこととし、調査方法等を定め実施した。併せて、入学辞退理由についても遡って調査を実施し、今後の辞退者については辞退理由を記入させるよう様式を変更した。

(4) 博士前期課程一般選抜推薦型及び一般型の実施について

大学院入試日程の前倒しに伴い本年度から実施することになった博士前期課程一般選抜「推薦型」及び「一般型」試験について、「推薦型」志願者への第2志望受験の案内内容や配布方法の確認を行うなどして、円滑に実施できるよう取り組んだ。また、「一般型」試験が土日実施になったことから、台風等非常変災時の周知方法や対応策について意見交換を行い、翌年度大学院入試実施日程を審議する際、予備日も併せて決定することとした。これに基づき、平成29年度大学院入試実施日程は予備日を含めて取り決めた。

(5) 学生募集要項の作成について

募集要項の英文併記を段階的に進めてきたが、和文のみだった出願書類の英語版を作成したことにより、外国人志願者の対応がほぼ完了した。また、大学院系の院入試のWEBページの充実をはかり海外からの志願者に対しては願書もダウンロードして使用できるようにするなど、出願環境の改善を行った。

(6) 社会人プログラムリーフレットの作成について

2016年度版「社会人プログラムリーフレット」の作成を行った。⇒ 学則の入学資格において、当該大学院において審査等を要する条項の一部が申し合わせに反映されていないことに伴う文言修正及び委員の構成に係る見直しについて審議し、改正を行った。

### 3. 残された課題、又は将来解決すべき事項

(1) 博士前期課程一般選抜試験の動向調査

- ・ 就職・採用活動時期の変更に伴い、他大学院の動向調査については継続の有無及び調査範囲を含めた見直しの実施。
- ・ 学部生の動向調査については継続実施及びデータの分析。

(2) 平成30年度改組対応

- ・ WEBページでの改組予告の時期及び内容の検討。
- ・ 学生への周知方法。
- ・ 平成28年度秋頃までに、工学専攻及び新しい試験分野に係るアドミッションポリシーの策定、教員紹介（工学府の概要）、試験科目等の決定など。
- ・ 募集要項の大幅な見直し（特に博士前期課程一般選抜の募集定員の記載方法など）。
- ・ その他改組に係る事項の検討。

(3) 大学院入試におけるTOEICとTOEFLの換算方法の見直し

- ・ 必要に応じて、スコアの蓄積による換算表の見直し。

### 4. 委員会の議論に使用された資料

(1) 「中期目標・中期計画」

- (2) 平成28年度九州工業大学大学院工学府博士前期課程学生募集要項（案）
- (3) 平成28年度九州工業大学大学院工学府博士後期課程学生募集要項（案）
- (4) 他大学入試日程動向調査
- (5) 学生動向調査収集データ
- (6) 九州工業大学大学院工学府入学試験委員会内規

#### **5. 工学府の現状に関する意見または改善に関する提言**

入学定員数管理の厳格化と就職環境の変化に伴い、優秀な本学学生が他大学への転出数増大が懸念されている。志願者の動向を調査し、平成30年度以降の改組に合わせて、入試時期の再検討が必要であろうと考えられる。

#### **6. 昨年度の改善に関する提言に対する、改善状況と未改善及び新たな問題点**

平成28年度入試から推薦入試・第1回目の一般入試の入試方法・入試時期を大幅に変更しており、年間を通じて受験者の動向に注意をしてきた。平成29年度以降はより大きく学生の受験動向が変化する可能性があり、適切な対策を講じる必要がある。

### 3. 3 教員組織

#### 3. 3. 1 教員の配置

##### ① 大学院工学研究院

表3. 3. 1 大学院工学研究院教員現員一覧

(平成27年4月1日現在)

系	講座名	教授		准教授		講師		助教		合計	
		現員	氏名	現員	氏名	現員	氏名	現員	氏名	現員	技術職員等
機械知能工学研究系	機械工学部門	7	梅景 俊彦 坪井 伸幸 鶴田 隆治 野田 尚昭 水垣 善夫 宮崎 康次 森 直樹	5	河部 徹 吉川 浩一 黒島 義人 清水 浩貴 長山 暁子	0		3	谷川 洋文 田丸 雄摩 矢吹 智英	15	12
	宇宙工学部門	4	赤星 保浩 橘 武史 松田 健次 米本 浩一	1	平木 講儒	0		1	西川 宏志	6	
	知能制御工学部門	4	大屋 勝敬 金 亨燮 黒木 秀一 坂本 哲三	3	相良 慎一 タノ・ジュークイ 西田 健	0		2	新田 益大 松尾 一矢	9	5
	小計	15		9		0		6		30	47
建設社会工学研究系		9	秋山 壽一郎 幸左 賢二 佐久間 治 陳 沛山 永瀬 英生 廣岡 明彦 松田 一俊 山口 栄輝 吉武 哲信	7	穴井 謙 伊東 啓太郎 鬼束 幸樹 重枝 未玲 寺町 賢一 徳田 光弘 日比野 誠	0		1	合田 寛基	17	2
	小計	9		7		0		1		17	19
電気電子工学研究系	電気エネルギー部門	3	白土 竜一 匹田 政幸 三谷 康範	4	大塚 信也 小迫 雅裕 豊田 和弘 渡邊 政幸	0		1	今給黎 明大	8	7
	電子デバイス部門	3	和泉 亮 大村 一郎 松本 聡	1	松平 和之	0		3	佐竹 昭泰 鶴巻 浩 渡邊 晃彦	7	
	システムエレクトロニクス部門	5	池永 全志 桑原 伸夫 芹川 聖一 中藤 良久 水波 徹	6	生駒 哲一 市坪 信一 河野 英昭 張 力峰 中司 賢一 水町 光徳	0		3	野林 大起 山脇 彰 楊 世淵	14	
	小計	11		11		0		7		29	36

物質工学研究系	応用化学部門	7	横野 照尚 古曳 重美 清水 陽一 竹中 繁織 柘植 顕彦 中戸 晃之 山村 方人	7	荒木 孝司 植田 和茂 岡内 辰夫 北村 充 佐藤 しのぶ 坪田 敏樹 村上 直也	0		6	上村 直 下岡 弘和 高瀬 聡子 馬渡 佳秀 毛利 恵美子 森口 哲次	20	5
	材料開発部門	4	秋山 哲也 石丸 学 恵良 秀則 松本 要	5	高須 登実男 徳永 辰也 堀部 陽一 山口 富子 横山 賢一	0		3	伊藤 秀行 北村 貴典 堀出 朋哉	12	4
	小計	11		12		0		9		32	41
基礎科学研究系	数理科学部門	4	池田 敏春 酒井 浩 鈴木 智成 仙葉 隆	8	浅海 賢一 井上 創造 木村 広 野田 尚廣 花沢 明俊 藤田 敏治 三浦 元喜 若狭 徹	0		0		12	0
	量子物理学部門	4	鎌田 裕之 出口 博之 中尾 基 美藤 正樹	3	小田 勝 中村 和磨 渡辺 真仁	0		0		7	
	小計	8		11		0		0		19	19
先端機能システム工学研究系		5	奥山 圭一 小森 望充 鈴木 芳文 趙 孟佑 本田 崇	6	岩田 稔 大門 秀朗 坂井 伸朗 孫 勇 竹澤 昌晃 脇迫 仁	0		2	花澤 雄太 増井 博一	13	0
	小計	5		6		0		2		13	13
人間科学系		6	アプトゥハル恭子 鳥井 正史 虹林 慶 本田 逸夫 水井 万里子 ラックストン・イソ. c	8	大野 瀬津子 児玉 恵美 反町 裕司 中村 雅之 八丁 由比 東野 充成 李 郁蕙 ロンク・ロバート	1	前田 雅子	0		15	0
	小計	6		8		1		0		15	15
合計		65		64		1		25		155	190

② 大学院工学府

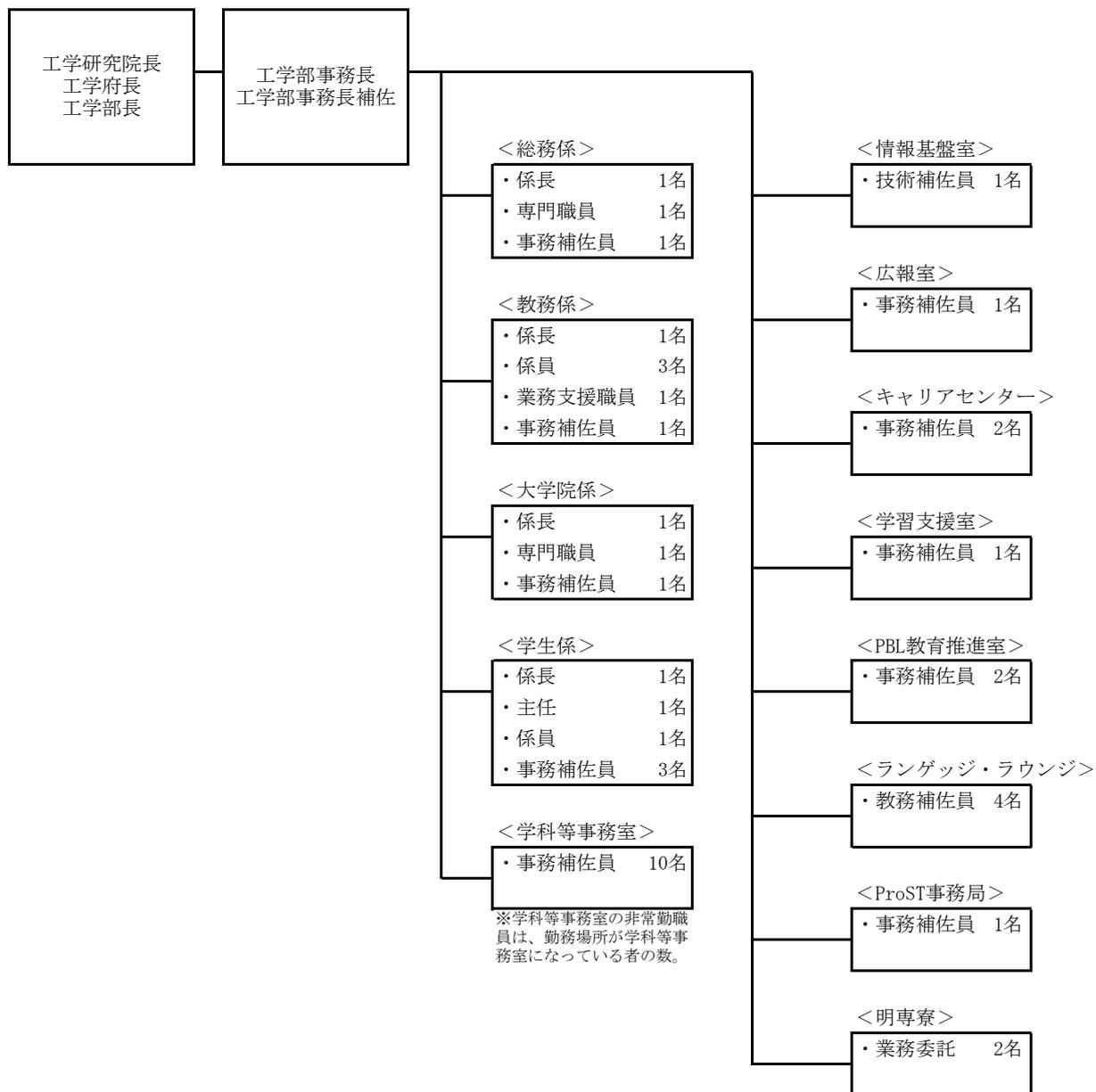
表 3. 3. 2 大学院工学府連携講座 (定員外)

(平成 27 年 4 月 1 日現在)

専攻名	教授		准教授		講師		助教		合計	
	現員	氏名	現員	氏名	現員	氏名	現員	氏名	現員	現員
先端機能システム工学専攻	1	山田 明	1	西 敏郎	0		0		2	0
合計	1		1		0		0		2	0

### 3. 4 事務組織

図3. 4. 1 事務組織図（平成27年4月1日現在）



#### 4 大学院工学研究院・工学府・工学部の財政

##### 4.1 運営費交付金配分状況

表4.1.1 運営費交付金配分額、学部運営費、教室配分額年次変化（単位：千円）

区分・年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
運営費交付金配分額	478,118	510,350	495,681	469,877	440,723
学部運営費	211,206	226,491	210,999	205,180	229,280
(うち光熱水費保留分)	(124,136)	(119,483)	(103,869)	(101,137)	(110,627)
各学科等配分額	266,912	283,859	284,682	264,697	211,443

(\*) 平成21年度より光熱水費の全額を部局で管理することとなったため、額が例年よりも大きくなっている。

表4.1.2 平成27年度費目別配分額（単位：千円）

費目	配分額	比率 (%)
研究経費	54,036	12.26%
教育経費	129,218	29.32%
業績等配分経費	22,287	5.06%
事項指定経費	5,902	1.34%
学部運営費	118,653	26.92%
光熱水費	110,627	25.10%
その他	0	0.00%
合計	440,723	100%

表4.1.3 過去5年間の学科等別積算校費配分額の推移（単位：千円）

年度・科目/系	機械知能工学 研究系	建設社会工学 研究系	電気電子工学 研究系	物質工学研究 系	基礎科学系	人間科学系	先端機能システム 工学研究系	その他	
平成23年度	研究経費	13,600	6,800	13,200	13,968	7,168	5,584	5,200	0
	教育経費	40,469	17,985	33,744	32,308	970	2,287	21,888	10
	業績等配分経費	3,766	1,604	5,374	5,144	1,545	917	2,449	0
	その他	1,072	0	281	346	0	0	4,330	236,109
平成24年度	研究経費	12,800	6,400	13,200	13,580	7,180	5,600	5,600	0
	教育経費	43,961	17,909	33,315	31,589	480	2,370	25,232	25
	業績等配分経費	6,930	3,258	8,013	8,814	2,456	1,627	2,459	0
	その他	1,368	0	0	355	0	0	4,435	251,394
平成25年度	研究経費	12,000	6,400	12,800	13,576	7,976	6,400	5,600	0
	教育経費	43,793	16,833	32,419	32,743	400	3,648	26,391	0
	業績等配分経費	6,712	3,116	6,990	8,670	2,605	1,544	2,671	0
	その他	1,080	0	622	355	0	0	4,435	235,902
平成26年度	研究経費	11,780	6,460	11,780	12,920	7,220	6,460	5,700	0
	教育経費	41,212	16,412	30,982	31,860	360	3,386	26,647	0
	業績等配分経費	6,908	3,287	6,726	7,604	2,890	1,895	2,627	0
	その他	943	0	1086	310	0	0	3,874	218,548
平成27年度	研究経費	10,260	5,814	10,260	11,286	6,840	4,446	5,130	0
	教育経費	34,290	14,317	27,764	28,641	0	1,560	22,646	0
	業績等配分経費	5,354	2,073	5,365	4,941	1,627	1,177	1,750	0
	その他	896	0	1032	294	0	0	3,680	229,280

#### 4 大学院工学研究院・工学府・工学部の財政

##### 4.2 科学研究費助成事業の採択状況

表4.2.1 科学研究費助成事業採択状況（単位：千円）

種目/年度	平成23年度		平成24年度		平成25年度		平成26年度		平成27年度	
	件数	金額								
特別推進研究	—	—	—	—	0	0	—	—	—	—
特定領域研究	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
特別研究促進費	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
新学術領域研究	—	—	2	3,200	2	6,700	2	6,800	0	0
基盤研究（S）	1	40,500	1	39,500	1	32,600	2	83,800	2	55,400
基盤研究（A）（海外）	1	4,600	0	0	0	0	0	0	0	0
基盤研究（A）（一般）	1	13,100	2	20,900	2	22,500	1	9,700	1	3,500
基盤研究（B）（一般）	8	29,000	9	35,100	7	35,600	8	29,400	13	66,000
基盤研究（C）（一般）	34	43,000	40	48,700	43	49,900	48	62,000	51	57,700
挑戦的萌芽研究	9	12,650	12	12,950	13	17,100	10	13,300	12	15,600
若手研究（A）	2	14,500	2	8,200	1	3,300	0	0	0	0
若手研究（B）	8	6,600	9	12,700	8	10,100	9	9,800	8	8,100
研究活動スタート支援	2	2,000	3	4,800	1	1,000	—	—	1	1,000
奨励研究	1	600	1	600	1	600	1	600	0	0
研究成果公開促進費	—	—	—	—	1	600	1	1,100	—	—
特別研究員奨励費	3	1,900	1	900	5	4,600	5	4,600	2	1,700
計	70	168,450	82	187,550	85	184,600	87	221,100	90	209,000

※金額は、直接経費のみ。（転出を含み、転入を除く）

表4.2.2 平成27年度科学研究費助成事業学科等別申請、採択状況（採択件数の上段は継続課題で内数）

事項/系	機械知能 工学研究 系	建設社会 工学研究 系	電気電子 工学研究 系	物質工学 研究系	基礎科学 研究系	先端機能 システム 工学研究 系	人間科学 研究系	工学部 技術部	合 計
申請件数	26	11	25	27	12	9	10	1	121
採択件数	13	4	8	16	10	4	2	0	57
	19	6	14	24	14	7	6	0	90

※申請件数・採択件数ともに、非常勤研究員を含む。  
また、申請・採択件数には、奨励研究費及び特別研究員奨励費を含まない。

#### 4. 3 外部資金導入状況

表4.3.1 寄附金受け入れ状況（奨学寄附金）（単位：千円）

学科等/年度	平成23年度		平成24年度		平成25年度		平成26年度		平成27年度	
	件数	金額								
機械知能工学研究系	17	13,007	17	13,328	11	6,340	18	12,290	12	7,710
建設社会工学研究系	17	10,673	14	7,325	15	21,480	18	20,360	19	9,394
電気電子工学研究系	16	15,923	17	8,210	16	10,590	15	11,390	10	5,390
物質工学研究系	27	23,021	20	14,880	19	19,587	17	12,280	19	15,820
基礎科学研究系	2	280	2	1,500	2	1,029	0	0	2	1,130
先端機能システム工学研究系	4	1,600	4	2,100	4	1,000	3	1,650	3	3,200
人間科学系	0	0	0	0	0	0	0	0	1	67
合計	83	64,504	74	47,343	67	60,026	71	57,970	66	42,711

表4.3.2 共同研究受け入れ状況（単位：千円）

学科等/年度	平成23年度		平成24年度		平成25年度		平成26年度		平成27年度	
	件数	金額								
機械知能工学研究系	23	33,691 (33,691)	21	22,002 (19,002)	21	18,084 (18,084)	20	29,964 (29,964)	20	27,461 (22,743)
建設社会工学研究系	8	11,418 (11,418)	9	8,395 (7,400)	7	10,645 (10,645)	14	16,536 (16,536)	13	18,165 (8,542)
電気電子工学研究系	36	61,958 (61,958)	37	42,446 (41,351)	34	34,536 (34,536)	32	67,558 (67,558)	36	138,021 (79,603)
物質工学研究系	36	35,268 (35,268)	34	41,290 (41,290)	25	37,552 (37,552)	32	49,876 (49,876)	29	35,948 (35,948)
基礎科学研究系	4	4,500 (4,500)	3	2,200 (2,200)	3	4,948 (4,948)	2	1,000 (1,000)	1	500 (500)
先端機能システム工学研究系	5	34,468 (34,468)	11	47,013 (46,017)	13	37,380 (37,380)	14	23,455 (23,455)	19	32,036 (16,980)
人間科学系	0		0		0		0		0	0 (0)
合計	112	181,303 (181,303)	115	163,346 (157,260)	103	143,145 (143,145)	114	188,389 (188,389)	118	252,131 (164,316)

※下段の（ ）数字は民間負担分の歳入金額で内数。

※複数年契約を含む。

表4.3.3 受託研究受け入れ状況（単位：千円）

学科等/年度	平成23年度		平成24年度		平成25年度		平成26年度		平成27年度	
	件数	金額								
機械知能工学研究系	7	14,370	9	12,961	10	27,902	15	135,949	14	114,918
建設社会工学研究系	7	10,956	6	19,888	7	35,931	5	21,030	3	31,147
電気電子工学研究系	20	31,547	21	33,727	22	38,199	29	68,827	19	67,113
物質工学研究系	24	192,184	22	130,101	18	94,334	22	83,539	16	82,592
基礎科学研究系	1	1,800	1	1,150	3	9,041	3	10,840	2	5,791
先端機能システム工学研究系	9	56,982	6	5,361	5	12,181	2	18,040	2	20,524
人間科学系	0		1	0	1	150	0	0	0	0
合計	68	307,839	66	203,188	66	217,738	76	338,225	56	322,085

※複数年契約を含む。

※注意事項

- ・ 束ね契約もありますが、申請を1件としています。
- ・ 知的クラスターは1テーマを1件とし、代表者の所属で分けています。
- ・ 受託事業は含まれていません。

表4.3.4 寄附講座受け入れ状況（単位：千円）

名称	所属学科	寄附者	年度別受け入れ金額					教員組織
			平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	
電力系統制御工学	電気電子工学科	九州電力(株)	30,000	25,000	18,000	18,000	0	平成24年度 寄附講座教員 1名

#### 4. 3. 5 寄附金の利息

大学院工学研究院・工学府・工学部では、寄附金の利息を共通経費として運用している。  
表4. 3. 5に平成27年度の使用内訳を示す。

表4. 3. 5 平成27年度寄附金共通経費使用報告

(単位:円)

受入額		使用額	
事項	金額	事項	金額
前年度繰越	5,725,632	今年度使用なし	
		次年度繰越	5,725,632
計	5,725,632	計	5,725,632

## 5 大学院工学研究院・工学府・工学部と社会のつながり

### 5.1 地域貢献活動

#### 5.1.1 大学公開

大学公開事業の一環として実施している高校生のためのオープンキャンパス（学内見学会）の実施状況を表5.1.1に示す。

年度	参加者数（名）	
	大学全体	学部別
平成23年度	3,012	(工) 1,807
		(情) 1,205
平成24年度	3,005	(工) 1,989
		(情) 1,016
平成25年度	3,426	(工) 2,140
		(情) 1,286
平成26年度	2,782	(工) 1,396
		(情) 1,386
平成27年度	4,566	(工) 2,940
		(情) 1,626

(工学部は台風接近に伴い2日目を中止)

5. 1. 2 公開講座等

表5.1.2 公開講座等実施状況

(単位：名)

年度	講座名	対象	参加者数
平成23年度	第47回ジュニア・サイエンス・スクール「JSS in 環境ミュージアム」	小学生～一般の方	ブース出展
	缶サット甲子園2012 九州大会	高校生	
	福岡県高校化学部会研修会	高校教員	
	平成23年度「先端科学技術体験合宿」「超伝導体の電気磁気特性～電気抵抗ゼロの世界～」 「ものづくりの道具 金型の構造と作り方を学ぶ」 「多面体と折り紙と数学と」 「マイコンでオリジナルプログラムを組んでみよう！」		
	第48回ジュニア・サイエンス・スクール「見て、触れて楽しもう！北九州工学体験工房」	小学生（5年生以上），中学生（保護者は、見学のみ）	32
	読売新聞企画 社会見学受入れ「液体窒素の実験」	小学生	30
	第49回ジュニア・サイエンス・スクール「天体観測」	一般（中学生以下は保護者同伴）	71
	SAFnet世界一行きたい科学広場IN北九州2011「冷却バックを作ろう」		
	戸畑図書館 夏休み特別企画「科学であそぼう」	小学生	60
	第50回ジュニア・サイエンス・スクール「科学実験と楽しい工作」	小学生	49
	アインシュタイン展LOVE特別展 科学実験教室「ドップラー効果から宇宙を知る」「アインシュタインのノーベル賞理論を体験しよう～光電効果の実験～」	小学4年生以上	
	北九州市児童文化科学館「わくわくサイエンスキッズ」への協力「『えきじょうか』ってな～に」	一般	ブース出展
	第51回ジュニア・サイエンス・スクール「正六角形で作るふしぎな立体」	小学生以上（一般の方の参加も歓迎します）	75
	フクオカサイエンスマンス2011「折り紙ユニットで立体を作ってみよう」		ブース出展
	第52回ジュニア・サイエンス・スクール「コロコロ装置作りに挑戦！」	小学校 4 年生以上	30
	JICA青年研修受入れ	大洋州8ヶ国研修生	21
	第53回ジュニア・サイエンス・スクール「簡単な電子工作～オルゴールを作ろう～」	小学校 5 年生以上	20
	ユニセックワークショップ		
	第54回ジュニア・サイエンス・スクール「DNAをつくろう」	小学校 4 年生以上	40
第55回ジュニア・サイエンス・スクール「折り紙ユニットで作るふしぎな立体（初級）」	小学生以上（一般の方の参加も歓迎します）	63	
理数教育研究セミナー2012「竜巻ってなあに？」	一般	28	
平成24年度	「日食・金星太陽面通過 観察説明会」	指導者（小中高等学校の先生、市民福祉センター、公共施設の担当者）	30

	第56回ジュニア・サイエンス・スクール「正多角形をたたんで作る不思議な模様」	小学生～一般の方	72
	缶サット甲子園2012九州大会	高校生	
	サイエンスフェア&サイエンスコンテストfor 高校生	高校生	
	第57回ジュニア・サイエンス・スクール「見て、触れて楽しもう！北九州工学体験工房」	小学生（5年生以上），中学生	32
	サマーサイエンスフェスタin北九州2012	一般とSSH指定校の高校生	2000
	福岡県教育委員会主催先端科学技術体験合宿	中学生	44
	福岡県教育センター主催キャリアアップ講座	高校教員	15
	読売新聞企画 社会見学受入れ	小学生	30
	SAFnet世界一行きたい科学広場IN北九州2012	一般	ブース出展
	北九州市立戸畑図書館 夏休み特別企画「科学であそぼう」	小学生	
	第58回ジュニア・サイエンス・スクール「ロボット学習と顕微鏡作り」	小学4～6年生	16
	北九州市立児童文化科学館「わくわくサイエンスキッズ」	一般	ブース出展
	第59回ジュニア・サイエンス・スクール「電子回路ものづくり体験」	小学5年生～中学生	19
	第60回ジュニア・サイエンス・スクール「DNAを調べよう」	小学生4年生～中学生	23
	第61回ジュニア・サイエンス・スクール「宇宙ってどんなところ？」	小学校4年生以上～中学生まで	28
	福岡県高等学校北九州筑豊地区化学部会研修会	高校教員	10
	第62回ジュニア・サイエンス・スクール「コロコロ装置を作ろう」	小学校4年生以上～高校生まで	40
	第63回ジュニア・サイエンス・スクール「折り紙ユニットで作る不思議な立体（中級）」	小学校4年生以上～一般の方	62
平成25年度	第64回ジュニア・サイエンス・スクール「折り紙ユニットでつくる不思議な立体（初級）」	小学生～一般の方	47
	第65回ジュニア・サイエンス・スクール「JSSin環境ミュージアム」	小学生～一般の方	約250
	第66回ジュニア・サイエンス・スクール「顕微鏡で植物のからだを調べてみよう」	小学生	69
	第67回ジュニア・サイエンス・スクール「見て触れて楽しもう！北九州工学体験工房」	小学生（5年生以上），中学生	34
	第68回ジュニア・サイエンス・スクール「宇宙ってどんなところ？2」	小学4年生～中学生	20
	第69回ジュニア・サイエンス・スクール「コロコロ装置をつくろう！」	小学4年生～高校生	29
	第70回ジュニア・サイエンス・スクール「オリジナルクリスマスリースを作ろう」	小学生	15
	第71回ジュニア・サイエンス・スクール「三角形の内角の和は本当に180度なのかな？」（飯塚キャンパスにて開催）	小学5年生～中学生	19

	第72回ジュニア・サイエンス・スクール「正多角形を切って作るふしぎな模様」	小学生～一般の方	52
	特別編ジュニア・サイエンス・スクール「生ごみがおいしい野菜にへんしん?～土のちからをまなぶ～」	あやめが丘学童クラブの児童・先生	113
	理教教育支援センター セミナー2013	一般	79
	秋田県立大学 平成25年度夏休み科学教室 にブース出展「折り紙ユニットで作るふしぎな立体」	小学3年生～中学3年生	約30
	読売新聞企画 社会見学受入れ「宇宙ってどんなところ?」	小学生	30
	世界一行きたい科学広場 IN 北九州 2013 にブース出展「光の絵画を作ろう!」	一般	
	北九州市立戸畑図書館 夏休み特別企画「科学であそぼう!!宇宙の寒さを体験しよう!」	小学生	60
	北九州市環境ミュージアム 科学教室「光で遊ぼう!」	小学生以上	
	一般社団法人 電子情報通信学会 子供の科学教室「ものづくり体験 ～センサーを用いた電子工作教室～」	小学5.6年生	15
	北九州市立児童文化科学館 わくわくサイエンスキッズ にブース出展「光の絵画を作ろう!」	一般	
	北九州市エアターミナル株式会社共催「Mobile Space Laboratory ～いつでも どこでも プラネタリウム～」	一般	196
	オットモ★プラネタリウム	一般	60
	「若田光一宇宙飛行士とのリアルタイム交信 ～宇宙につなぐれ!きみの夢～」サブ会場	一般	141
	イノベーションフォーラム2013 連携イベント「Mobile Space Laboratory ～いつでも どこでも プラネタリウム～」	一般	
	サマーサイエンスフェスタin北九州2013	一般とSSH指定校の高校生	2150
	IKEA神戸でプラネタリウムを楽しもう!	一般	150
	福岡県教育委員会主催先端科学技術体験合宿 講座3「色と色素について調べてみよう」 講座4「センサや電子回路でものづくりを体験しよう」	中学生	20
	福岡県高等学校北九州筑豊地区化学部会研修会	高校教員	11
平成26年度	第73回ジュニア・サイエンス・スクール「JSSin環境ミュージアム」	小学生～一般	90
	第74回ジュニア・サイエンス・スクール「DNAを調べよう!」	小学4年生～中学生	40
	第75回ジュニア・サイエンス・スクール「折り紙ユニットで作るふしぎな立体(中級)」	小学4年生～一般	60
	第76回ジュニア・サイエンス・スクール「見て触れて楽しもう!北九州工学体験工房」	小学5年生～中学生	46
	第77回ジュニア・サイエンス・スクール「宇宙ってどれくらい寒い?」	小学4年生～中学生	23
	第78回ジュニア・サイエンス・スクール「微生物の力で生ごみを土に変えよう」	小学4年生～中学生とその保護者	15
	第79回ジュニア・サイエンス・スクール「コロコロ装置を作ろう!」	小学4年生～高校生	35
	第80回ジュニア・サイエンス・スクール「折り紙ユニットでつくるふしぎな立体(初級)」	小学生～一般	39

	第81回ジュニア・サイエンス・スクール「凧作り体験」	小学生	11
	JR九州 イベント『アミュ庭』	一般	のべ237
	世界一行きたい科学広場in北九州2014	一般	約100
	北九州市エアターミナル株式会社共催「Mobile Space Laboratory ～いつでも どこでも プラネタリウム～」	一般	のべ90
	わくわくサイエンスキッズ 「折り紙ユニットで立体を作ってみよう」	一般	70
	アンビシャス体験フェスティバル 「超小型衛星「鳳龍4号の模型」を作ろう！」	一般	80
	KITAKYUSHU MONOCAFE 2014「Mobile Space Laboratory ～いつでも どこでも プラネタリウム～」	一般	195
	九州コドモ工業大学「Mobile Space Laboratory ～いつでも どこでも プラネタリウム～」	一般	127
	サマーサイエンスフェスタ in 北九州 2014	一般とSSH指定校の高校生	2,268
	福岡県高等学校化学部会研修会	高校教員	39
平成27年度	第82回ジュニア・サイエンス・スクール「JSS in 環境ミュージアム」	小学生～一般	約48
	第83回ジュニア・サイエンス・スクール「糸でえがく星型模様」	小学4年生～中学生	9
	第84回ジュニア・サイエンス・スクール「DNAを調べよう！」	小学4年生～中学生	22
	第85回ジュニア・サイエンス・スクール「見て触れて楽しもう！北九州工学体験工房」	小学5年生～中学生	33
	第86回ジュニア・サイエンス・スクール「ペットボトルロケットを作ってみよう！飛ばしてみよう！」	小学4年生～中学生	14
	第87回「微生物の力で生ごみを土に変えよう」	小学4年生～中学生	28
	第88回ジュニア・サイエンス・スクール「コロコロ装置をつくろう！」	小学4年生～高校生	29
	第89回ジュニア・サイエンス・スクール「折り紙ユニットで作るふしぎな立体（中級）」	小学4年生～一般	26
	JR九州 イベント『JR博多シティ学校』	一般	160
	北九州エアターミナル株式会社共催「Mobile-Space-Laboratory～いつでも どこでも プラネタリウム～」	一般	のべ182
	世界一行きたい科学広場 IN 北九州 2015 にブース出展	一般	4,128 (イベント全体)
	公益財団法人・国際科学技術財団主催「第260回 やさしい科学技術セミナー」	一般	22
	KIGSイノベーションフォーラム「ロボット時代の創造」	一般	586
	立体折紙教室「正多面体の世界3～折り紙ユニットで立体を作ってみよう～」	一般	17
	サマーサイエンスフェスタ in 北九州 2015	一般とSSH指定校の高校生	725
	福岡県高等学校化学部会研修会	高校教員	51

### 5. 1. 3 北九州市民カレッジへの協力

本学は、福岡・北九州地域リカレント教育推進協議会主催のリカレント教育の実施大学の一つになっていたが、その後継事業として、平成17年度から北九州市民カレッジが始まった。これらの事業にこの5年間に協力したセミナーの実施状況を表5. 1. 3に示す。

表5.1.3 北九州市民カレッジ（リカレント教育）協力セミナー実施状況（単位：名）

年 度	セミナー名	参加者数	備 考
平成23年度	学校ではぜったい教わらない北九州のマチモノガタリ	21	市民カレッジ
平成24年度	人類文明を切り拓く材料開発の過去・現在・未来	10	市民カレッジ
平成25年度	未来を切り拓く先端機能システム	10	市民カレッジ
平成26年度	未来を切り開く電気電子工学	13	市民カレッジ
平成27年度	計測制御技術の最前線	9	市民カレッジ

### 5. 1. 4 出前講義

表5.1.4 出前講義

近年、社会的問題となっている、いわゆる青少年の「科学離れ」「理工系離れ」対策の一環として、小・中・高等学校の生徒を対象に本学の教官が小・中・高等学校に出向き、理工系分野の学問の最前線の話題や魅力等について分かり易く講義をする。

年度	講義名	実施件数	対象者
平成23年度	もてる男の顔認証ーバイオセキュリティの世界ー	10	小学・中学・高校生
	情報工学のもたらす新世界探訪ー情報工学の可能性は∞ー	5	高校生
	テレビはなぜ見える！ーテレビの基本原理と電波のふしぎー	5	中学・高校生・その他
	世界最速のオーディオICー20年目の夢ー	2	高校生
	見えないことと、その支援方法	2	高校生
	環境にやさしいプラスチックで作る自在に曲がる電子デバイスーポリマーで拓く未来の情報機器とロボットー	2	高校生
	データを科学する：判断や認識に潜む危うさを見抜くー血液型で性格判断できるってホント？認識って実は何？ー	2	高校生
	人間の見るしぐみをしらべてロボットの見るしぐみをつくってますー脳の視覚のしぐみをコンピューターで実現ー	5	高校生・その他
	迷路とマイクロマウスー人工知能ってなにー	1	高校生
	機械情報工学って何？ー身近な機械情報工学, 医療・ロボット開発で活躍する情報工学技術ー	4	高校生
	世界初！蝶ロボットの開発ー何故、蝶は飛ぶことができるのか？ー	1	高校生
	ロボットから学ぶ人間の不思議ー人の感覚を探るー	3	高校生
	生物の動きを真似たマイクロマシンと磁場ー先端医療デバイスからアミューズメントロボットまでー	6	高校生
	ニューラルネットのロボットへの応用ー脳をまねてロボットを動かすはなしー	2	高校生
	超精密の世界ー身の回りの超精密ー	5	中学・高校生
	「鉄&鉄子」の楽しみー身近な電車の中の先端技術ー	2	高校生
	ミクロの機械の不思議ーマイクロマシン(微小な機械)ー	2	高校生
	携帯電話もゲームもパソコンも自動車も集積回路(IC)がぎっしりーICってなに？半導体ってなに？ー	5	中学・高校生
	日本刀に学ぶマテリアル工学	2	高校生
	自動車の出来るまでーものづくりの現場を見てみようー	8	高校生
	シャボン玉から知る複合材料の科学	4	高校生
	最先端のハイテクを支える錯塩の科学に触れよう！ー制がん剤から新幹線までー	2	中学・高校生
	超伝導体による浮上実験ー超伝導体と磁石はどう違うか？ー	7	小学・中学・高校生
電気のいろいろな作り方ー身近なもので電気をつくろうー	3	小学生・その他	
お日様パワーは地球を救う！ー電気から学ぶ資源とエネルギーー	1	高校生	

	地球温暖化問題と自然エネルギーー風力発電を含めてー	5	小学・中学・高校生
	見えない“流れ”を視る！ー何故、ボールは変化する？何故、昆虫は飛ぶことができる？ー	2	高校生
	エコボ・ワークショップ！植木鉢から学ぶ身近な自然と日本の文化ー自分でデザインした植木鉢をつくって植物を育てようー	3	小学生・その他
	地盤災害はどうして起こる？	5	小学・高校生
	生ゴミからプラスチックと肥料をつくるーリサイクルを考えようー	1	中学生
	生命が創るナノ構造を覗きみようーコンピュータを使った新しい自然観察法ー	2	高校生
	DNAと遺伝子ーやさしい遺伝のお話ー	1	高校生
	3Dデザインで健康を科学しますーメタボ、がん、肌、毛髪までー	2	高校生
	医薬品の安全で効果的な体内取り込み技術ー生物に学ぶドラッグデリバリーシステムー	3	高校生
	総合的学問「建築」への招待	1	高校生
	生命の起源と進化を考えるー卵が先か、ニワトリが先かー	2	中学・高校生
	光や電磁波を使っている最新技術をみてみようー電子線、蛍光、ミリ波、マイクロ波、ラジオ波って何だろうー	1	高校生
	正多面体のはなしー折り紙でいろいろな立体をつくろうー	1	高校生
	「アポロ13」はただの冒険映画じゃないー技術者ってカッコいい！ー	1	高校生
	「紅の豚」はただのアニメじゃないー技術者っていいもんだ！ー	3	中学・高校生
	工学部ってどんなところ？	3	高校生
	大学ってどんなところ？ー当世大学・学生事情ー	1	高校生
	理系（技術系）人材養成のためのプロジェクト学習についてー企業で求められる人材とは？ー	3	高校生
平成24年度	もてる男の顔認証ーバイオセキュリティの世界ー	10	小学・中学・高校・高専・予備校
	情報工学のもたらす新世界探訪ー情報工学の可能性は∞ー	6	小学・中学・高校・高専・予備校
	技術者ってカッコよくって、わるくない！ーアニメや映画にみる技術者の姿ー	7	小学・中学・高校・高専・予備校
	テレビはなぜ見える！ーテレビの基本原理と電波のふしぎー	4	小学・中学・高校・予備校・一般
	切っても切れない情報社会ースマートフォンから予防医療までー	2	中学・高校・高専・予備校
	見えないことと、その支援方法	2	中学・高校・高専・予備校
	データを科学する：判断や認識に潜む危うさを見抜くー血液型で性格判断できるってホント？認識って実は何？ー	1	高校・高専・予備校
	人間の見るしぐみをしらべてロボットの見るしぐみをつくってますー脳の視覚のしぐみをコンピューターで実現ー	7	小学・中学・高校・高専・予備校
	迷路とマイクロマウスー人工知能ってなにー	2	小学・中学・高校
	機械情報工学って何？ー身近な機械情報工学、医療・ロボット開発で活躍する情報工学技術ー	6	高校・高専・予備校
	世界初！蝶ロボットの開発ー何故、蝶は飛ぶことができるのか？ー	4	高校・高専

見えない“流れ”を視る！－何故、ボールは変化する？何故、昆虫は飛ぶことができる？－	3	高校・高専
ロボットから学ぶ人間の不思議－人の感覚を探る－	3	中学・高校・高専
生物の動きを真似たマイクロマシンと磁場－先端医療デバイスからアミューズメントロボットまで－	3	高校・高専
人のためのロボット	1	高校・高専
ニューラルネットのロボットへの応用－脳をまねてロボットを動かすはなし－	1	高校
超精密の不思議－身の回りの超精密－	2	小学・中学・高校・高専
携帯電話もゲームもパソコンも自動車も集積回路（IC）がぎっしり－ICってなに？半導体ってなに？－	3	中学・高校・高専・予備校
自動車の出来るまで－ものづくりの現場を見てみよう－	5	高校・高専・予備校
シャボン玉から知る複合材料の科学	1	高校
最先端のハイテクを支える錯塩の科学に触れよう！－制がん剤から新幹線まで－	2	中学・高校・高専・予備校
世界最強！日本磁石研究最前線－世界を変えた強力磁石。レアメタル問題を救えるか？－	4	中学・高校・高専・予備校
不思議な金属－金属から学ぶ材料のいろいろ－	2	高校・保護者
超伝導体による浮上実験－超伝導体と磁石はどう違うか？－	10	小学・中学・高校・高専・予備校
電気のいろいろな作り方－身近なもので電気をつくろう－	3	小学
お日様パワーは地球を救う！－電気から学ぶ資源とエネルギー－	3	高校・高専
共に考えよう、地球温暖化とエネルギーのこと－自然エネルギーの利用の話を中心に－	2	小学・中学・高校・予備校
エコポ・ワークショップ！植木鉢から学ぶ身近な自然と日本の文化－自分でデザインした植木鉢をつくって植物を育てよう－	2	小学・中学・高校・高専・予備校
地盤災害はどうして起こる？	2	小学・中学・高校
総合的学問「建築」への招待	3	高校
生ゴミからプラスチックと肥料をつくる－リサイクルを考えよう－	1	小学・中学
生ゴミからプラスチックと肥料をつくる－びせいぶつの不思議な世界－	1	小学
パンデミックシミュレーション－新型インフルエンザや口蹄疫流行の予測－	1	中学・高校・高専
生物の創り出すナノ世界を覗き見る－生物を理解するための情報工学と物理－	1	小学・中学・高校・高専・予備校
医薬品の安全で効果的な体内取り込み技術－生物に学ぶドラッグデリバリーシステム－	1	高校・高専・予備校
3Dデザインで体の健康を科学します－血管、がん、肌、毛髪、歯骨まで－	3	中学・高校・高専・予備校
驚きのマイクロ波化学－電子レンジでグリーンイノベーション－	2	小学・中学・高校・高専・予備校
科学を装ったニセモノの世界－ニセ科学にだまされるな！－	2	中学・高校・高専・予備校予備校
生命の起源と進化を考える－卵が先か、ニワトリが先か－	2	中学・高校・高専・予備校
宇宙とは何か？時間とは何か？人間とは何か？	1	高校・高専・予備校

	相対性理論と4次元時空間ーアインシュタインが目指したものー	1	高校・高専・予備校
	数学と物理のコラボが導く新しい理系眼ー数学を通して見た高校と大学の接続ー	1	高校・高専・予備校
	管楽器はどうして鳴るかーなぜ音は出るの？ー	1	中学・高校・高専・予備校
	工学部ってどんなところ？	3	高校・予備校
	理系（技術系）人材養成のためのプロジェクト学習についてー企業で求められる人材とは？ー	2	中学・高校・高専・予備校
平成25年度	もてる男の顔認証ーバイオセキュリティの世界ー	9	小学・中学・高校・高専・予備校
	自分で作るフライトシミュレーターー運動方程式に従って飛行機を操縦しようー	2	高校・高専・予備校
	情報工学のもたらす新世界探訪ー情報工学の可能性は∞ー	4	小学・中学・高校・高専・予備校
	技術者ってカッコよくて、わるくない！ ーアニメや映画にみる技術者の姿ー	11	小学・中学・高校・高専・予備校
	切っても切れない情報社会ースマートフォンから予防医療までー	1	中学・高校・高専・予備校・一般
	自分がやりたいことをみつけるための方法ーラベル思考法を体験してみようー	1	中学・高校・高専・予備校
	データを科学する：判断や認識に潜む危うさを見抜く ー血液型で性格判断できるってホント？認識って実は何？ー	2	中学・高校・高専・予備校
	人間の見るしぐまをしらべてロボットの見るしぐまをつくってます ー脳の視覚のしぐまをコンピューターで実現ー	9	小学・中学・高校・高専・予備校
	迷路とマイクロマウスー人工知能ってなにー	1	小学・中学・高校
	機械情報工学って何？ ー身近な機械情報工学、医療・ロボット開発で活躍する情報工学技術ー	7	高校・高専・予備校
	ロボットから学ぶ人間の不思議ー人の感覚を探るー	2	中学・高校・高専
	ロボットとプログラミング	2	中学・高校・高専・予備校
	生物の動きを真似たマイクロマシンと磁場 ー先端医療デバイスからアミューズメントロボットまでー	6	高校・高専
	人のためのロボット	2	高校・高専
	ニューラルネットのロボットへの応用ー脳をまねてロボットを動かすはなしー	1	高校
	未来に挑戦 超精密加工技術ー電子機器、グリーンデバイス、医療への適用ー	2	小学・中学・高校・高専・予備校
	携帯電話もゲームもパソコンも自動車も集積回路（IC）がぎっしり ーICってなに？半導体ってなに？ー	4	中学・高校・高専・予備校
	自動車の出来るまでーものづくりの現場を見てみようー	4	高校・高専・予備校
	金属の強さとやわらかさ	1	高校
	金属の不思議な性質についてー形状記憶現象の観察ー	2	高校
	医療に役立つ材料ーバイオマテリアルー	3	高校
	最先端のハイテクを支える錯塩の科学に触れよう！ー制がん剤から新幹線までー	1	中学・高校・高専・予備校
	スマートな先端材料ー医療からボーイング787までー	3	高校
	世界最強！日本磁石研究最前線 ー世界を変えた強力磁石。レアメタル問題を救えるか？ー	4	中学・高校・高専・予備校
	超伝導体による浮上実験ー超伝導体と磁石はどう違うか？ー	7	小学・中学・高校・高専・予備校
	電気のいろいろな作り方ー身近なもので電気をつくろうー	3	小学

	共に学ぼう、地球温暖化とエネルギーのことー自然エネルギーの利用の話を中心にー	2	小学・中学・高校・予備校
	エネルギーを操る革新的なマテリアルたちー太陽電池、超伝導、革新的エネルギー・マテリアルー	1	中学・高校・高専・予備校
	マテリアルの資源とリサイクルー持続型循環社会をめざしてー	1	高校・予備校
	エコポ・ワークショップ！植木鉢から学ぶ身近な自然と日本の文化ー自分でデザインした植木鉢をつくって植物を育てようー	2	小学・中学・高校・高専・予備校
	魚のすみやすい川づくり	1	中学・高校
	地盤災害はどうして起こる？	1	小学・中学・高校
	長〜い橋が風で揺れる！？ー揺れを小さくする技術とは？ー	2	中学・高校・高専・予備校
	総合的学問「建築」への招待	1	高校
	生物の創り出すナノ世界を覗き見るー生物を理解するための情報工学と物理ー	1	小学・中学・高校・高専・予備校
	体の健康を観察と計算予測で魅せます。ー血管、がん、肌、毛髪、歯骨、肝臓までー	2	高校・高専・予備校
	私たちの生活に欠かせない遺伝子の利用-遺伝子組み換え作物とiPS細胞	2	小学・中学・高校・高専・予備校・一般
	科学を装ったニセモノの世界ーニセ科学にだまされるな！ー	1	中学・高校・高専・予備校・一般
	生命の起源と進化を考えるー卵が先か、ニワトリが先かー	1	中学・高校・高専・予備校・一般
	材料の元になる元素はどこからやってきたの？ 宇宙・星の一生から地球へー元素の旅ー	2	中学・高校・高専・予備校
	宇宙とは何か？時間とは何か？人間とは何か？	1	高校・高専・予備校
	クイズでわかる現代物理の不思議な世界 -時間とは？光とは？物質とは？原発は？宇宙は？-	1	高校・高専・予備校
	正多面体のはなしー折り紙でいろいろな立体をつくろうー	2	小学・中学・高校・高専・予備校
	公式暗記に振り回されず、いつも「なぜ」という疑問をもつ習慣をもてば、数学は必ず易しくて面白い得意な科目に化ける	3	中学・高校・高専・予備校
	管楽器はどうして鳴るかーなぜ音は出るの？ー	1	中学・高校・高専・予備校
	工学部ってどんなところ？	4	高校・予備校
	理系（技術系）人材養成のためのプロジェクト学習についてー企業で求められる人材とは？ー	1	中学・高校・高専・予備校
平成26年度	もてる男の顔認証ーバイオセキュリティの世界ー	13	小学・中学・高校・高専・予備校
	情報工学のもたらす新世界探訪ー情報工学部の可能性は∞ー	15	小学・中学・高校・高専・予備校
	技術者ってかっこよくって、わるくないーアニメや映画にみる技術者の姿ー	10	小学・中学・高校・高専・予備校
	話せないことと、その支援方法	1	小学・中学・高校・高専・予備校
	どうして、いろいろ感じたり、動いたり出来るの？ ー感覚・行動と脳の関係ー	1	高校・高専
	データを科学する：判断や認識に潜む危うさを見抜く ー血液型で性格判断できるってホント？認識って実は何？ー	1	中学・高校・高専・予備校
	人間の見るしきみをしらべてロボットの見るしきみをつくってますー脳の視覚のしきみをコンピューターで実現ー	5	小学・中学・高校・高専・予備校
	機械情報工学って何？ ー身近な機械情報工学、医療・ロボット開発で活躍する情報工学技術ー	1	中学・高校・高専・予備校
	「鉄&鉄子」の楽しみー身近な電車の中の先端技術ー	1	高校・高専
	蝶の飛翔メカニズムと世界初！蝶ロボットの開発 ー蝶が作る不思議な渦！何故、蝶は飛ぶことができるのか？ー	3	高校・高専・予備校

見えない“流れ”を視る！ －何故、ボールは変化する？何故、昆虫は飛ぶことができる？－	3	高校・高専・予備校
ロボットから学ぶ人間の不思議 －人の感覚を探る－	3	中学・高校・高専
人型レスキューロボットコンテストとプロジェクト型学習	2	中学・高校・高専・予備校
生物の動きを真似たマイクロマシンと磁場 －先端医療デバイスからアミューズメントロボットまで－	3	高校・高専
人のためのロボット	3	高校・高専
ニューラルネットのロボットへの応用 －脳をまねてロボットを動かすはなし－	1	高校
未来に挑戦 マイクロ加工技術 －電子機器、グリーンデバイス、医療への適用－	4	小学・中学・高校・高専・予備校
携帯電話もゲームもパソコンも自動車も集積回路（IC）がぎっしり －ICってなに？半導体ってなに？－	1	中学・高校・高専・予備校
自動車の出来るまで －ものづくりの現場を見てみよう－	11	高校・高専・予備校
日本刀に学ぶマテリアル工学	1	小学・中学・高校・予備校
医療に役立つ材料～バイオマテリアル～	2	高校・高専
身のまわりで活躍する先端材料 －医療からボーイング787まで－	2	高校・高専
高性能なものづくりを支える新材料 －サイエンスとエンジニアリング－	1	高校・予備校
電子で見る原子の世界 －電子顕微鏡による材料の診断－	1	中学・高校・高専・予備校
材料の内部をのぞいてみよう －ナノやミクロの世界でみるマテリアル－	1	高校・高専・予備校
世界最強！日本磁石研究最前線 －世界を変えた強力磁石。レアメタル危機を救え！－	3	中学・高校・高専・予備校
超伝導体による浮上実験－超伝導体と磁石はどう違うか？－	19	小学・中学・高校・高専・予備校
電気のいろいろな作り方－身近なもので電気をつくらう－	3	小学生
再生可能エネルギー利用の今とこれから －地球環境の視点から－	4	小学・中学・高校・予備校
エネルギーを操る革新的なマテリアルたち －太陽電池，超伝導，革新的エネルギー・マテリアル－	1	中学・高校・高専・予備校
マテリアルの資源とリサイクル －持続型循環社会をめざして－	1	高校・予備校
魚のすみやすい川づくり	1	中学・高校
長～い橋が風で揺れる！？－揺れを小さくする技術とは？－	2	中学・高校・高専・予備校
総合的学問「建築」への招待	2	高校
データ科学でキケンを予測する－インフルエンザなどの感染流行や洪水などの自然災害を予測して危険から身を守る－	1	中学・高校・高専・予備校
災害で死なない心構え －東日本大震災の教訓－	2	小学・中学・高校・高専・予備校・一般
生物の創り出すナノ世界を覗き見る －生物を理解するための情報工学と物理－	3	小学・中学・高校・高専・予備校
体の健康を観察と工学計算で魅せます。 －血管、がん、肌、毛髪、歯骨、肝臓まで－	1	高校・高専・予備校
マイクロ波化学が化学を変える －電子レンジでグリーンイノベーション－	1	小学・中学・高校・高専・予備校
科学を装ったニセモノの世界 －疑似科学にだまされるな！－	3	中学・高校・高専・予備校
選択式クイズで簡単にわかる現代物理の不思議な世界 －時間とは？光とは？物質とは？原発は？宇宙は？－	1	高校・高専・予備校

	正多面体のはなしー折り紙でいろいろな立体をつくろうー	2	小学・中学・高校・高専・予備校
	数学好きになる簡単な公式ー難しい公式や易しい公式を覚えるとき、いつも「なぜ」という疑問をもつ習慣を付けること。すると不思議なことに数学は必ず易しくて面白い得意な科目に大化けする	4	中学・高校・高専・予備校
	工学部ってどんなところ？	2	高校・予備校
	レゴ®シリアスプレイ™を用いた自分探し入門ーレゴ®・ブロック？遊び？ー	1	小学・中学・高校・高専・予備校
平成27年度	もてる男の顔認証ーバイオセキュリティの世界ー	8	小学・中学・高校・高専・予備校・一般
	思考するコンピュータの実現に向けて	1	高校・高専
	情報工学のもたらす世界探訪ー情報工学部の可能性は∞ー	7	小学・中学・高校・高専・予備校
	情報工学のもたらす世界探訪ーコンピュータと人工知能ー	4	高校・高専
	技術者ってかっこよくなって、わるくないーアニメや映画にみる技術者の姿ー	8	小学・中学・高校・高専・予備校
	話せないことと、その支援方法	1	小学・中学・高校・高専・一般
	画像の引き算技術で見つかる悪性腫瘍ーセカンドオピニオンで見落としを減らす！ー	1	高校・高専・予備校
	どうして、いろいろ感じたり、動いたり出来るの？ー感覚・行動と脳の関係ー	1	高校・高専
	数学は貴方達を守ってくれる!!ー情報セキュリティと数学ー	2	高校・高専
	人間の見るしきみをしらべてロボットの見るしきみをつくってますー脳の視覚のしきみをコンピューターで実現ー	5	小学・中学・高校・高専・予備校・一般
	迷路とマイクロマウスー人工知能ってなにー	1	小学・中学・高校
	「鉄&鉄子」の楽しみー身近な電車の中の先端技術ー	1	高校・高専
	マイクロロボットの不思議ー消化管内走行カプセルー	1	高校・高専
	蝶の飛翔メカニズムと世界初！蝶ロボットの開発ー蝶が作る不思議な渦！何故、蝶は飛ぶことができるのか？ー	2	高校・高専・予備校
	見えない“流れ”を視る！ー何故、ボールは変化する？何故、昆虫は飛ぶことができる？ー	5	高校・高専・予備校
	人型レスキューロボットコンテストとプロジェクト型学習	5	中学・高校・高専・予備校
	生物の動きを真似たマイクロマシンと磁場ー先端医療デバイスからアミューズメントロボットまでー	7	高校・高専・予備校
	人のためのロボット	3	高校・高専
	ニューラルネットのロボットへの応用ー脳をまねてロボットを動かすはなしー	3	高校
	誰でも簡単！ブロックロボット製作ー簡単にロボットを作ってみたくないですか？ー	11	小学・中学・高校・高専・
	未来に挑戦 マイクロ加工技術ー電子機器、グリーンデバイス、医療への適用ー	1	小学・中学・高校・高専・予備校
	スマホもゲームもパソコンも自動車も集積回路 (IC) がざっしりーICってなに？半導体ってなに？ー	3	中学・高校・高専
	日本刀に学ぶマテリアル工学	1	小学・中学・高校・予備校
	医療に役立つ材料～バイオマテリアル～	1	高校・高専
	最先端のハイテクを支える錯塩の科学に触れよう！ー制がん剤から新幹線までー	2	中学・高校・高専・予備校

高品質・高性能なものづくりを支える新材料 ーサイエンスとエンジニアリングー	1	高校・高専・予備校
ものづくりで世界に羽ばたく ー分子の世界からヒトの身体までー	2	高校・高専・予備校
世界最強！日本磁石研究最前線 ー世界を変えた強力磁石。レアメタル危機を救え！ー	1	中学・高校・高専・予備校
超伝導体による浮上実験 ー超伝導体と磁石はどう違うか？ー	16	小学・中学・高校・高専・予備校
電気のいろいろな作り方 ー身近なもので電気をつくろうー	2	小学
再生可能エネルギー利用の今とこれから ー地球環境の視点からー	4	小学・中学・高校・予備校
マテリアルの資源とリサイクル ー持続型循環社会をめざしてー	1	高校・予備校
エコポ・ワークショップ！植木鉢から学ぶ身近な自然と日本の文化 ー自分でデザインした植木鉢をつくって植物を育てようー	1	小学・中学・高校・高専・予備校・一般
魚のすみやすい川づくり	1	中学・高校
長～い橋が風で揺れる！？ ー揺れを小さくする技術とは？ー	1	高校・高専
災害で死なない心構え ー東日本大震災の教訓ー	3	小学・中学・高校・高専・予備校・一般
生物の創るナノ世界 ー顕微鏡と情報工学が魅せる世界ー	1	小学・中学・高校・高専・予備校
観察と物理計算で明かす体の不思議 ー皆さんの血流、がん増殖、肌の代謝、再生医療までー	4	中学・高校・高専・予備校・一般
電子レンジで化学する？！ ー電磁波エネルギー利用のグリーンテクノロジーー	1	小学・中学・高校・高専・予備校
宇宙とは何か？時間とは何か？人間とは何か？	2	高校・高専・予備校
相対性理論と4次元時空間ーアインシュタインが目指したものー	1	高校・高専・予備校
選択クイズで簡単にわかる現代物理の不思議な世界 ー時間とは？光とは？物質とは？原発は？宇宙は？ー	6	中学・高校・高専・予備校・一般
正多面体のはなし ー折り紙でいろいろな立体をつくろうー	1	小学・中学・高校・高専・予備校
数学好きになる簡単な公式ー難しい公式や易しい公式を覚えるとき、いつも「なぜ」という疑問をもつ習慣を付けること。すると不思議なことに数学は必ず易しくて面白い得意な科目に大化けするー数学を生涯の良き友とする極意の秘伝ー	3	中学・高校・高専・予備校
工学部ってどんなところ？	2	高校・予備校
レゴ®シリアスプレイ™を用いた自分探し入門 ーレゴ®・ブロック？遊び？ー	2	小学・中学・高校・高専・予備校

大学見学時の模擬授業含む

### 5. 1. 5 情報公開

大学院工学研究院・工学府・工学部の情報公開の実施状況を表5. 1. 5に示す。

表 5. 1. 5 各種情報公開の現状

現在公開（公表） している情報等	編集方針	年間発行回数、 発行時期	公開・情報提供先	編集組織の名称
大学院工学研究院・工学府・工学部自己点検・評価報告書	大学院工学研究院・工学府・工学部とその関連部局における自己点検・評価を行い、その結果を公表する。	1回 2017年3月	大学公式ホームページ 上で、学内外へ公開	大学院工学研究院 部局評価委員会



表 5. 2. 2 外国人留学生（学科別・専攻別）在学状況一覧

（平成27年5月1日現在）（単位：人）

所 属  区 分	機械知能工学科			建設社会工学科			電気電子工学科			応用化学科 マテリアル工学科		総合システム工学科	合 計
	機械知能工学専攻			建設社会工学専攻			電気電子工学専攻			物質工学専攻		先端機能システム工学専攻	
	機 械 工 学 コ ー ス	宇 宙 工 学 コ ー ス	知 能 制 御 工 学 コ ー ス	建 築 学 コ ー ス	地 域 環 境 デ ザ イ ン コ ー ス	都 市 再 生 デ ザ イ ン コ ー ス	シ ス テ ム エ レ ク ト ロ ニ ク ス コ ー ス	電 気 エ ネ ル ギ ー 学 コ ー ス	電 子 デ バ イ ス コ ー ス	応 用 化 学 コ ー ス （ 学 科 ）	マ テ リ ア ル 工 学 コ ー ス （ 学 科 ）		
博士後期課程	6	3	3	2			2	6	1	6	1	5	35
博士前期課程	4	2	4	4			2	1	0	5	3	14	39
学部生 2年生以上	2	3	1	0			0	0	0	1	1	0	8
学部生 1年生	2			1			0			0	0	0	3
研究生・聴講生	3			0			1			0	3	0	7
短期留学生	7			8			7			0	0	0	22
合 計	40			15			20			12	8	19	114

表 5. 2. 3 学生の海外派遣

年度	国名	交流協定校	派遣内容	派遣学生数 (単位:人)					備考
				工学部	工学府	情報工学部	情報工学府	生命体工学研究科	
23	アメリカ	オールド・ドミニオン大学	語学研修	8					
		クラークソン大学	短期留学				2		
	イギリス	サリー大学	短期留学				1		
			語学研修		7		4	1	
	フランス	国際宇宙大学	短期留学		2				派遣先: オーストラリア
オーストラリア	ウォロンゴン大学	語学研修				1			
24	韓国	韓国交通大学校	相互交流	13		1			
		昌原大学校	相互交流	8					
	オーストラリア	カーボン大学	語学研修				1		
		パース工科大学	交流協定				3		
	フランス	ロレーヌ大学	交流協定		1				
		サンテイエンス国立高等鉱山学院	短期留学		5				
	タイ	ADAMAS (THAILAND) CO., LTD.	インターンシップ				1		
		タマサート大学シリンドホン国際工学部	語学研修				1		
		キングモンクット工科大学	語学研修				1		
			短期留学				4	2	
	台湾	台湾科技大学	語学研修				1		
			短期留学					2	
			短期留学				3	1	
	トルコ	Gebze Institute of Technology	短期留学						1
			短期留学				6	1	
	インド	Nihon Technology Private Limited	インターンシップ				1		
	中国	デンソーソフトウェア上海 有限会社	インターンシップ					1	
	マレーシア	三井住友銀行	インターンシップ						1
	米国	ボートランド州立大学	語学研修				1		
			オールドドミニオン大学	語学研修	10				
クラークソン大学			短期研修				2	1	
ボートランド州立大学			語学研修				3		
英国	サリー大学	語学研修		7			5		
		ニューカッスル大学	語学研修				2		
		イーストアングリア大学	語学研修				3		
ニュージーランド	Massey University	短期留学						1	
	オークランド工科大学	語学研修				3			
カナダ	ビクトリア大学	語学研修				5			
	ブリティッシュ・コロンビア大学	語学研修				3			
25	フランス	航空宇宙高等学院	交流協定		1				
		サンテイエンス国立高等鉱山学院	短期派遣		5				
	ノルウェー	テレマーク大学	短期派遣	2					
	ドイツ	クラウスタール工科大学	短期派遣	3					
		ルール大学ボーフム	短期派遣						1
	韓国	昌原大学校	短期派遣	8					
		韓国交通大学校	相互交流	14					
		ハンバット大学	交流協定					3	
	米国	オールドドミニオン大学	語学研修	10					
			テキサス大学エルパソ校	交流協定		1			
			ボートランド州立大学	語学研修				2	
			クラークソン大学	交流協定				2	1
				短期派遣				2	2
			カリフォルニア大学	短期派遣					
	英国	Trial Engineering Inc.	インターンシップ				1		
	英国	サリー大学	語学研修		7			2	3
			イーストアングリア大学	語学研修				3	
タイ	キングモンクット工科大学	語学研修				2			
		短期派遣				2	2		

表5.2.3 学生の海外派遣

年度	国名	交流協定校	派遣内容	派遣学生数(単位:人)					備考
				工学部	工学府	情報工学部	情報工学府	生命体工学研究科	
25	マレーシア	プトラ大学	語学研修			4			
			交流協定					1	
			短期派遣	8				5	
		MSSC	短期派遣	5		5			
			国際シンポジウム		16		1	37	
			国際インターンシップ		10			21	
		UMW TOYOTA MOTOR SDN. BHD	インターンシップ		1		1		
	マレーシア工科大学	語学研修			1				
		交流協定					1		
	ベトナム	FPT大学	語学研修			1			
	ニュージーランド	クライストチャーチボリテック	語学研修			3			
		オークランド工科大学	語学研修			2			
	オーストラリア	ウーロンゴン大学	語学研修			5			
		アデレード大学	語学研修			1			
		モナシュ大学	語学研修			3			
		シドニー工科大学	短期派遣					1	
	カナダ	ビクトリア大学	語学研修			4			
ブリティッシュ・コロンビア大学		語学研修			1				
台湾	台湾科技大学	短期派遣			3	8			
	台湾中央研究院	短期派遣	7						
中国	陽明大学	短期派遣					2		
26	韓国	スンミョン女子大学	短期派遣	4	5				
		釜山大学校	短期派遣	3	2		3		
		昌原大学校	相互交流	11					
			短期派遣		4				
		ハンバット大学校	短期派遣				3		
	韓国交通大学校	相互交流	14						
	中国	香港科技大学	短期派遣		2				
		揚州大学	短期派遣	2	2				
		アジア太平洋航空宇宙技術国際シンポジウム2014	短期派遣		1				
		大連理工科大学	短期派遣					1	
	台湾	中央研究院	短期派遣	1	3				
		台湾科技大学	短期派遣	3	12				
		国立陽明大学	短期派遣					2	
	ベトナム	FPT大学	語学研修			2			
		FPT company	短期派遣			1	5		
		ベトナム科学技術アカデミー	短期派遣					2	
	タイ	キングモンクット工科大学	短期派遣	14	1	1	9		
			語学研修			3			
			交流協定			1			
	マレーシア	マレーシアプトラ大学	短期派遣	27	9	6		45	
			語学研修			4			
			交流協定			3			
		イオンマレーシア	インターンシップ	1	2		2		
		トヨタ	インターンシップ			1		1	
		トヨタ車体	インターンシップ	2			1	1	
		ミネベア	インターンシップ	2					
JETRO		インターンシップ				1			
キヤノン		インターンシップ	1		1				
トップサーモ製造		インターンシップ	1						
王子製紙		インターンシップ	2						
パナソニック	インターンシップ			3					
マレーシア工科大学	語学研修			2					
	短期派遣					1			
シンガポール	シンガポール国立大学	短期派遣					1		
インドネシア	バンドン工科大学	語学研修			2				
		短期派遣					1		

表5.2.3 学生の海外派遣

年度	国名	交流協定校	派遣内容	派遣学生数(単位:人)					備考
				工学部	工学府	情報工学部	情報工学府	生命体工学研究科	
26	インド	ラマン研究所	短期派遣					1	
	アルメニア・カザフスタン	アルメニア生物技術センター 抗感染症製薬研究所	トビタテ留学JAPAN				1		
	UAE	ドバイ	短期派遣		4				
	トルコ	イスタンブール工科大学	短期派遣					1	
		ゲブセ工科大学	短期派遣					1	
	イギリス	ケンブリッジ大学	インターンシップ		1				
		INTOロンドン	語学研修			3			
		イーストアングリア大学	語学研修			1			
		バリオット・ワット大学	短期派遣				1		1
		サリー大学	語学研修		10		1		1
	フランス	バリ高等機械工学院	短期派遣		2				
		サンティエヌ国立高等鉱山学院	短期派遣		5				
		航空宇宙高等学院	短期派遣		1				
		EFREI	短期派遣			1	1		
	ドイツ	クラウスタール工科大学	短期派遣	1	4				
		ゲーテ大学	短期派遣		1				
		ルール大学	短期派遣					1	
	イタリア	サレント大学	短期派遣		4				
	スペイン	株式会社バロンQ	短期派遣					1	
	オーストリア	グラーツ大学	短期派遣					1	
	デンマーク	デンマーク工科大学	短期派遣		1				
	ノルウェー	テレマーク大学	短期派遣	3	2				
	アメリカ	JAMCO(ボーイング社)	インターンシップ	3	1	1			
		テキサス大学エルパソ校	短期派遣	17	3				
		カリフォルニア州立大学	インターンシップ		7				
		テネシー大学	インターンシップ		2				
		ポートランド州立大学	語学研修			1			
		クラークソン大学	技術交流				1	3	
			短期派遣				1	3	
		ニューヨーク市立大学	短期派遣					4	
		SynTest Technologies Inc	短期派遣					3	
		ハーバード大学	技術大会参加			3	3		
		カリフォルニア大学	短期派遣						1
		ハワイ大学	短期派遣						1
		マチューセツ工科大学	短期派遣						1
		サンディエゴ	技術大会参加						4
		オールドドミニオン大学	語学研修	10					
	カナダ	ビクトリア大学	語学研修			6			
		ブリティッシュコロンビア大	語学研修			2			
	ブラジル	ジョアンペソア	技術大会参加			1		3	
	オーストラリア	アデレード大学	語学研修			1			
		カーボン大学	語学研修			2			
シドニー工科大学		短期派遣						1	
	語学研修				1				
ニュージーランド	クライスターボリテクニク	語学研修			1				
	オークランド工科大学	語学研修			5				
	カンタベリー大学	語学研修			1				
	ユニテック工科大学	短期派遣					1		
27	韓国	釜山大学校	短期派遣	4	11		3	1	
		韓国交通大学校	学生交流	13					
		昌原大学校	短期派遣	6	4	1	2		
		韓国電子部品研究院	短期派遣	6	1	1		1	
		ハンバット大学校	短期派遣				1		
		慶北大学校	短期派遣					1	
	中国	揚州大学	短期派遣	4	1				
		東北大学	短期派遣		6				
		清華大学	短期派遣				3		
		合肥	技術大会参加					6	

表 5. 2. 3 学生の海外派遣

年度	国名	交流協定校	派遣内容	派遣学生数 (単位:人)					備考
				工学部	工学府	情報工学部	情報工学府	生命体工学研究科	
27	台湾	台湾科技大学	短期派遣			6			
			短期派遣				11		
		陽明大学	短期派遣					2	
		台北科技大学	短期派遣	10	5	3		2	
		台湾大学	短期派遣	15	7				
	ベトナム	FPT大学	短期派遣			5			
	タイ	キングモンクット工科大学	短期派遣	10		1	10		
	マレーシア	マレーシアブトラ大学	短期派遣	15	6	8	6	56	
		マレーシア工科大学	短期派遣	1		4	2		
		マレーシア日系企業	インターンシップ	15	5	3	9	1	
	インドネシア	バンドン工科大学	短期派遣			1			
	インド	インド工科大学	短期派遣					3	
		アンナン大学	短期派遣					1	
	イギリス	サリー大学	語学研修		8		3	1	
		INTOロンドン	語学研修			2			
		マンチェスター大学	短期派遣					1	
	フランス	サンテティエヌ国立高等鉱山学院	短期派遣		3			2	
		パリ高等機械工学院	短期派遣		1				
		航空宇宙高等学院	短期派遣		1				
		国立科学研究センター研究所	短期派遣		1				
		ボルドー大学	短期派遣					1	
	ドイツ	クラウスタール工科大学	短期派遣	3	3				
		シュトゥットガルト大学	短期派遣				4		
	イタリア	サレント大学	短期派遣		3				
	ノルウェー	テレマーク大学	短期派遣		5				
	アメリカ	オールドドミニオン大学	語学研修	10					
		ハワイ	短期派遣					4	
		テキサス大学エルパス校	短期派遣	6	5				
		南カルフォルニア大学	短期派遣	9	4				
		ヒューストン大学	短期派遣		1				
		ポートランド州立大学	語学研修			2			
		カブランパークレー校 (語学学校)	語学研修			1			
		ニューヨーク市立大学	短期派遣			1	3		
		ハーバード大学	技術大会参加			6	6		
		スタンフォード大学	短期派遣				4		
		クラークソン大学	短期派遣			2	3		
		サンディエゴ	技術大会参加					7	
	カナダ	ビクトリア大学	語学研修			1			
		ブリティッシュコロンビア大学	語学研修			3			
		トロント	短期派遣				2		
CSLI (語学学校)		短期派遣			1				
オーストラリア	クイーンズランド大学	語学研修			2				
	UOW大学	語学研修			1				
ニュージーランド	カンタベリー大学	語学研修			3				
	オークランド工科大学	語学研修			1				
	ウィルキンソン語学学校	語学研修			1				
	ユニテック工科大学	短期派遣					3		

## 6. おわりに

この「現状と課題」は、本学がより良い方向に発展行くために、知恵を絞る際の拠り所になるものであり、この度も「現状と課題」を発行することができますことを大変嬉しく思います。関係者からの意見を収集・整理することで現状を確認し、それを分析し課題を見つけることは、改善・進歩のために必要なプロセスです。本学においても、「現状と課題」を通じた現状分析によって対策を検討し、それを講じることによって、多くの項目で改善が成されてきました。成果がすぐに現れにくい項目もありますが、アンケート結果を真摯な姿勢で受けとめるべき項目も数多くあります。また、閉塞感を打破するために大胆な改善は必要ですが、「目新しさは無くとも、本学がこれまで評価され、良しとされてきた部分」を、勇気を持って残すことも大切だと考えます。この度、「現状と課題」をまとめるにあたり、それらの舵取りの難しさを改めて考えさせられました。最後に、平成27年度版「現状と課題」を纏めるに当たり協力頂きました職員の方々、またアンケートに答えて頂いた本学卒業・修了生ならびに関係者に御礼申し上げます。何卒、本学の更なる持続的な発展のために、今後ともご協力くださいますようお願い申し上げます。

佐久間 治（大学院工学研究院部局評価委員会委員長）

2017年（平成29年）3月

---

平成28年度 大学院工学研究院部局評価委員会委員

佐久間 治	工学研究院 教授【委員長】
三谷 康範	工学研究院 教授【副委員長】
黒木 秀一	工学研究院 教授
秋山 哲也	工学研究院 教授
鈴木 芳文	工学研究院 教授
鈴木 智成	工学研究院 教授
葉石 研次	工学部事務長

---